

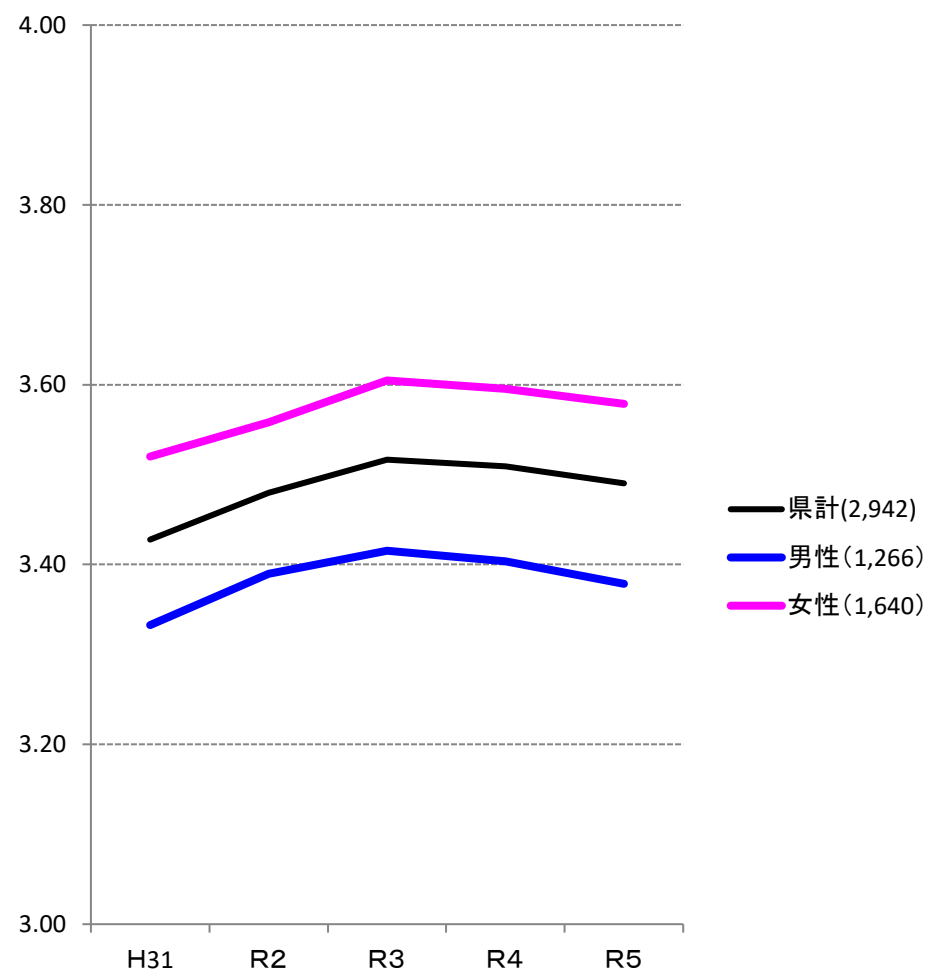
「令和5年県の施策に関する県民意識調査」属性別分析結果

資料6

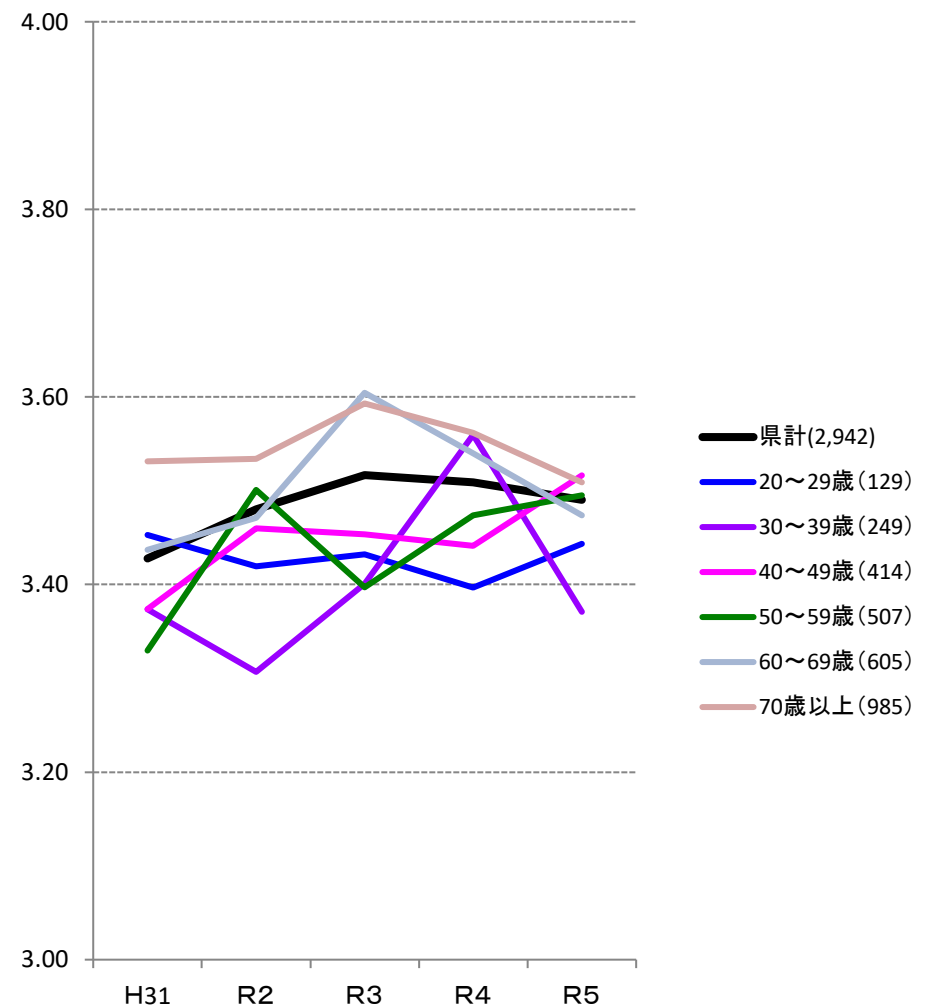
【県計】【主観的幸福感】あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

- ・主観的幸福感の平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。
 - ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、性別、職業別、世帯構成別、子どもの数別、居住年数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
- 性別では、女性が高く男性が低かった。職業別では、学生+その他が高く、60歳以上の無職が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子どもの数別では、子3人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県南広域振興圏が高く、沿岸広域振興圏が低かった。

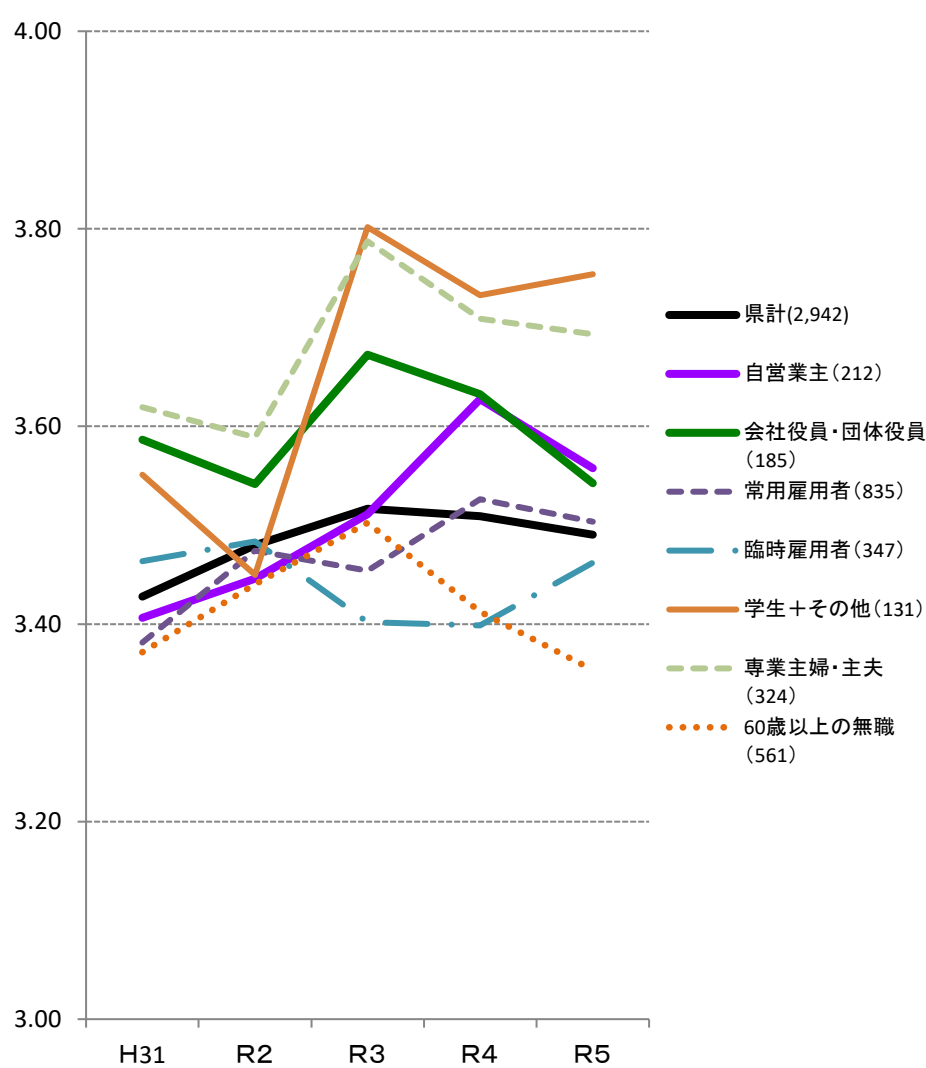
【***】 主観的幸福感(性別)



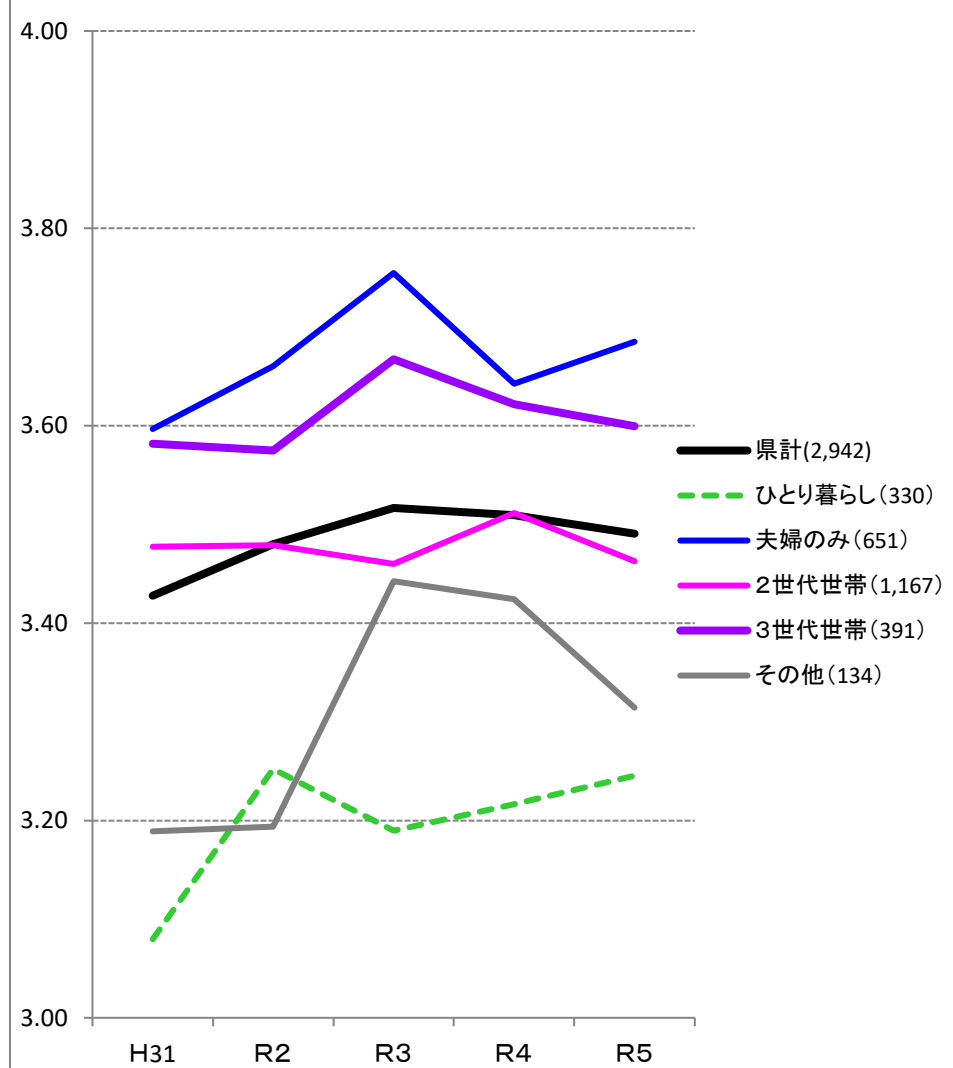
【-】 主観的幸福感(年代別)

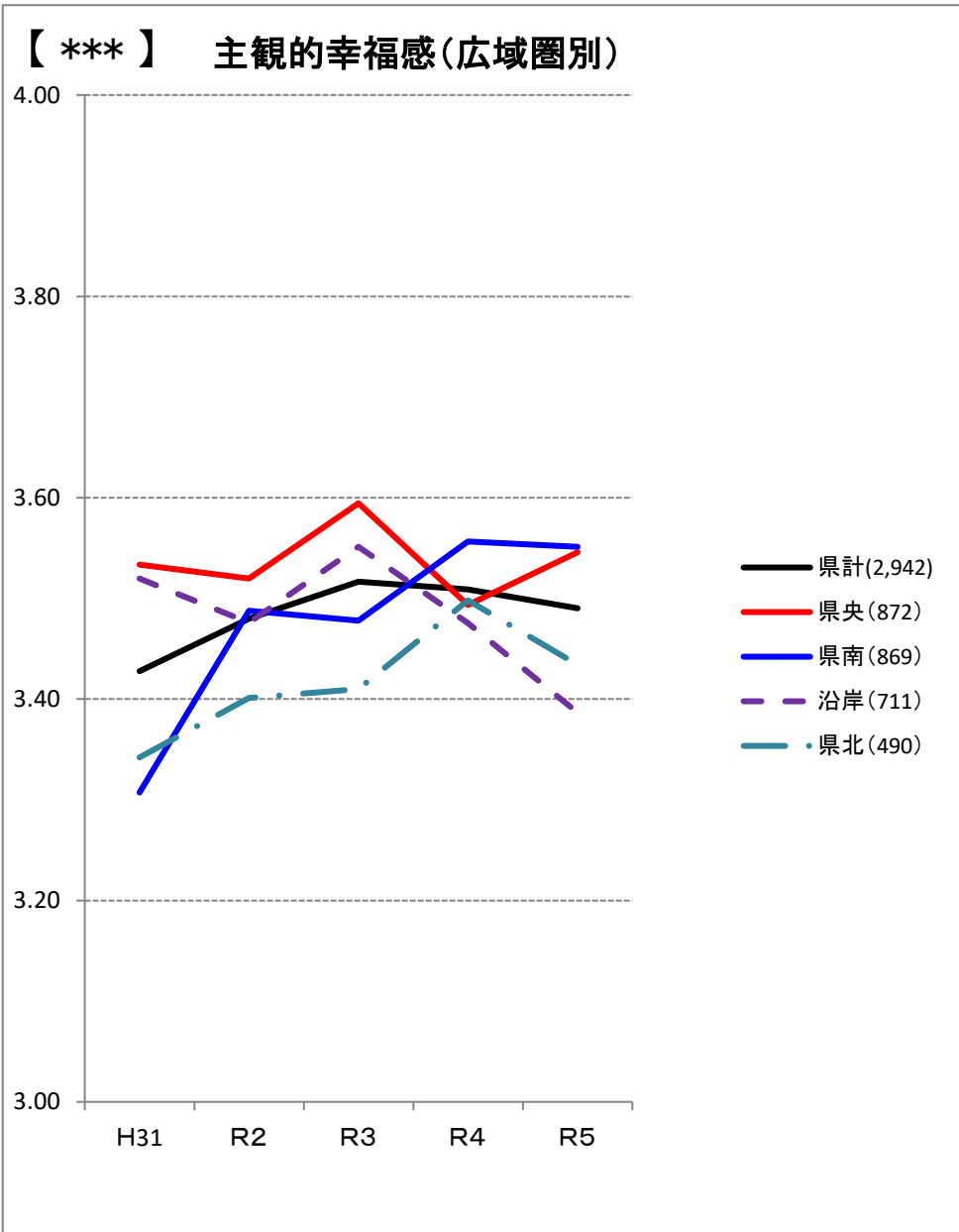
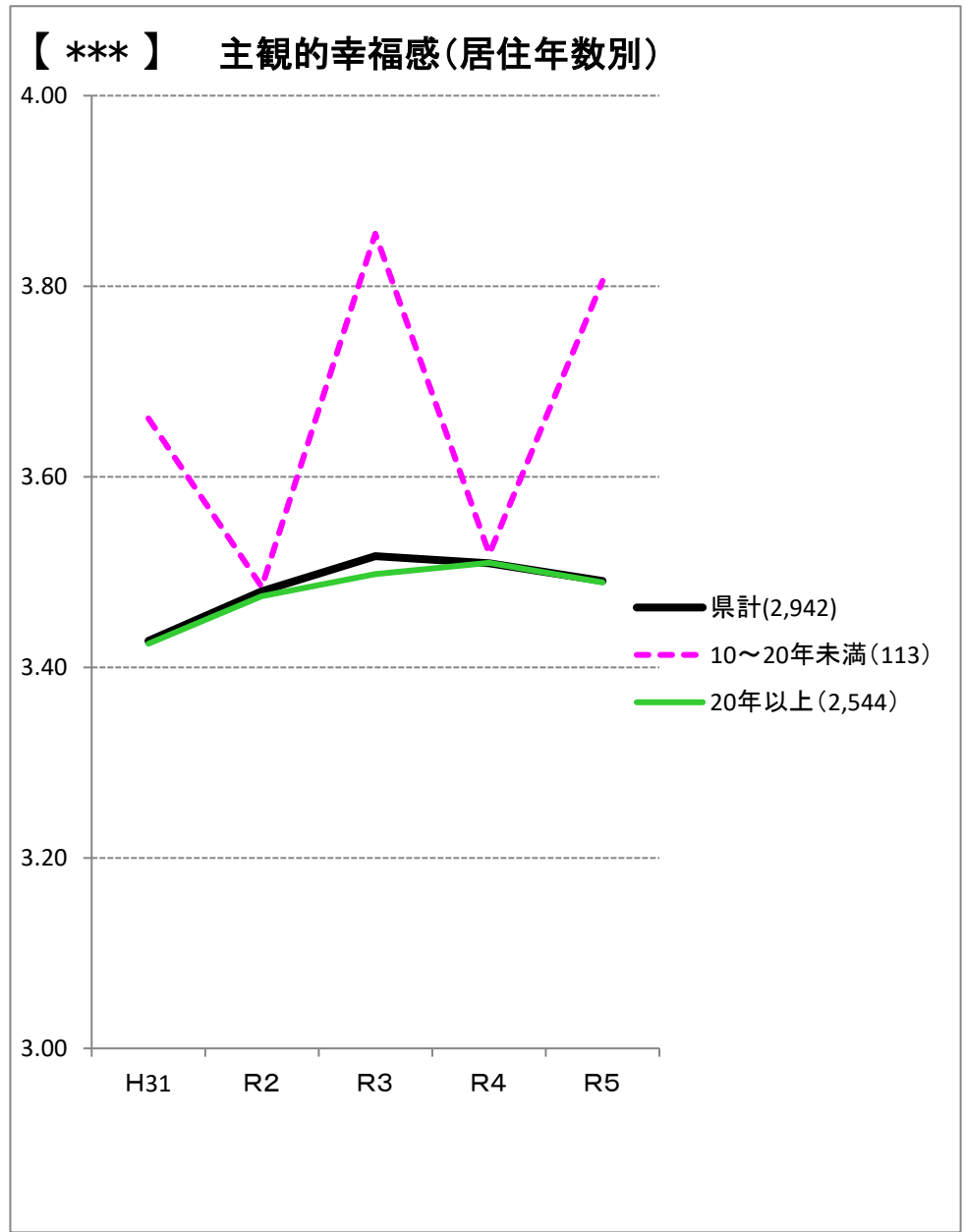
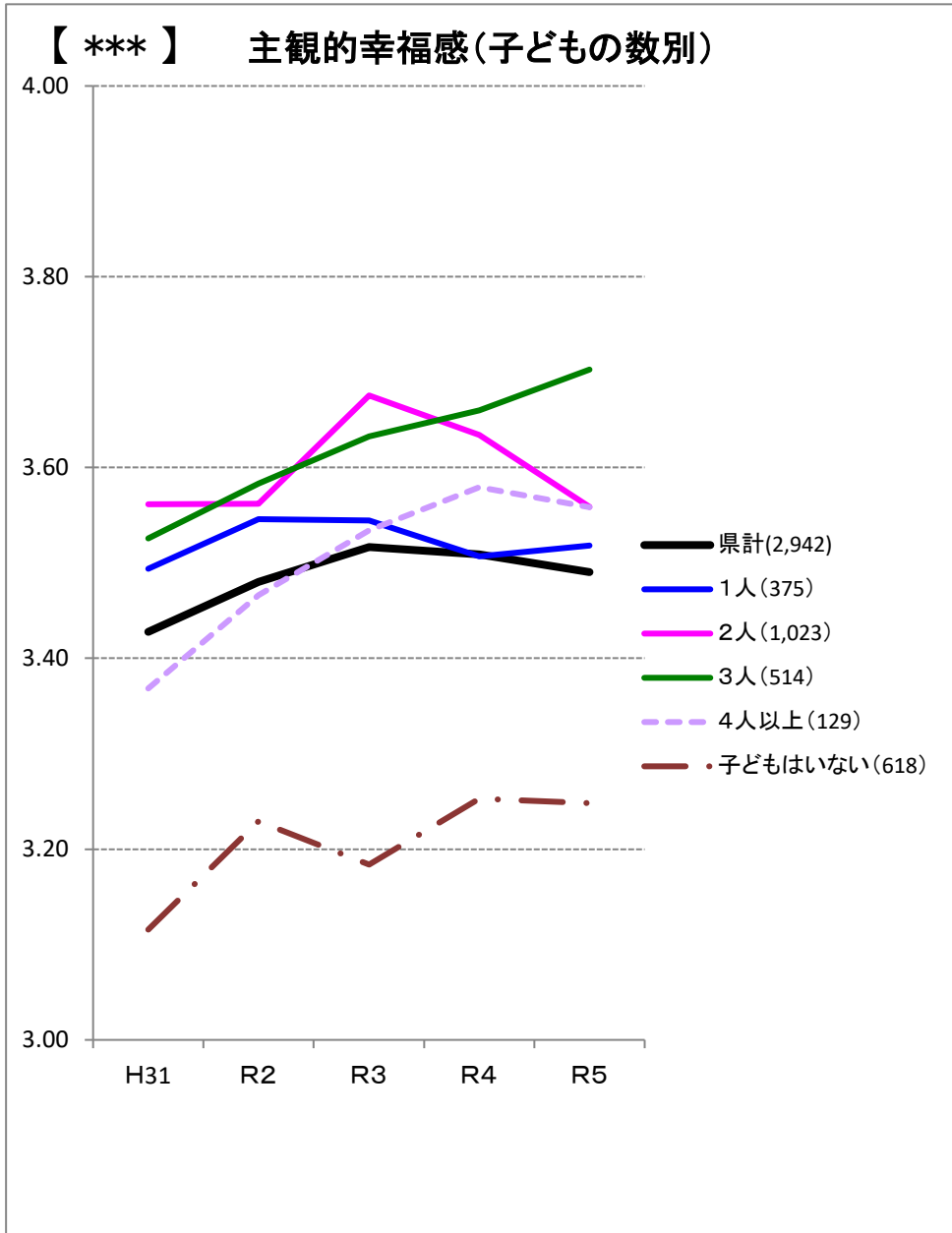


【***】 主観的幸福感(職業別)



【***】 主観的幸福感(世帯構成別)





「主観的幸福感(平均)について」

幸福感平均の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じている」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

■凡例■

グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

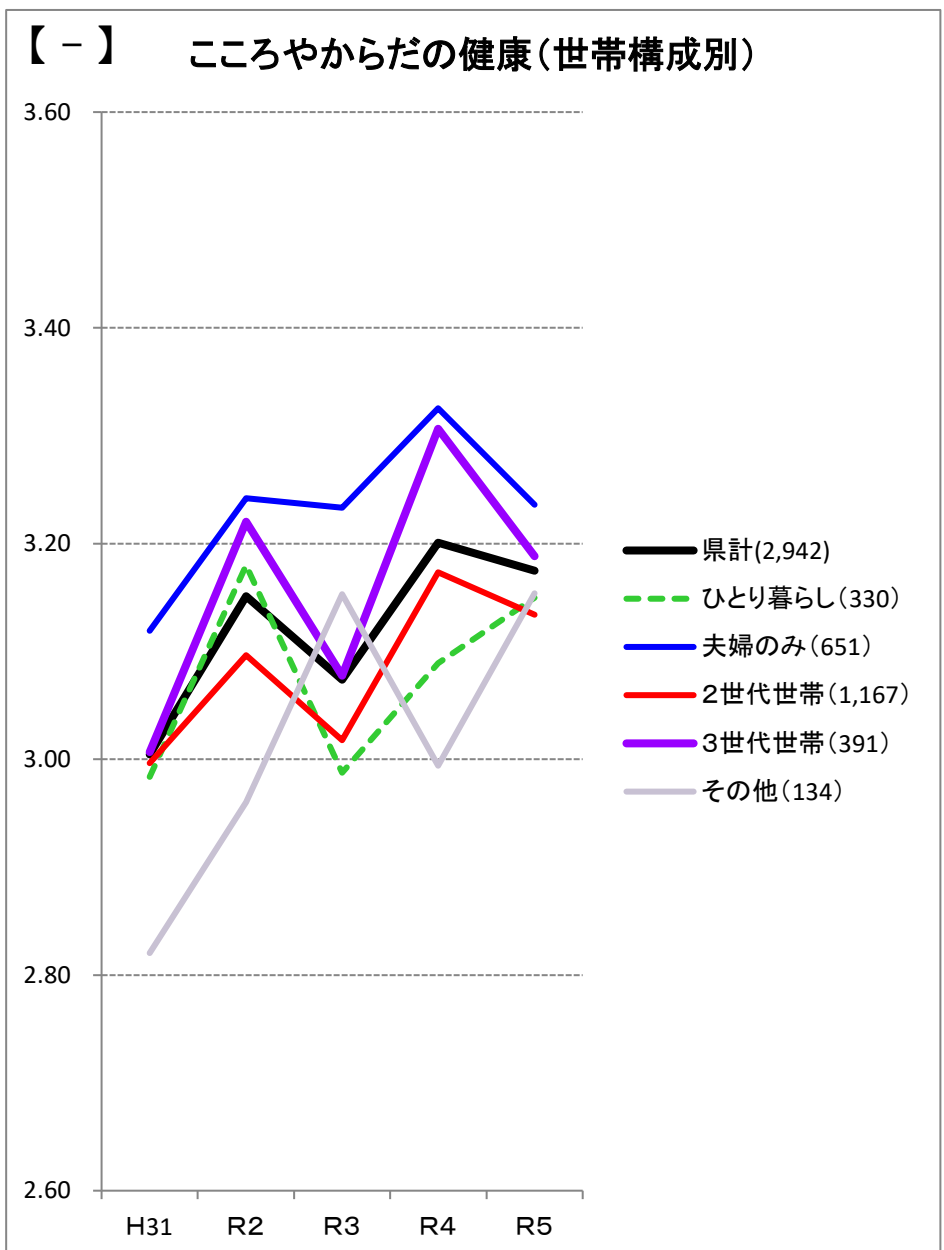
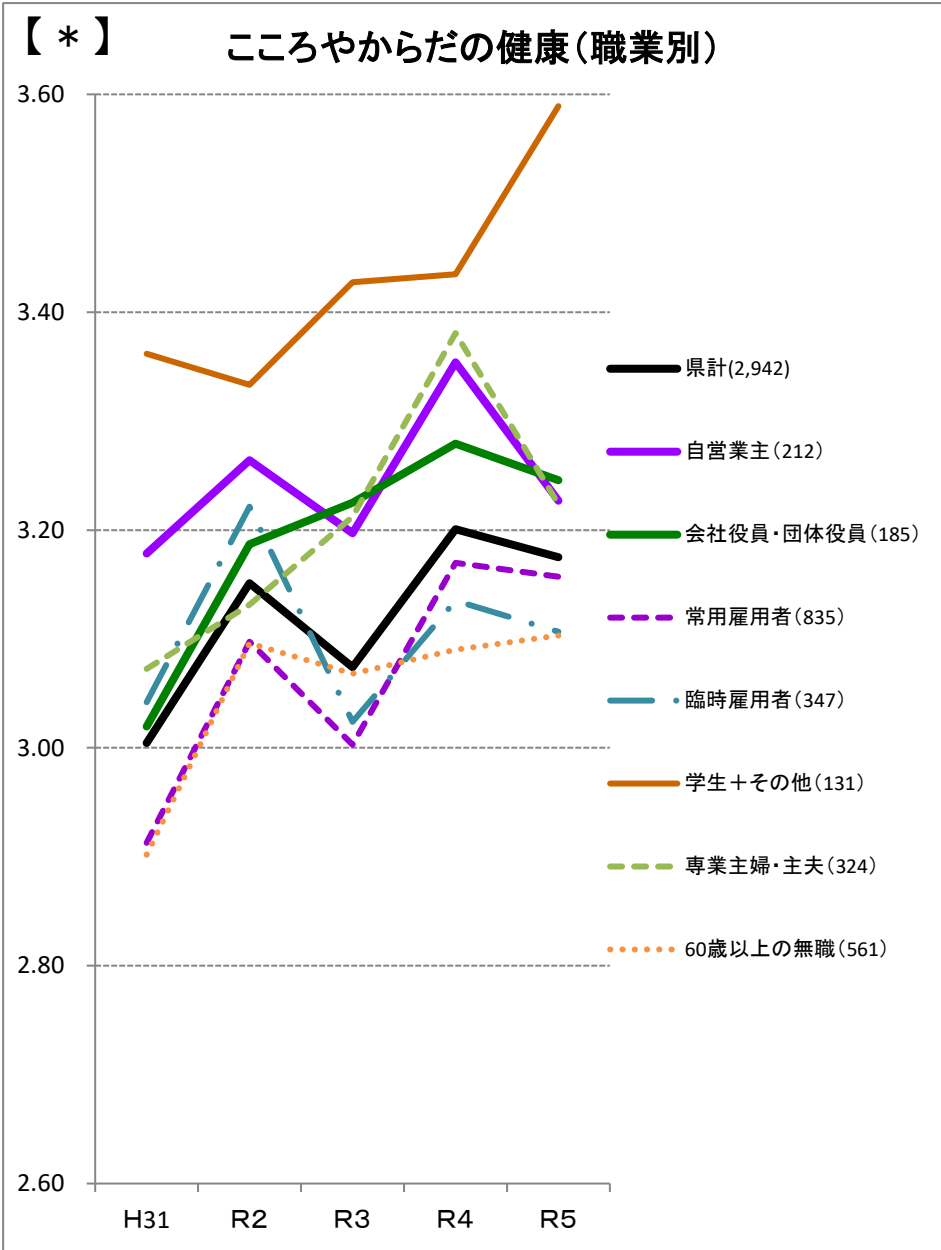
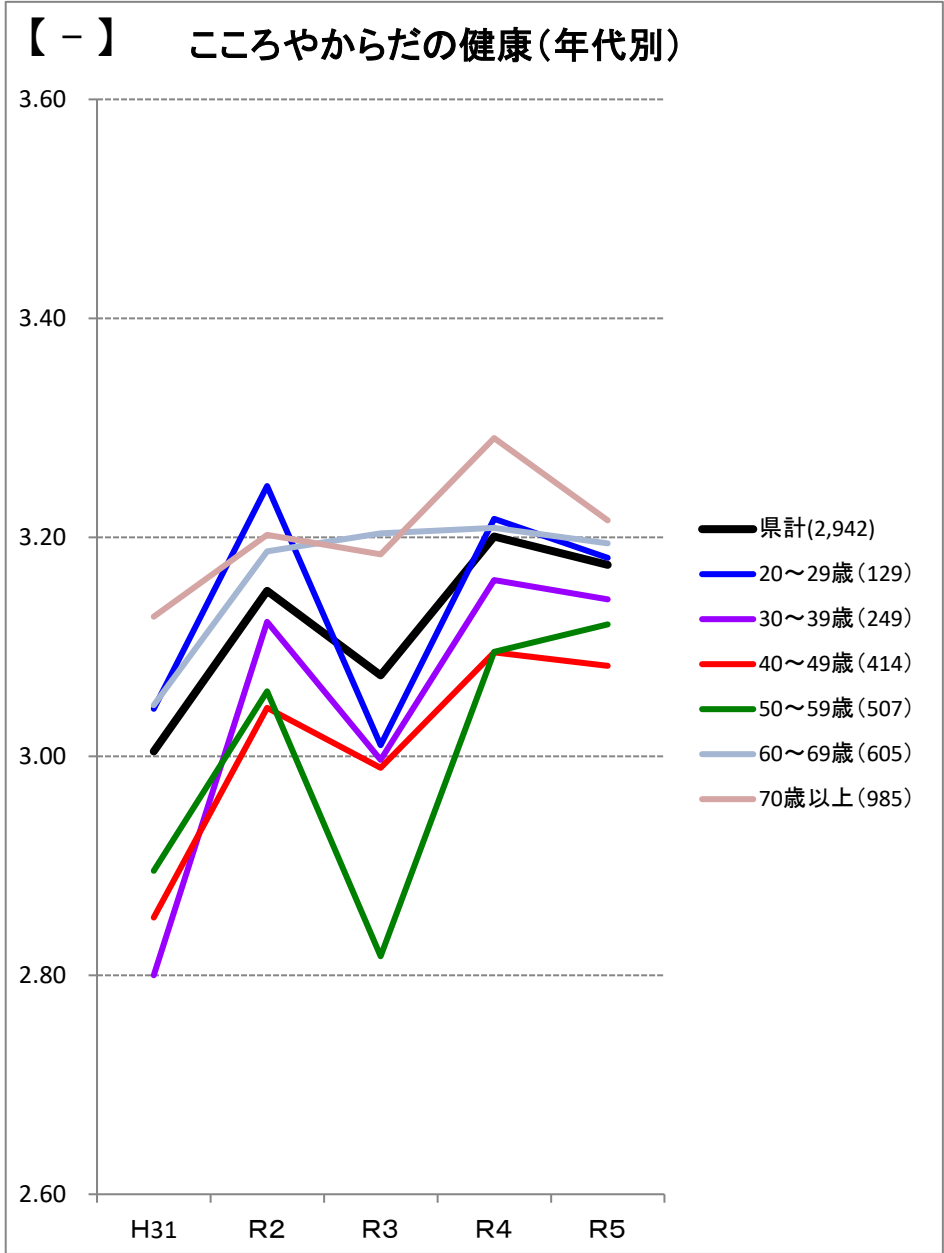
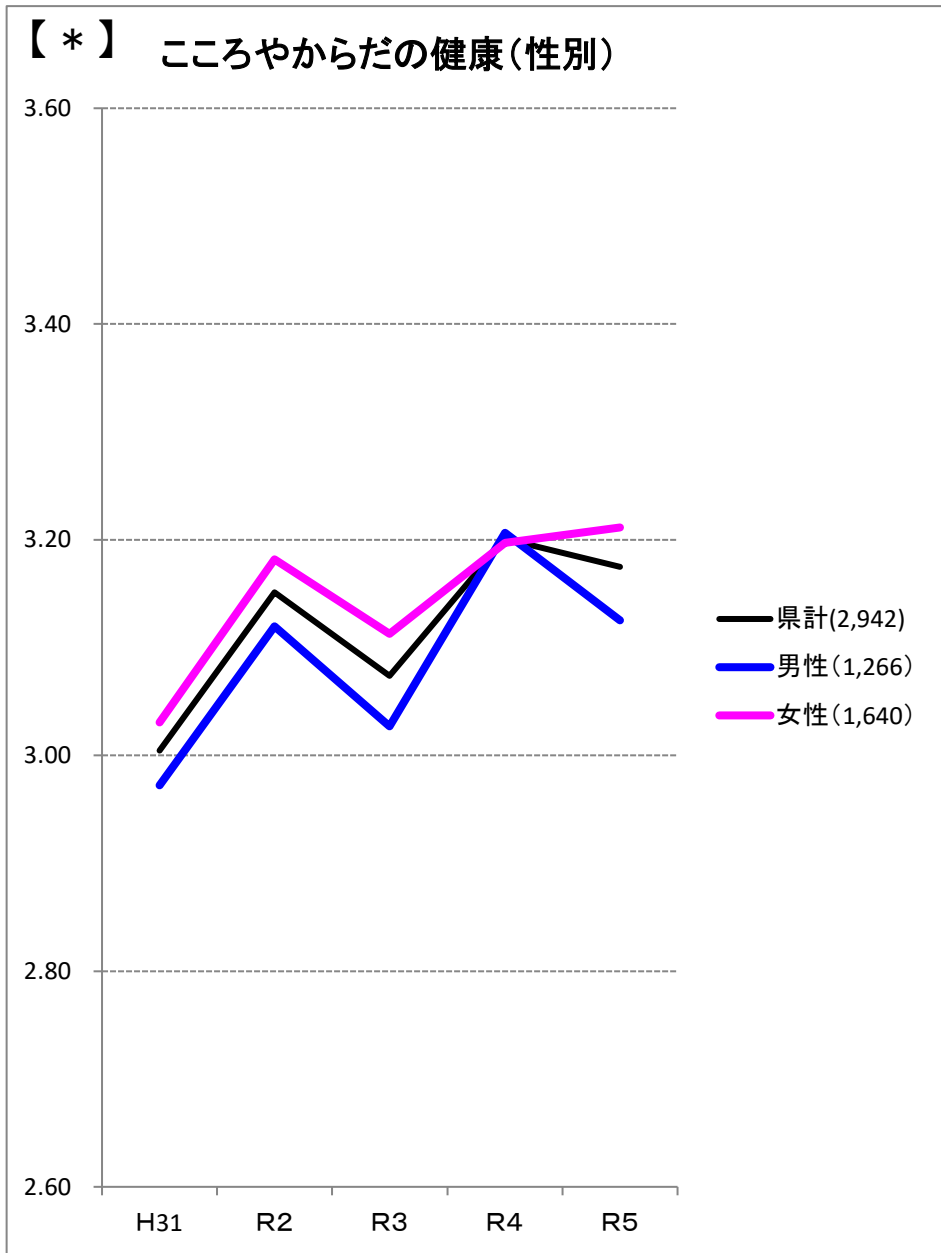
【-】差が認められない

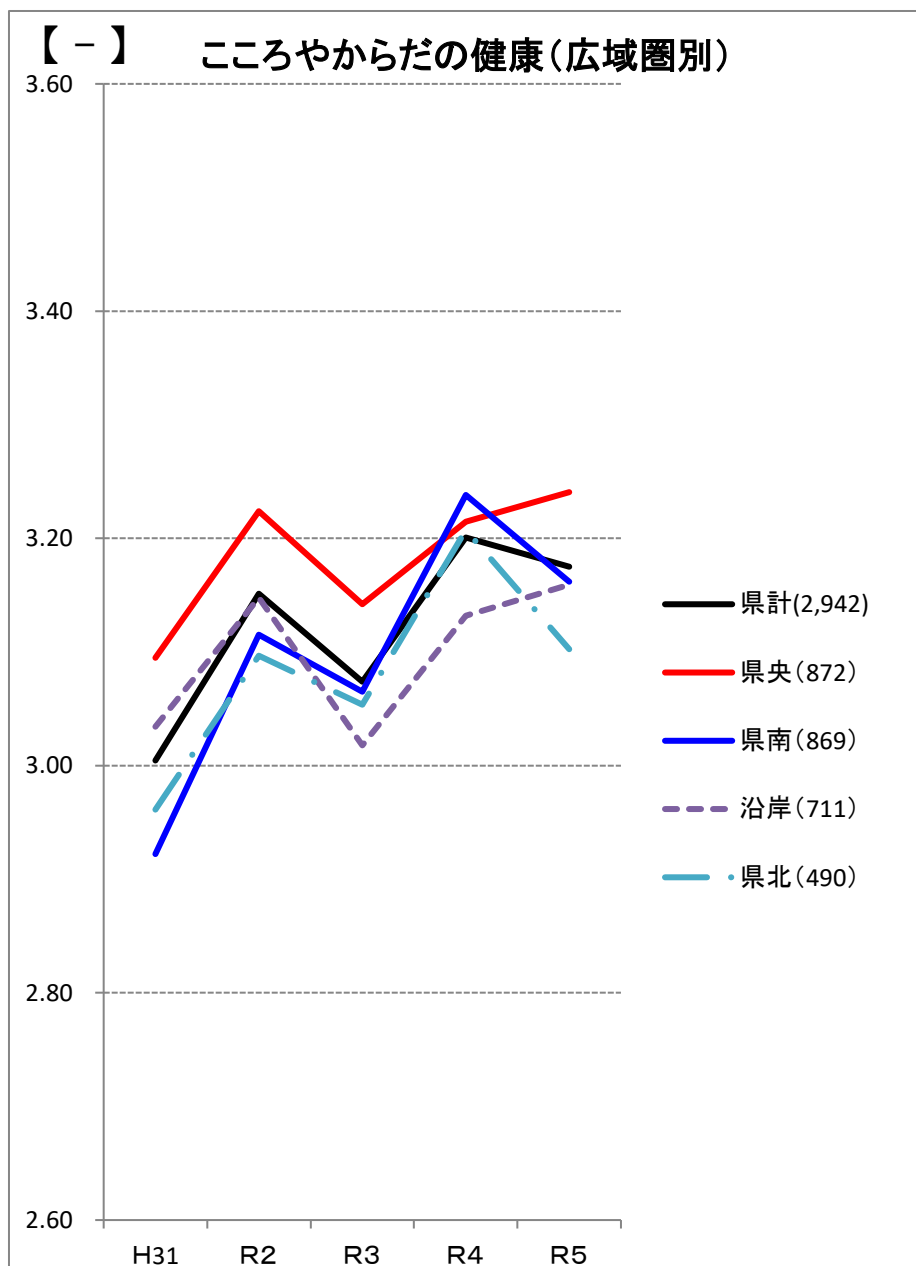
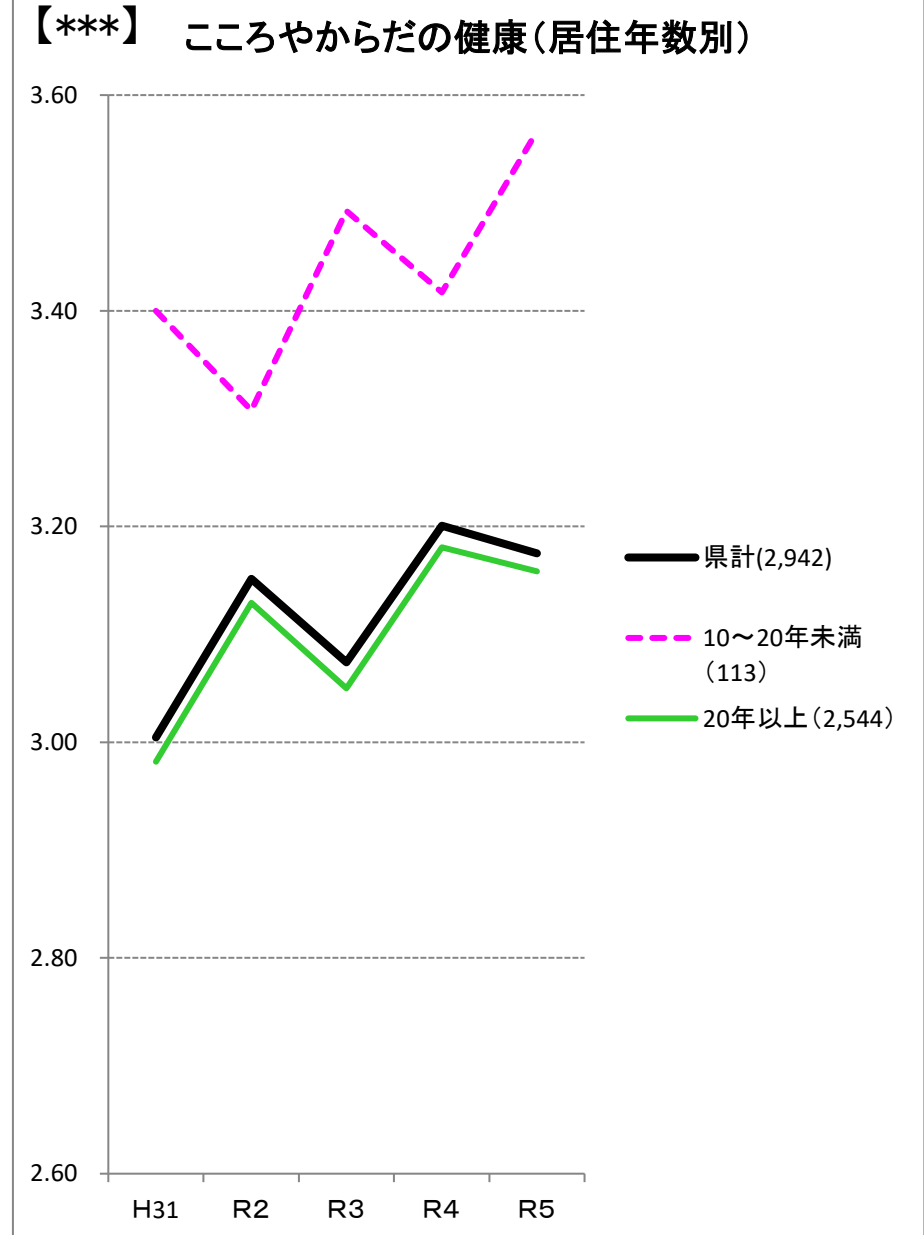
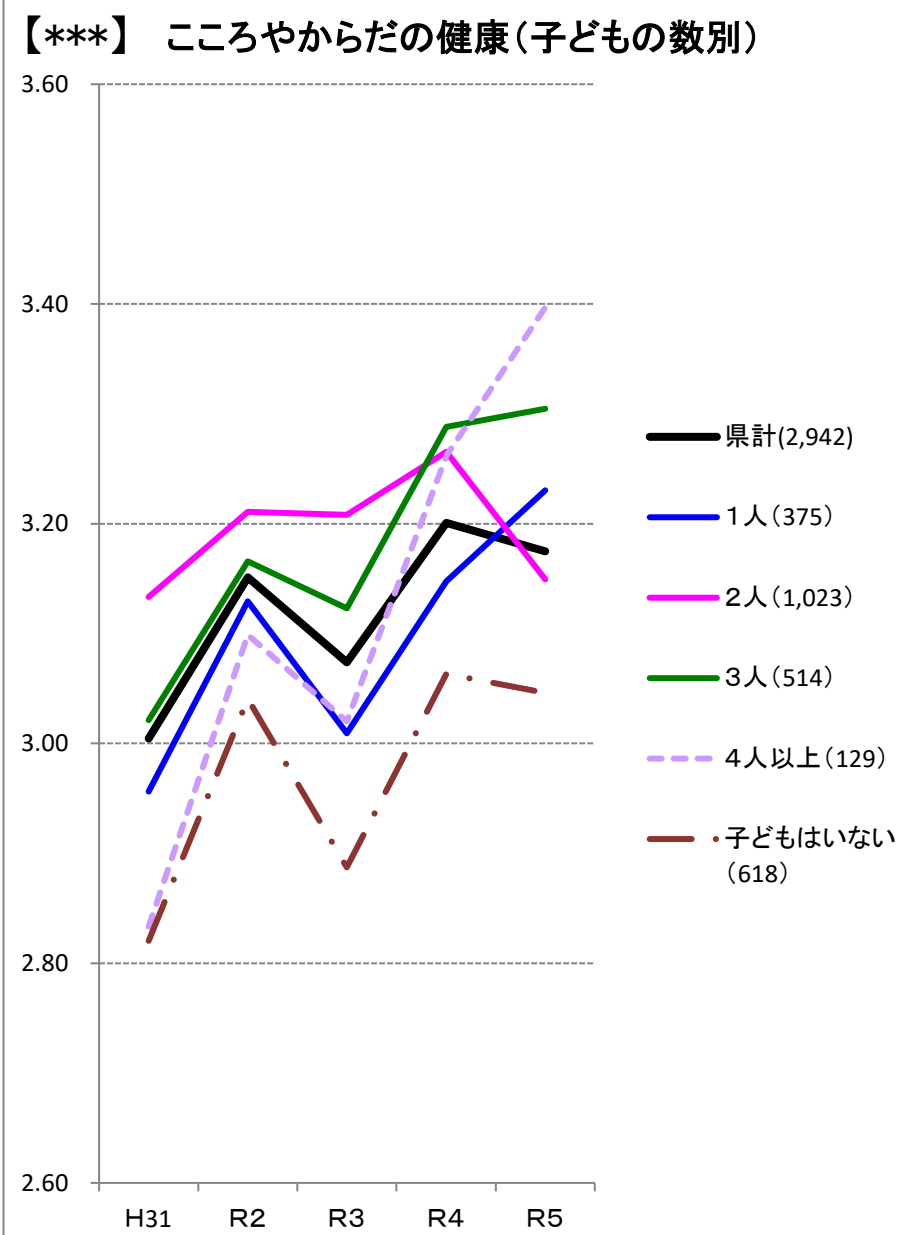
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・性別の「その他」
- ・年代の「18～19歳」
- ・職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・居住年数「10年未満」

【県計】【分野別実感】①こころやからだの健康だと感じますか。

- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、子どもの数別及び居住年数別で有意な差が認められた。
子どもの数別では、子4人以上が高く、子0人が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。





「分野別実感の属性別の実感平均について」

実感平均の算出方法

「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

■ 凡例 ■

グラフ左上の＊は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【－】 差が認められない

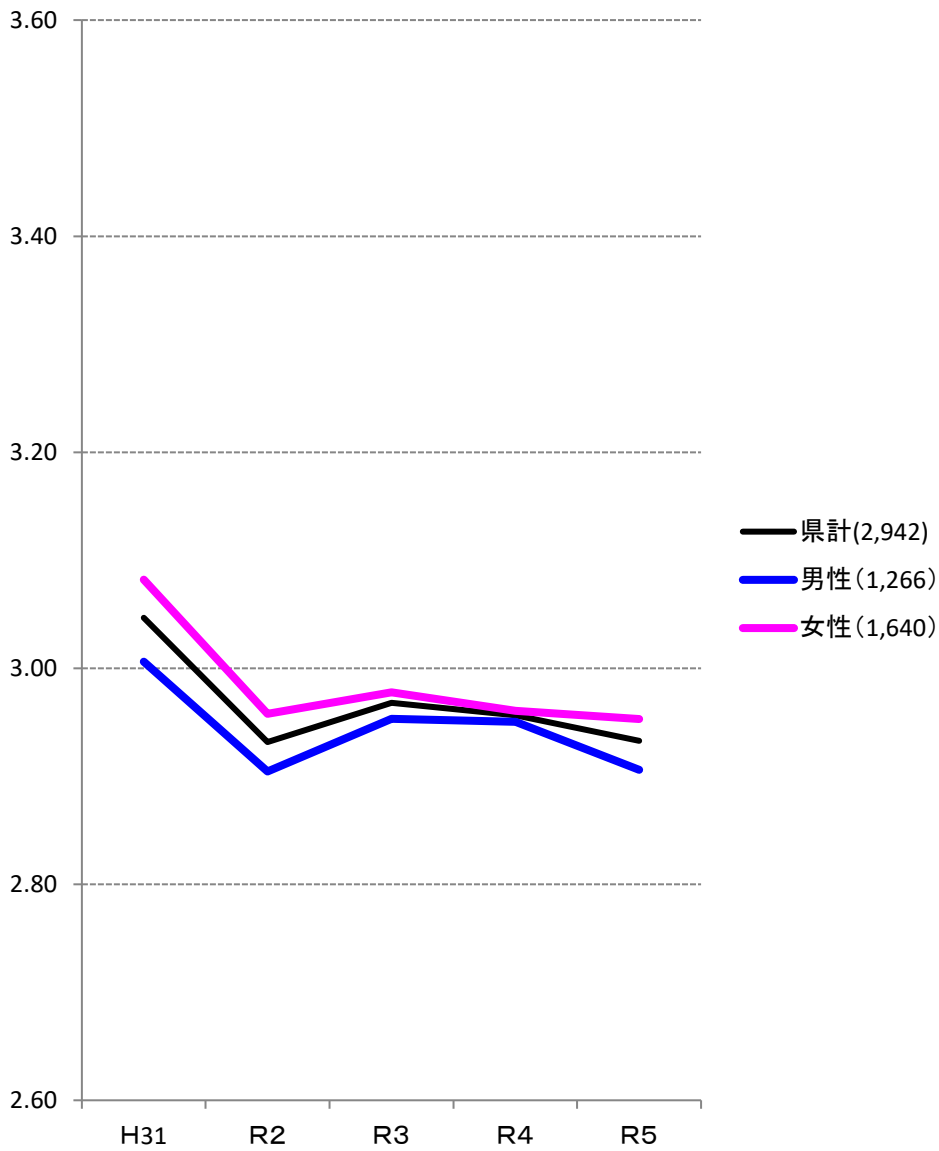
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

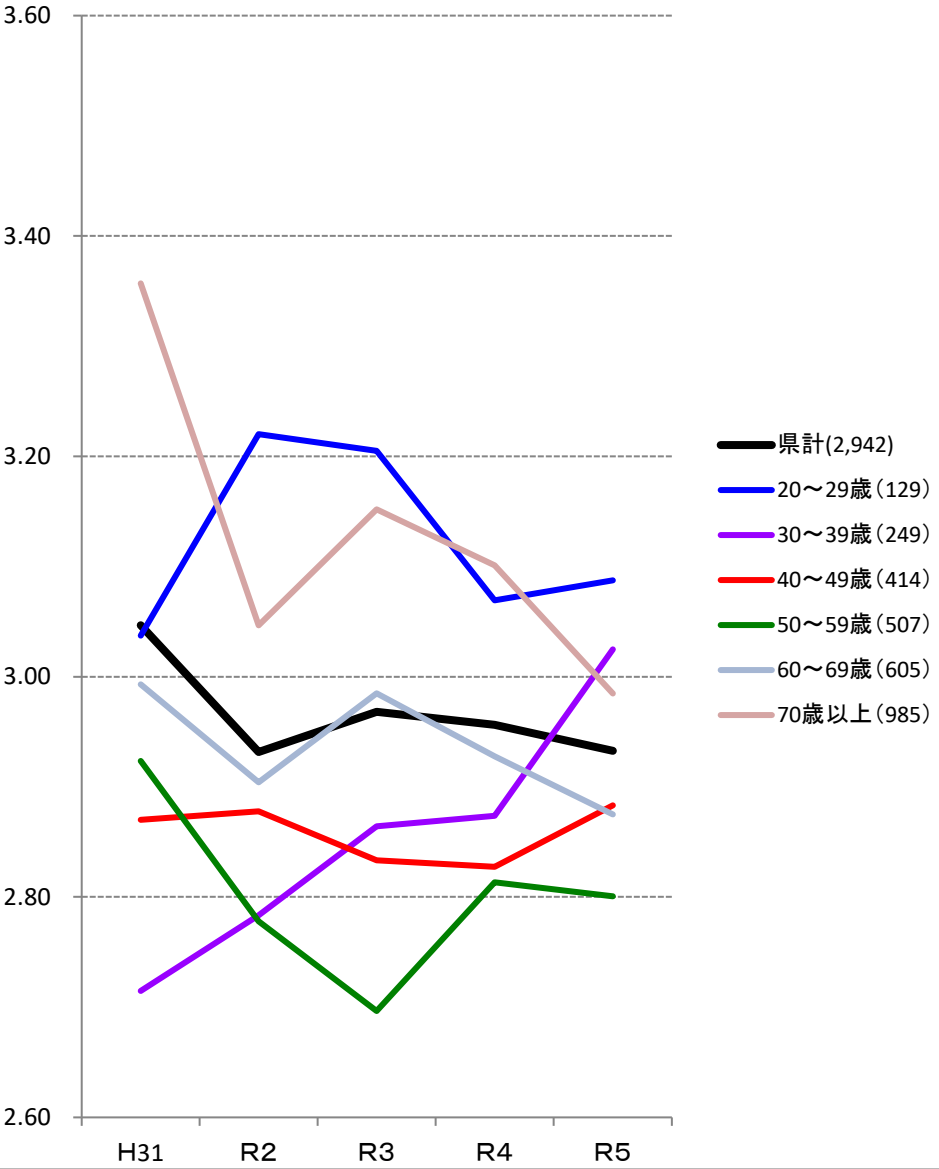
【県計】【分野別実感】②余暇が充実していると感じますか

- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、居住年数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
年代別では、20歳代が高く、50歳代が低かった。職業別では、学生+その他が高く、自営業主が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、沿岸広域振興圏が低かった。

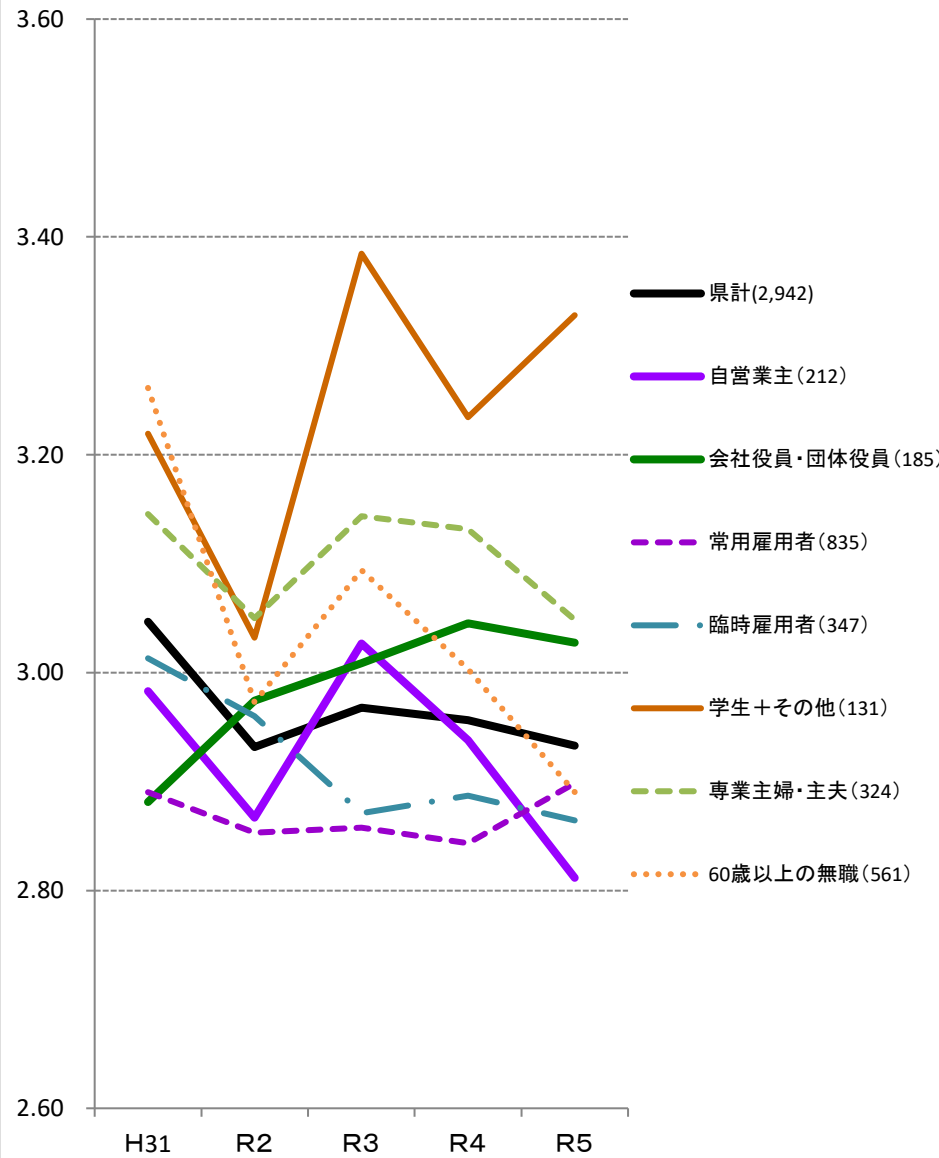
【－】 余暇の充実(性別)



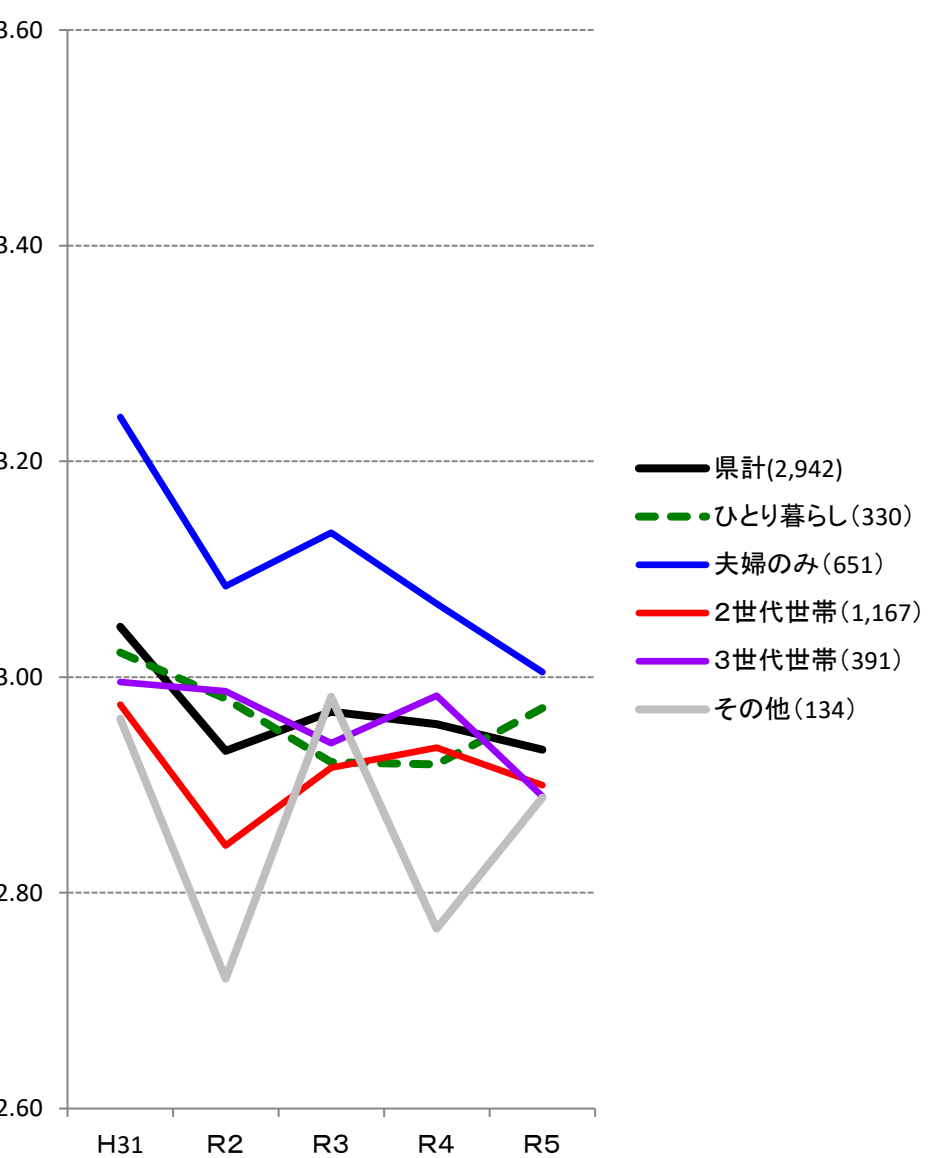
【**】 余暇の充実(年代別)

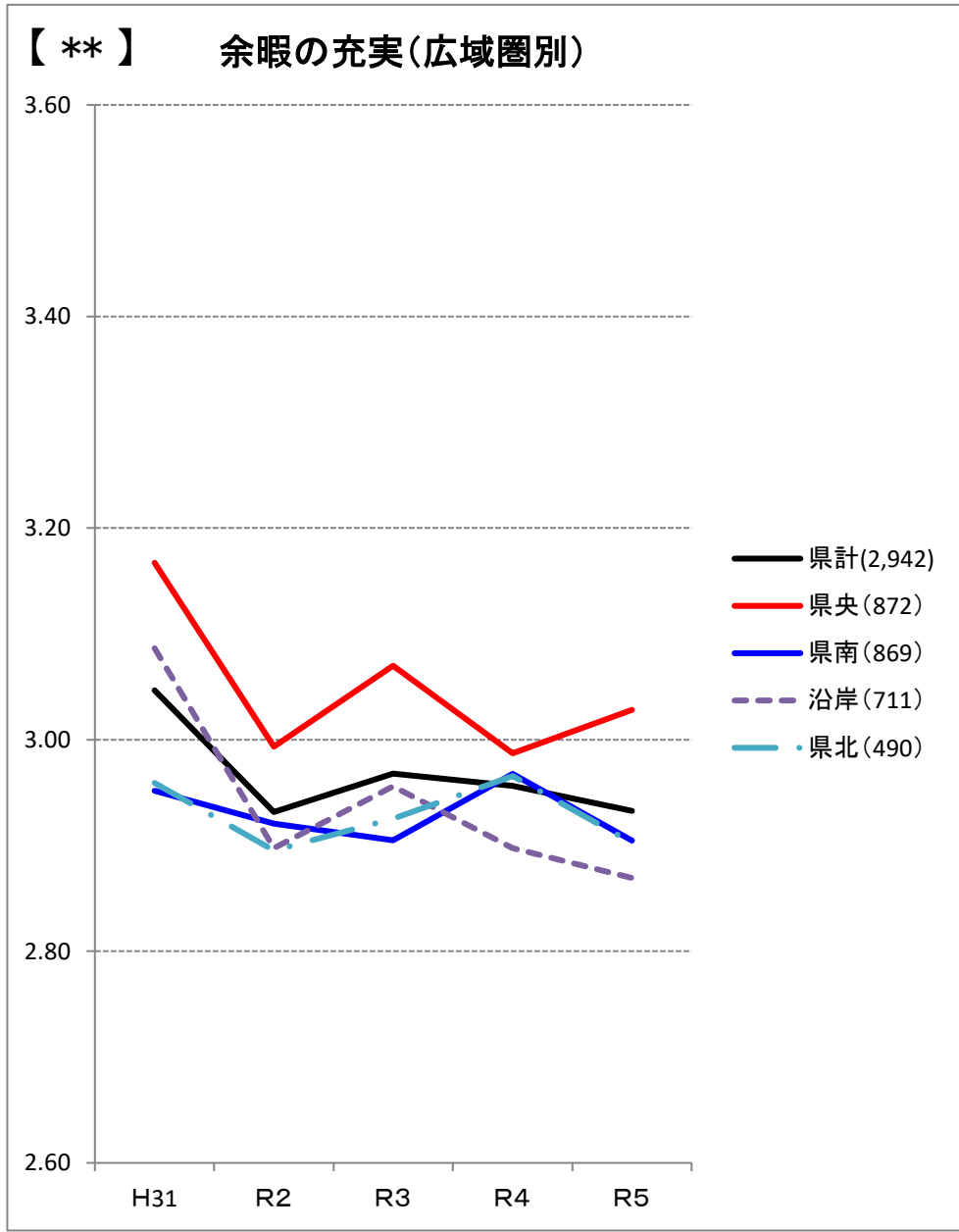
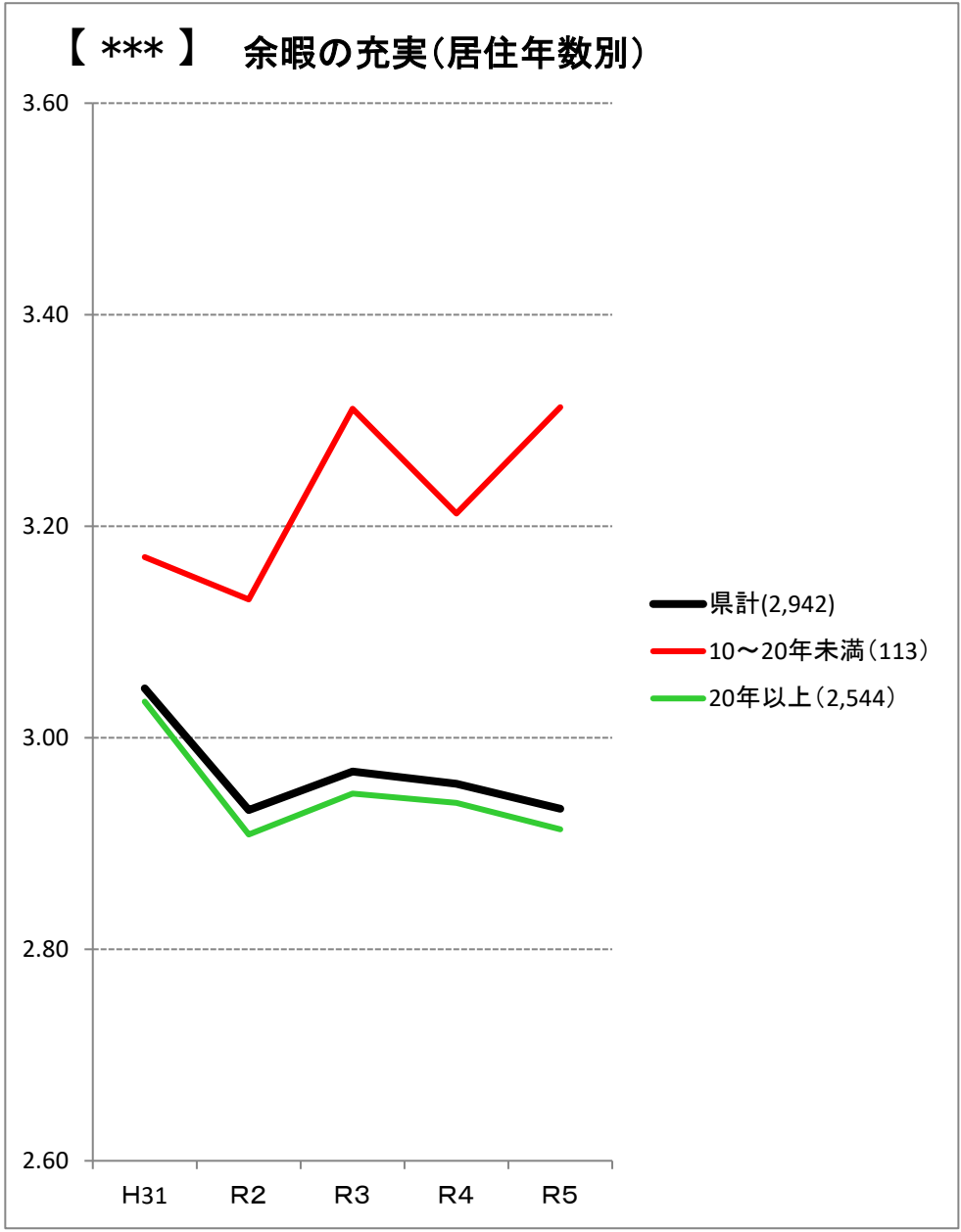
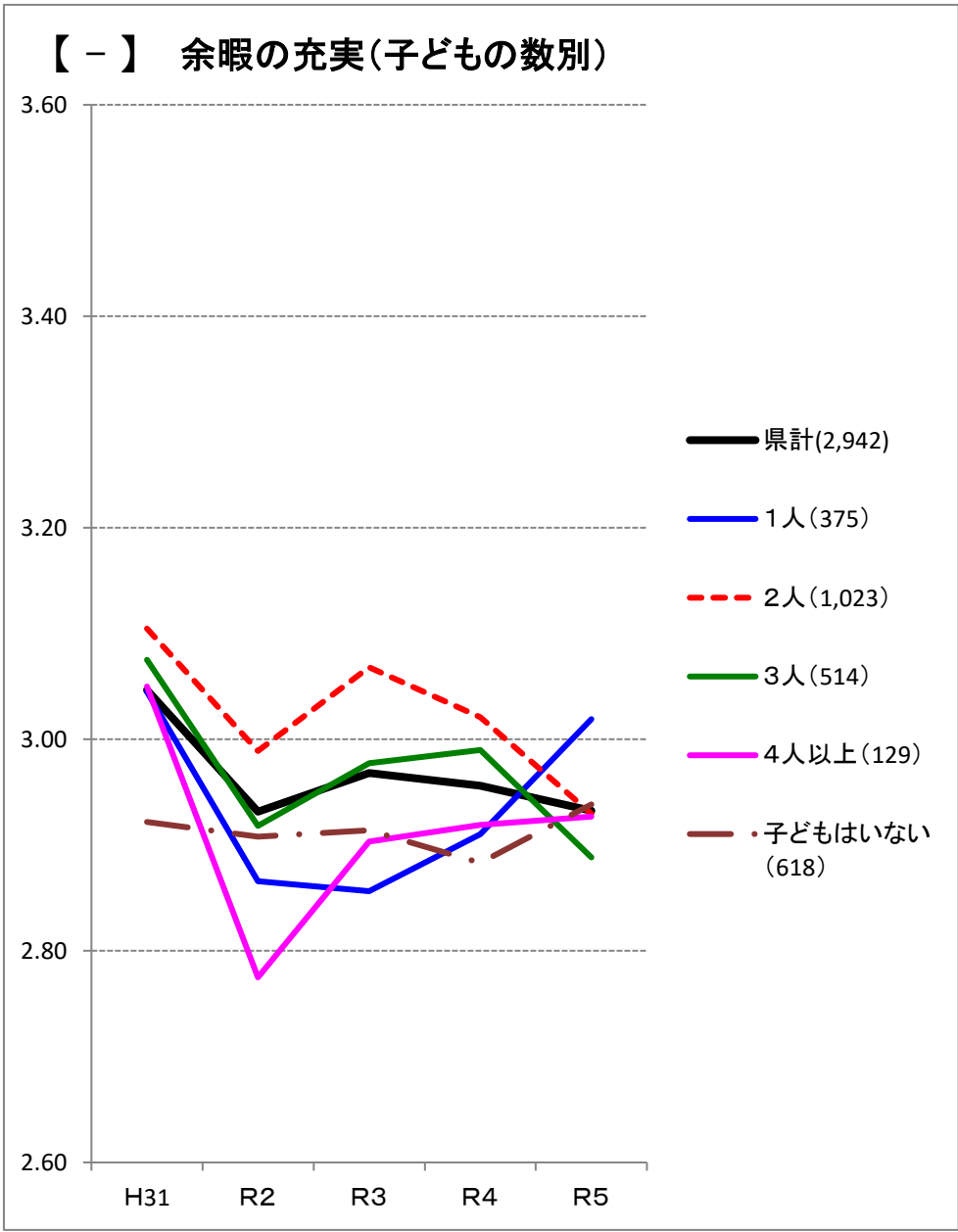


【***】 余暇の充実(職業別)



【－】 余暇の充実(世帯構成別)





■ 凡例 ■

グラフ左上の＊は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

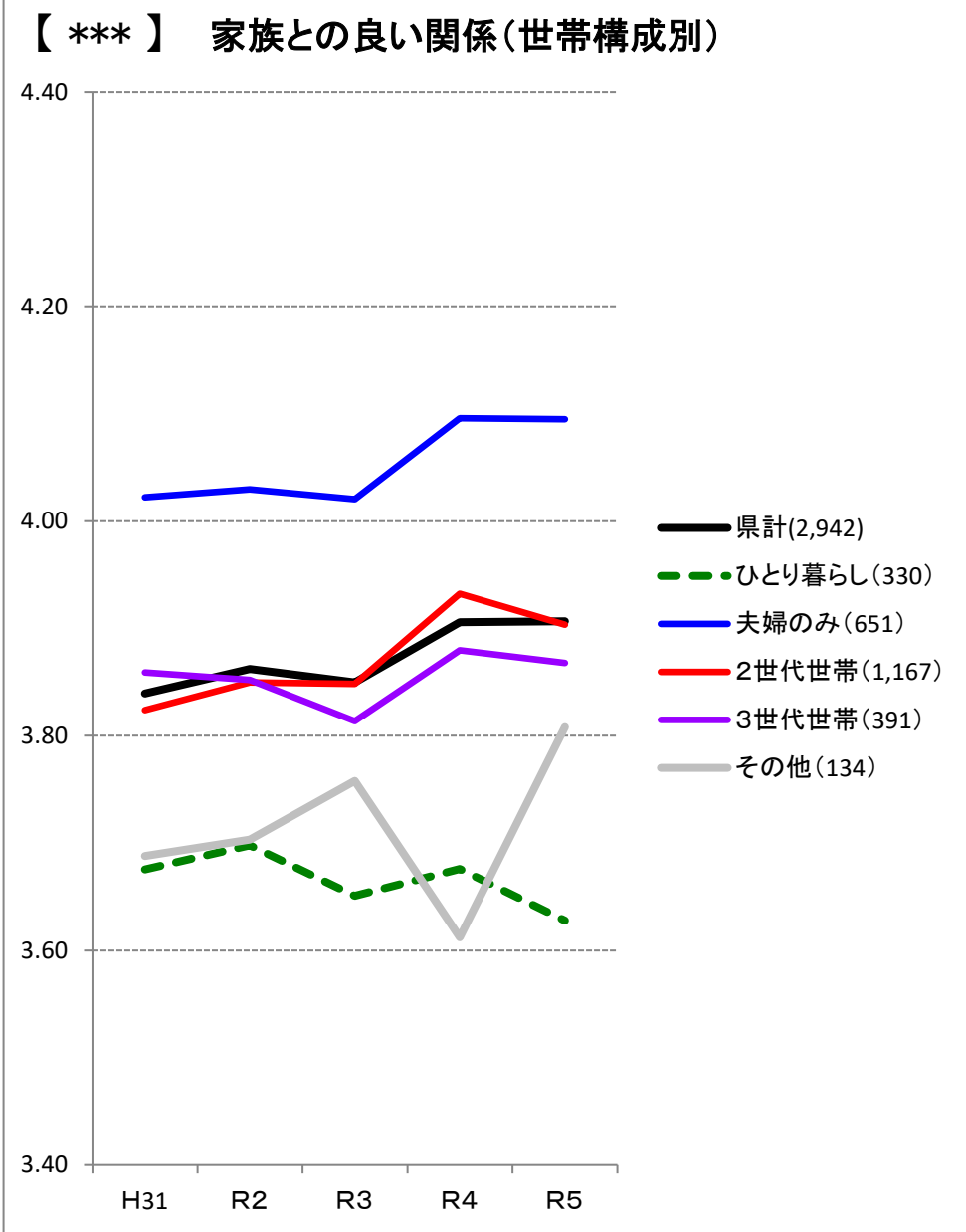
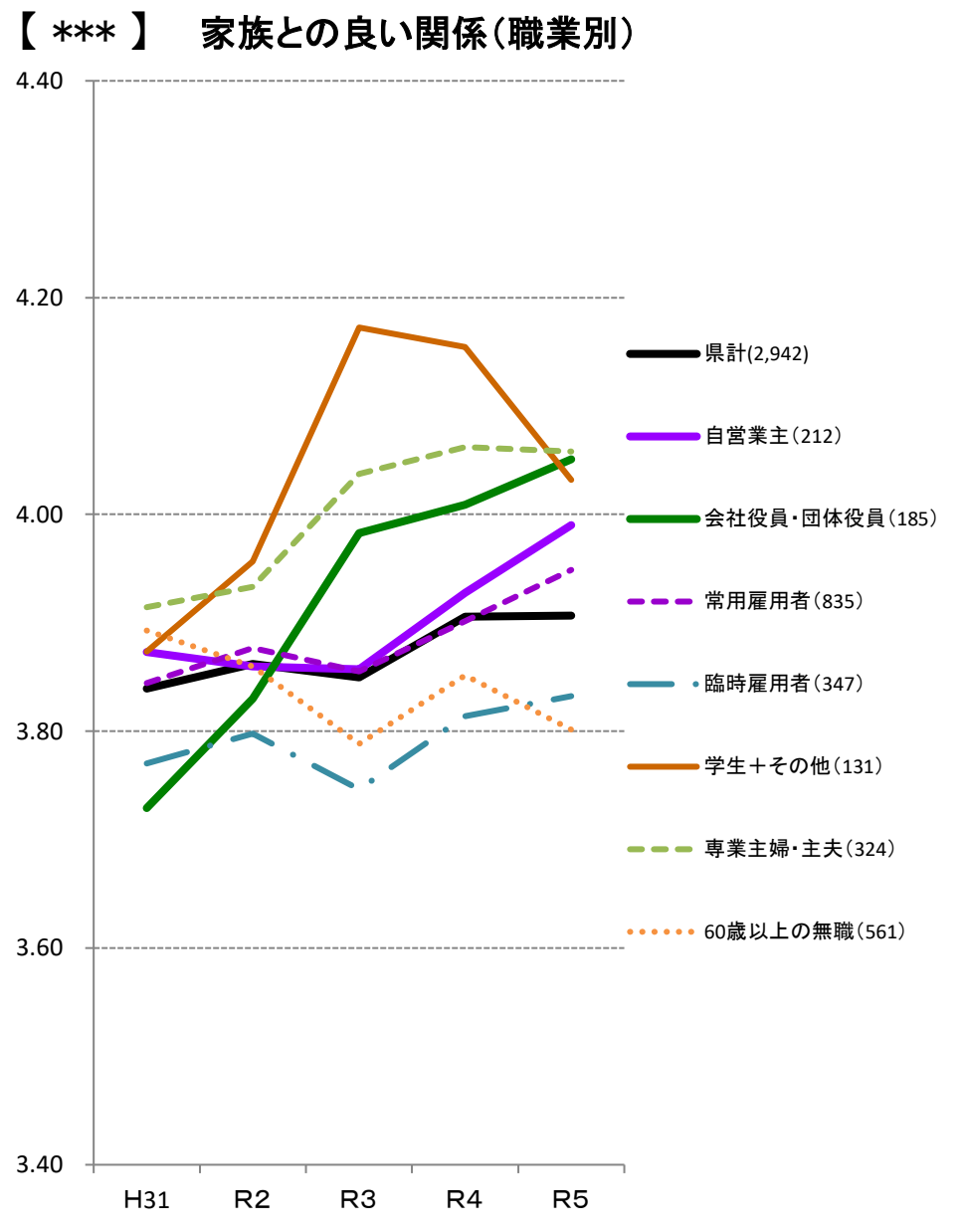
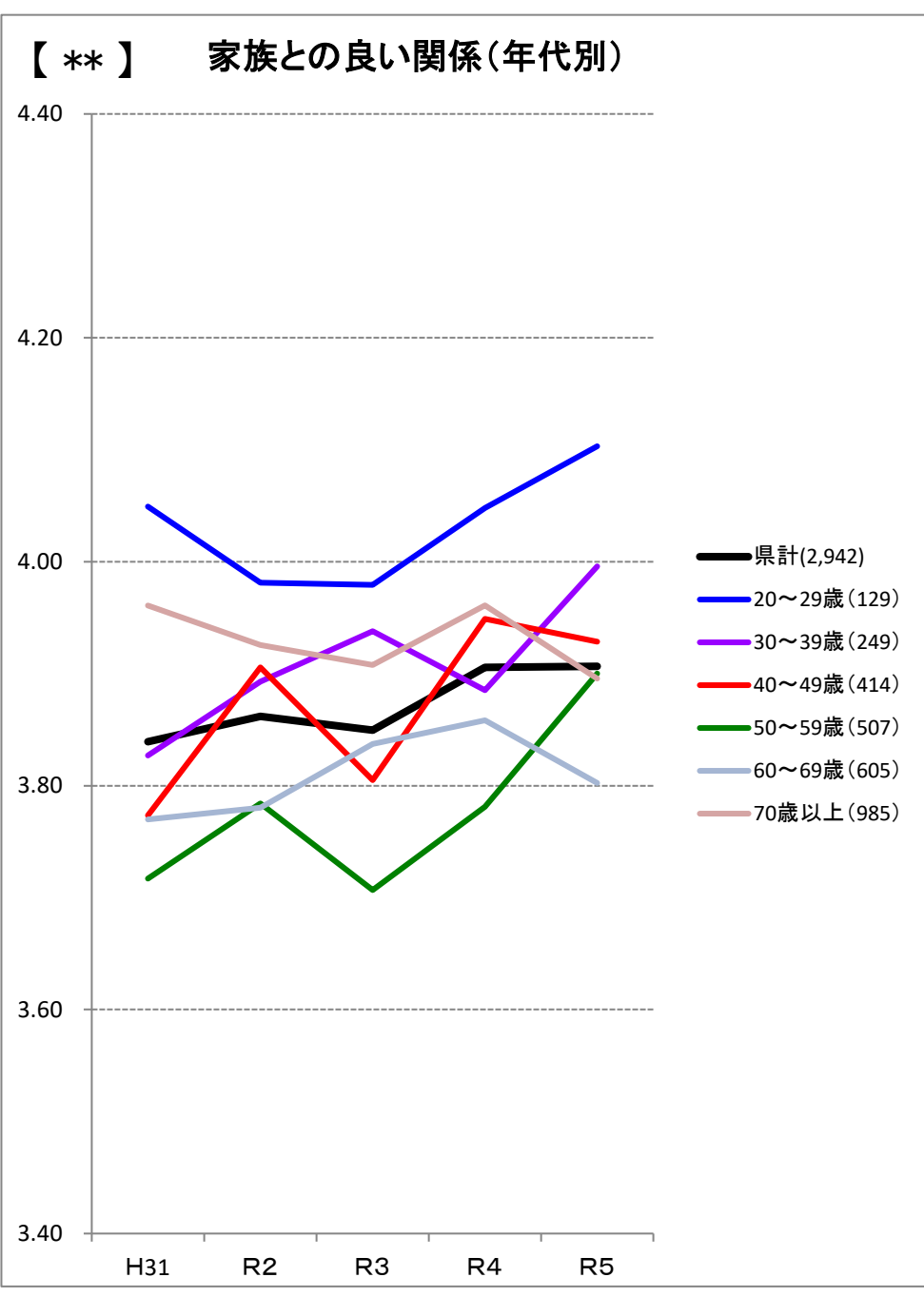
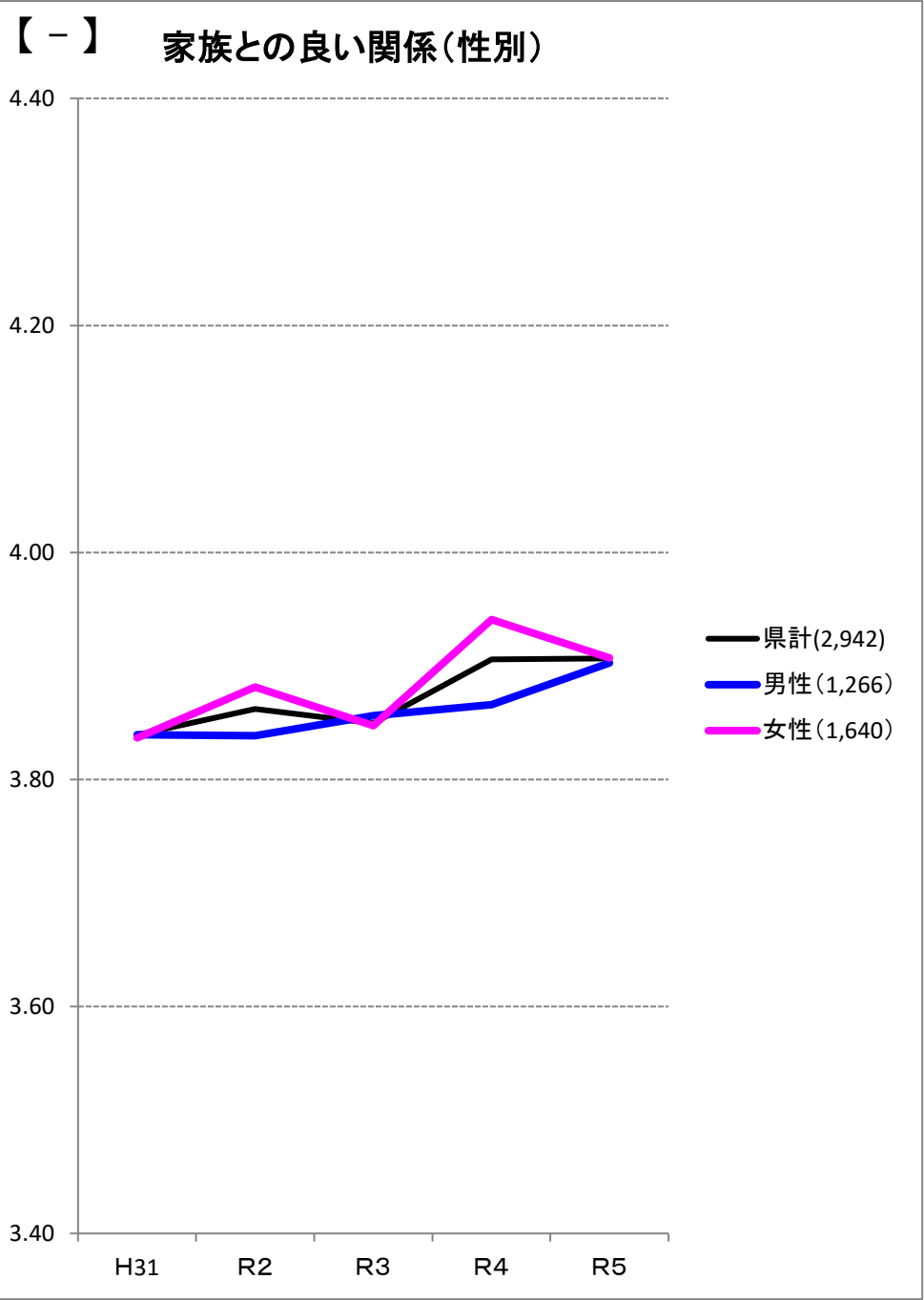
【-】 差が認められない

注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

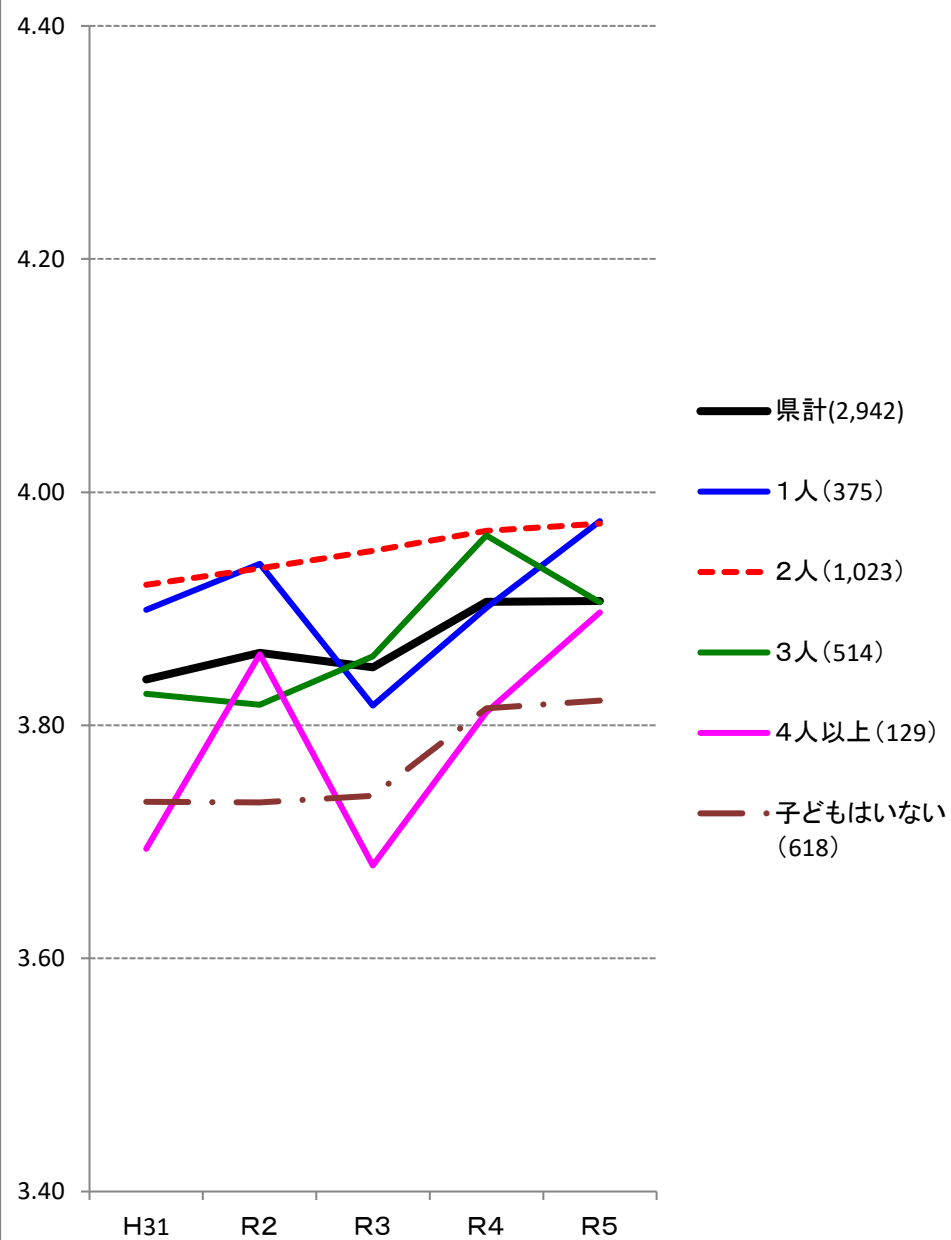
- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

【県計】【分野別実感】③家族と良い関係がとれていると感じますか。

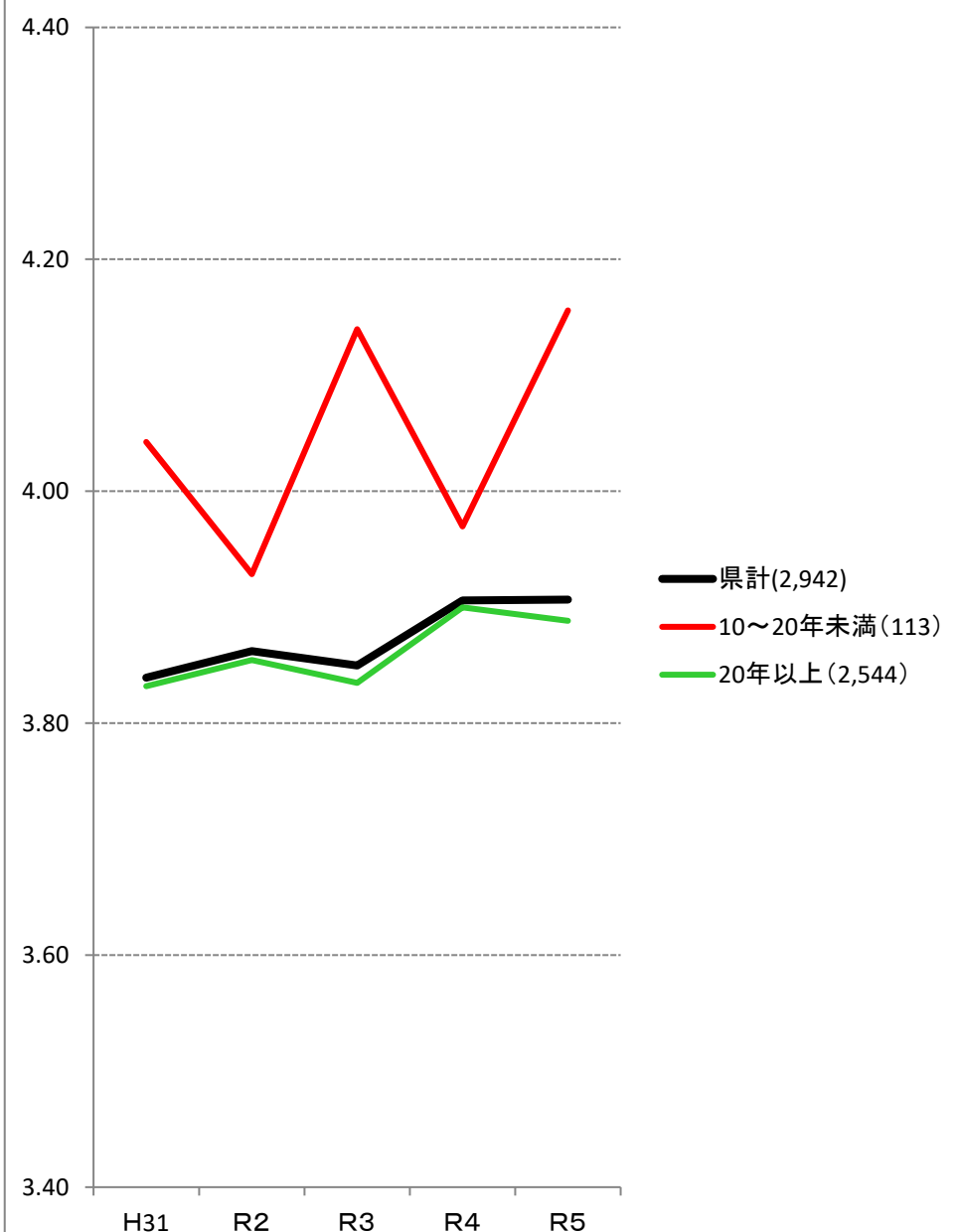
- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別及び居住年数別で有意な差が認められた。
年代別では、20歳代が高く、60歳代が低かった。職業別では、専業主婦・主夫が高く、60歳以上の無職が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。



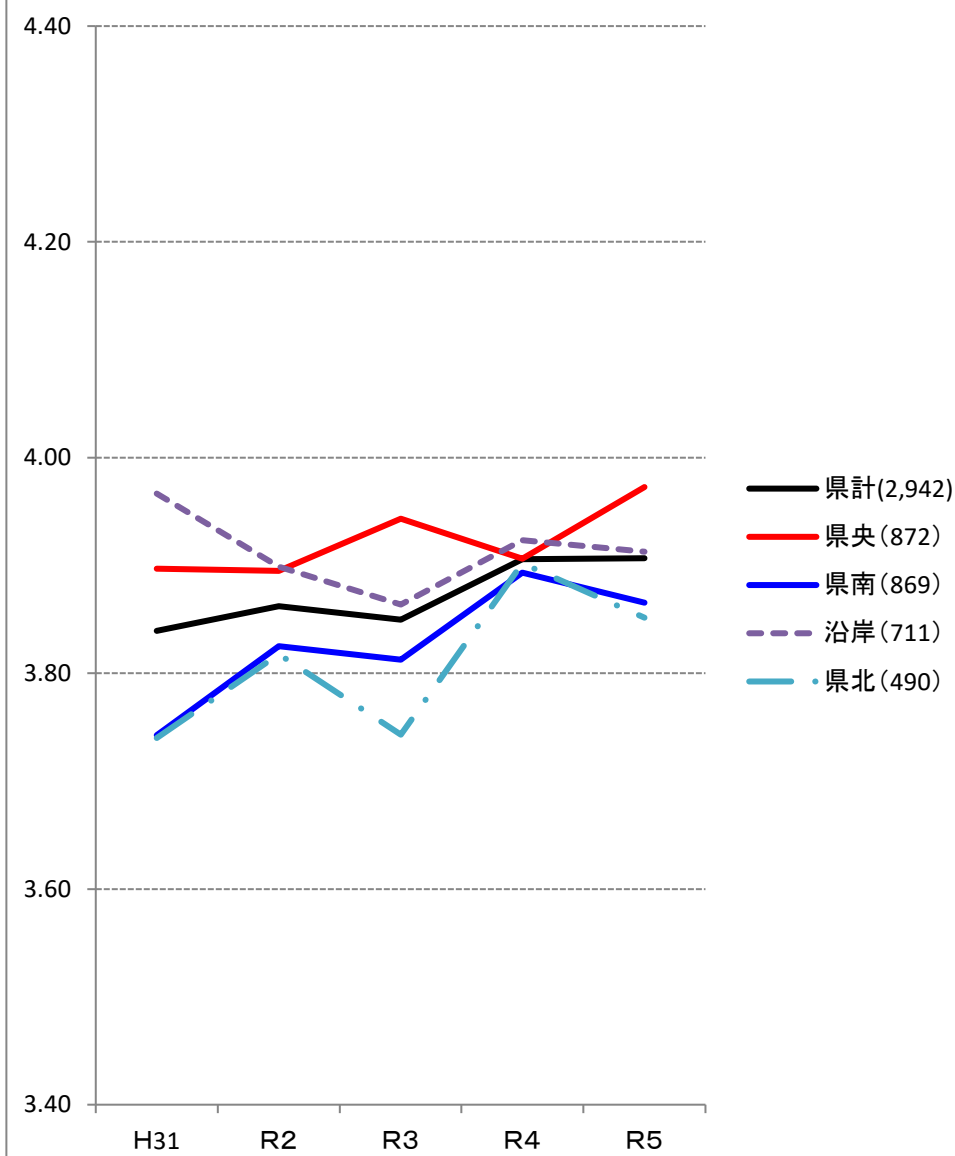
【＊】 家族との良い関係(子どもの数別)



【**】 家族との良い関係(居住年数別)



【－】 家族との良い関係(広域圏別)



■ 凡例 ■

グラフ左上の＊は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【－】差が認められない

注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

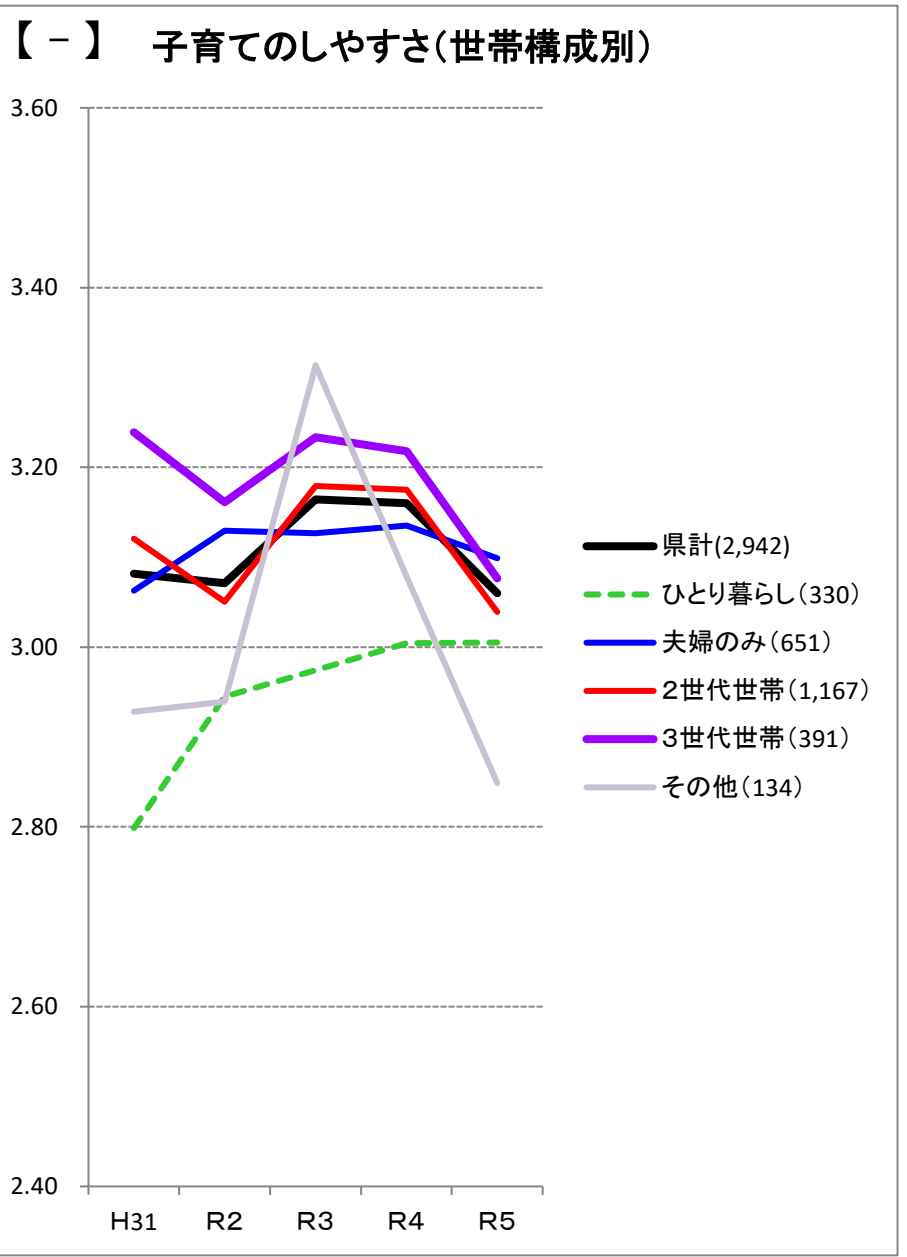
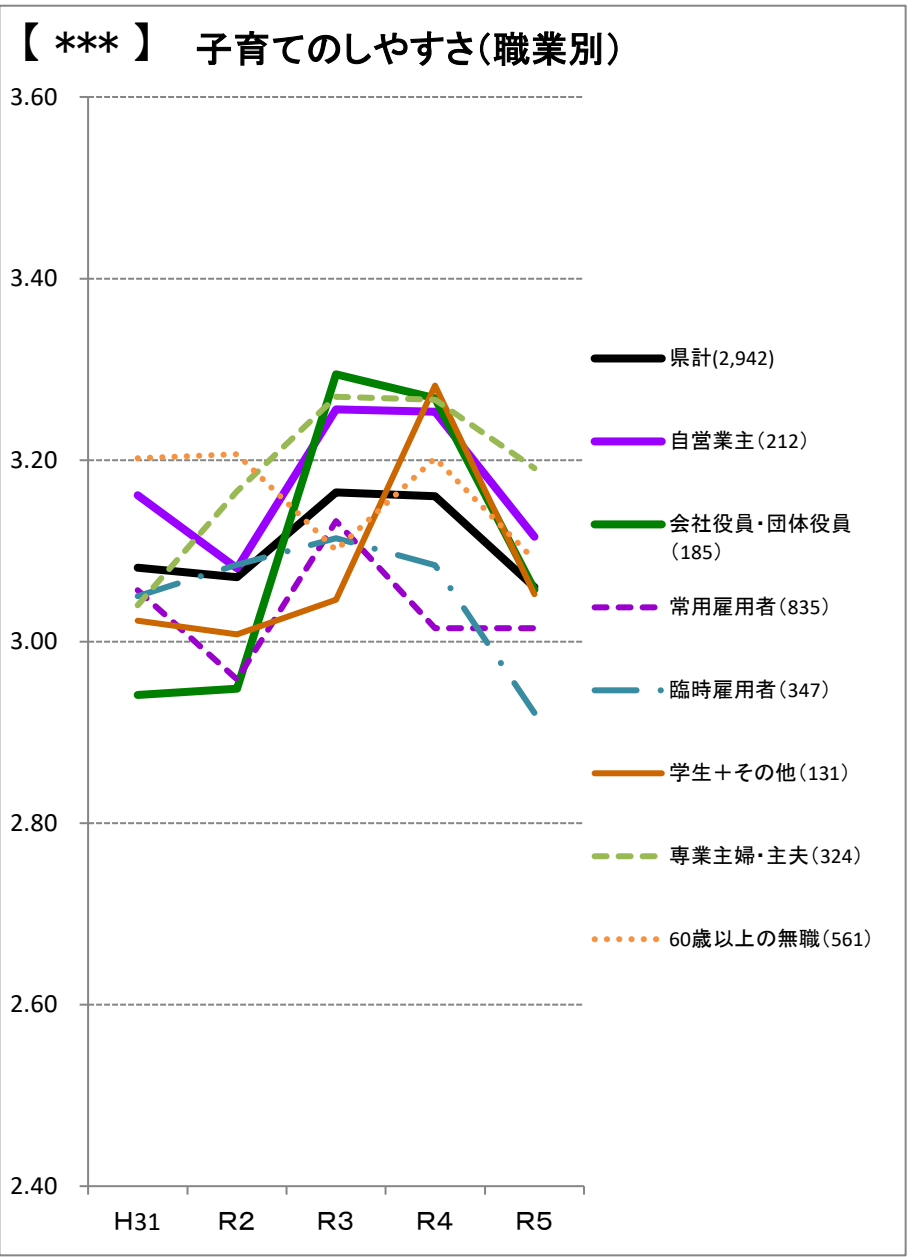
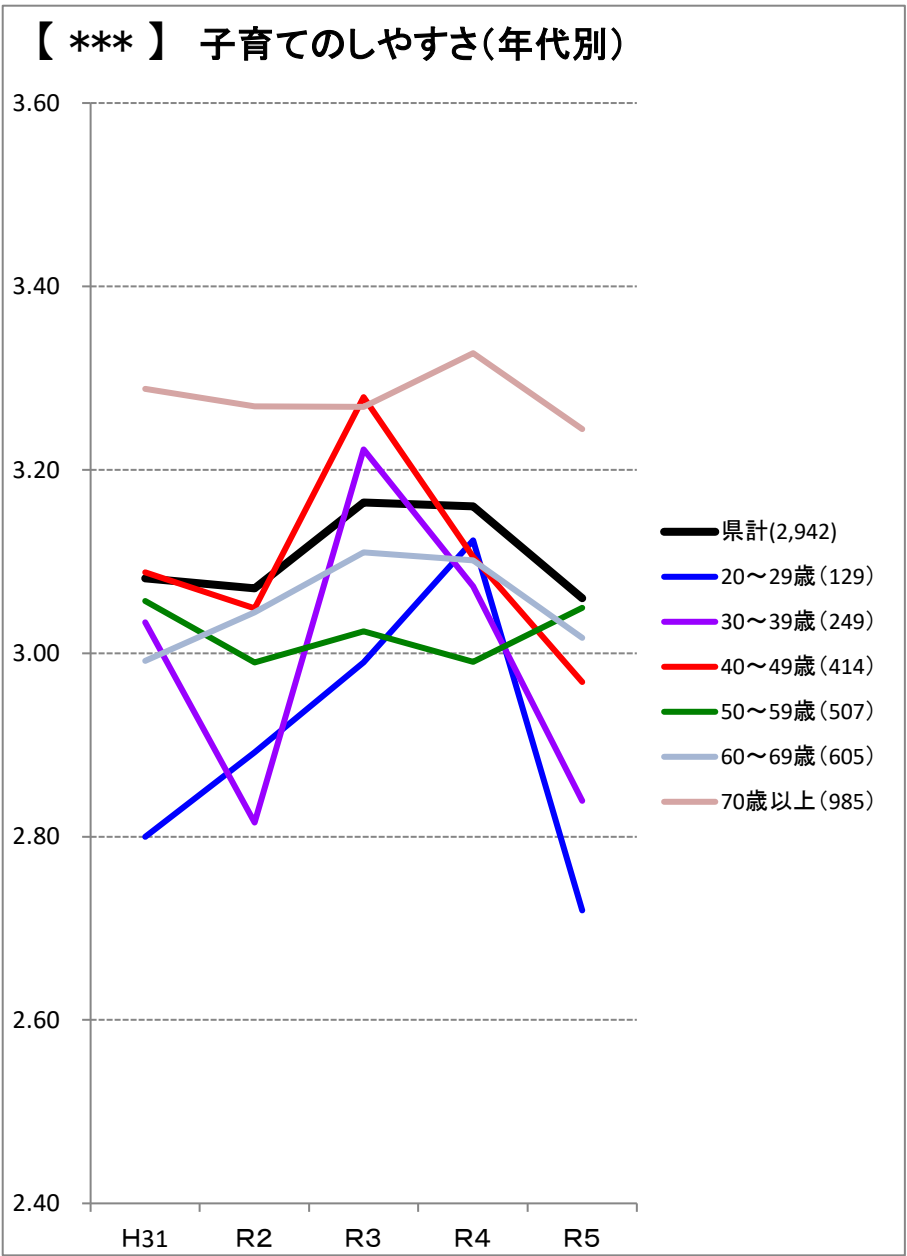
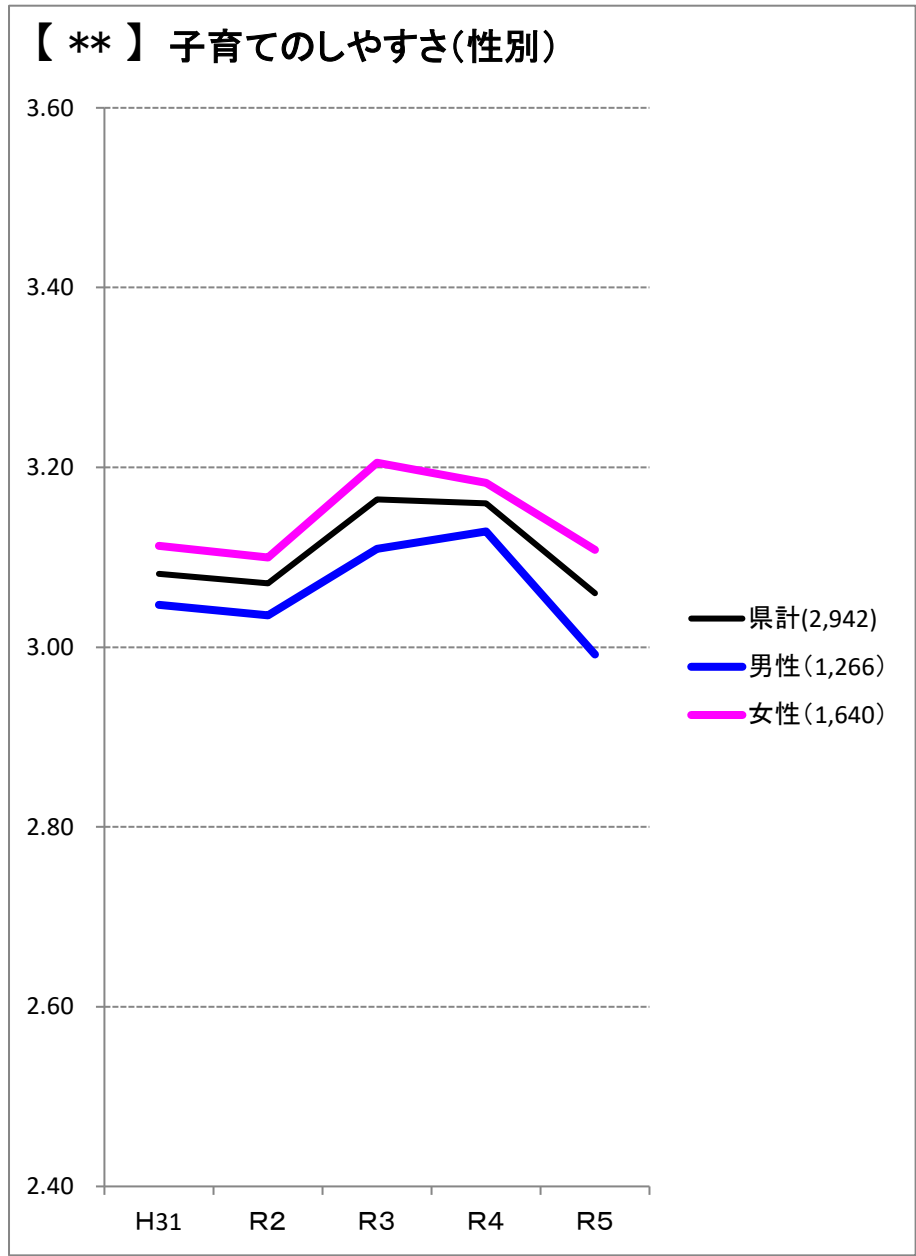
- ・性別の「その他」
- ・年代の「18～19歳」
- ・職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・居住年数「10年未満」

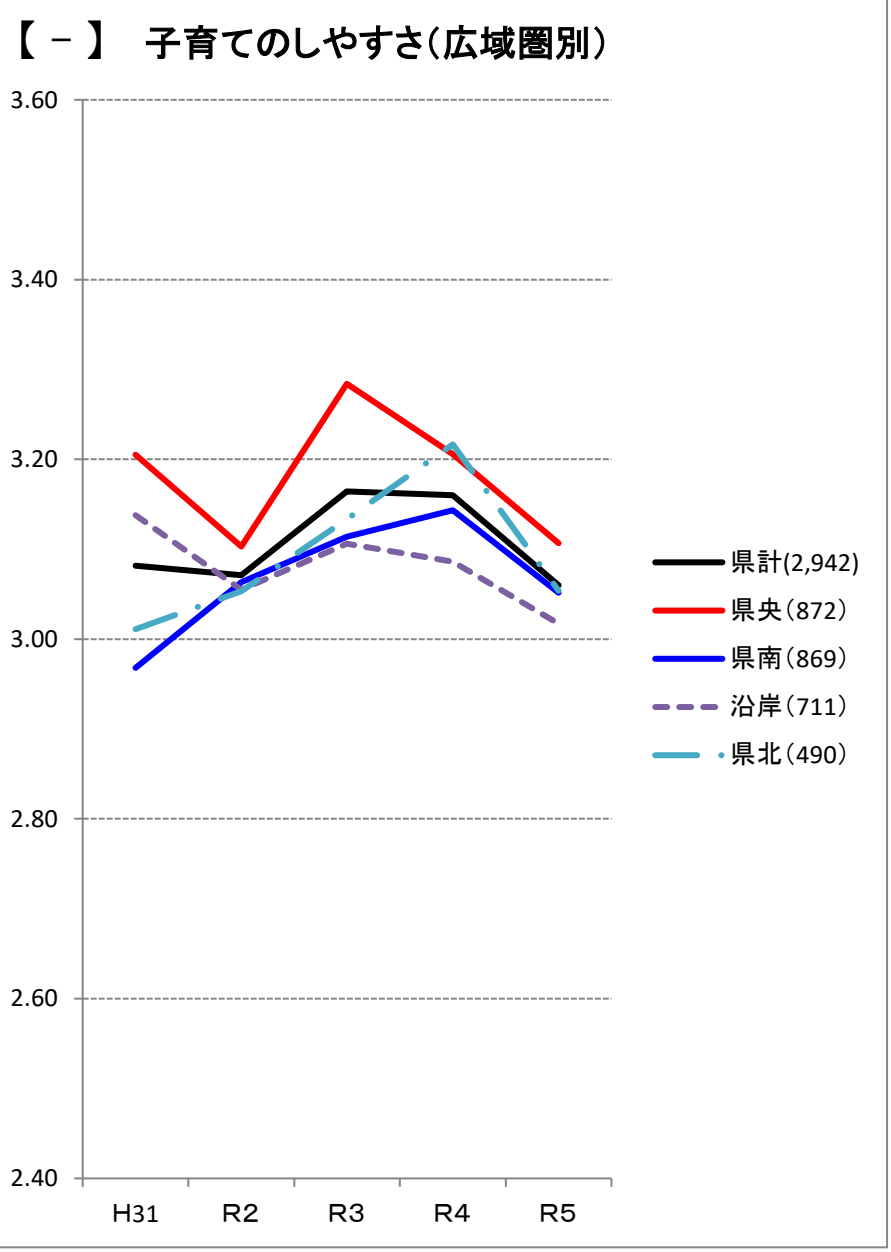
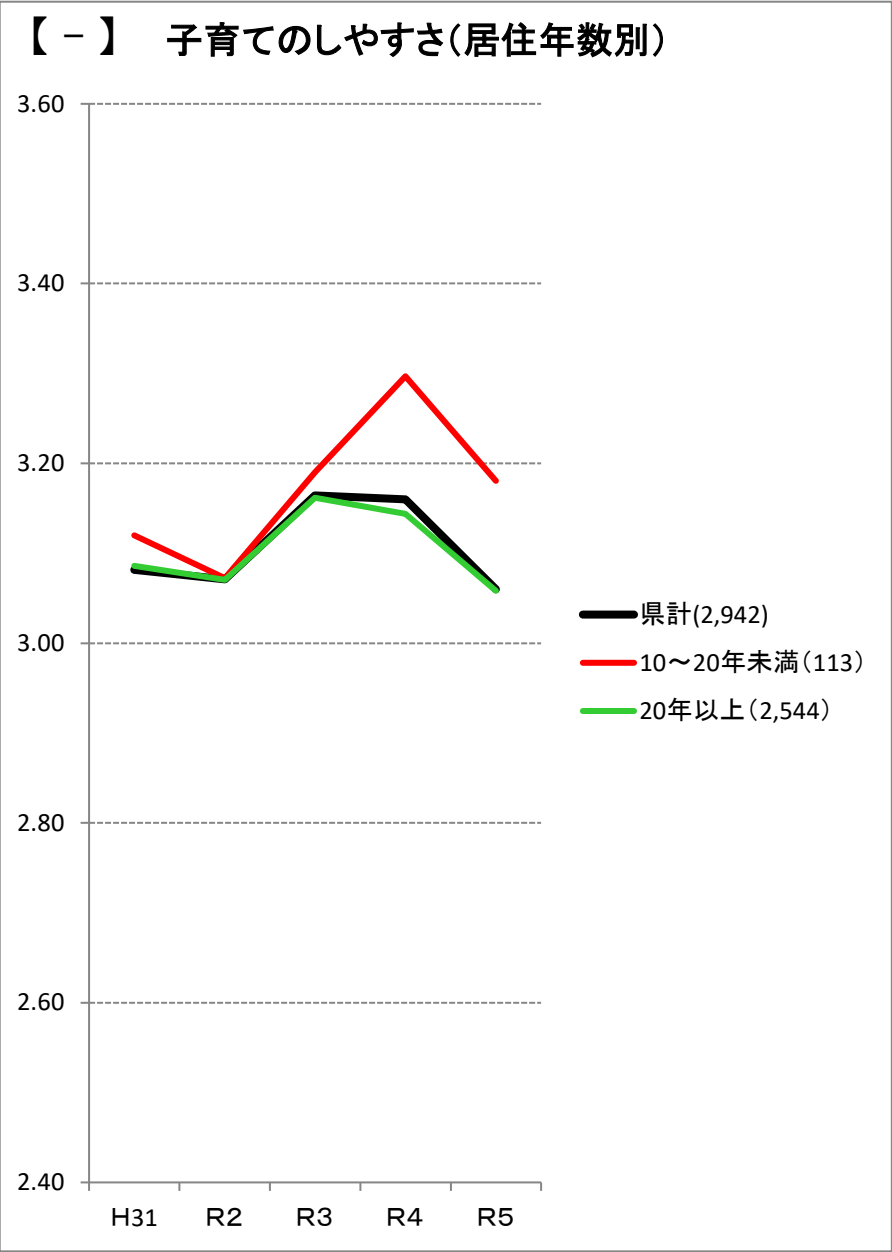
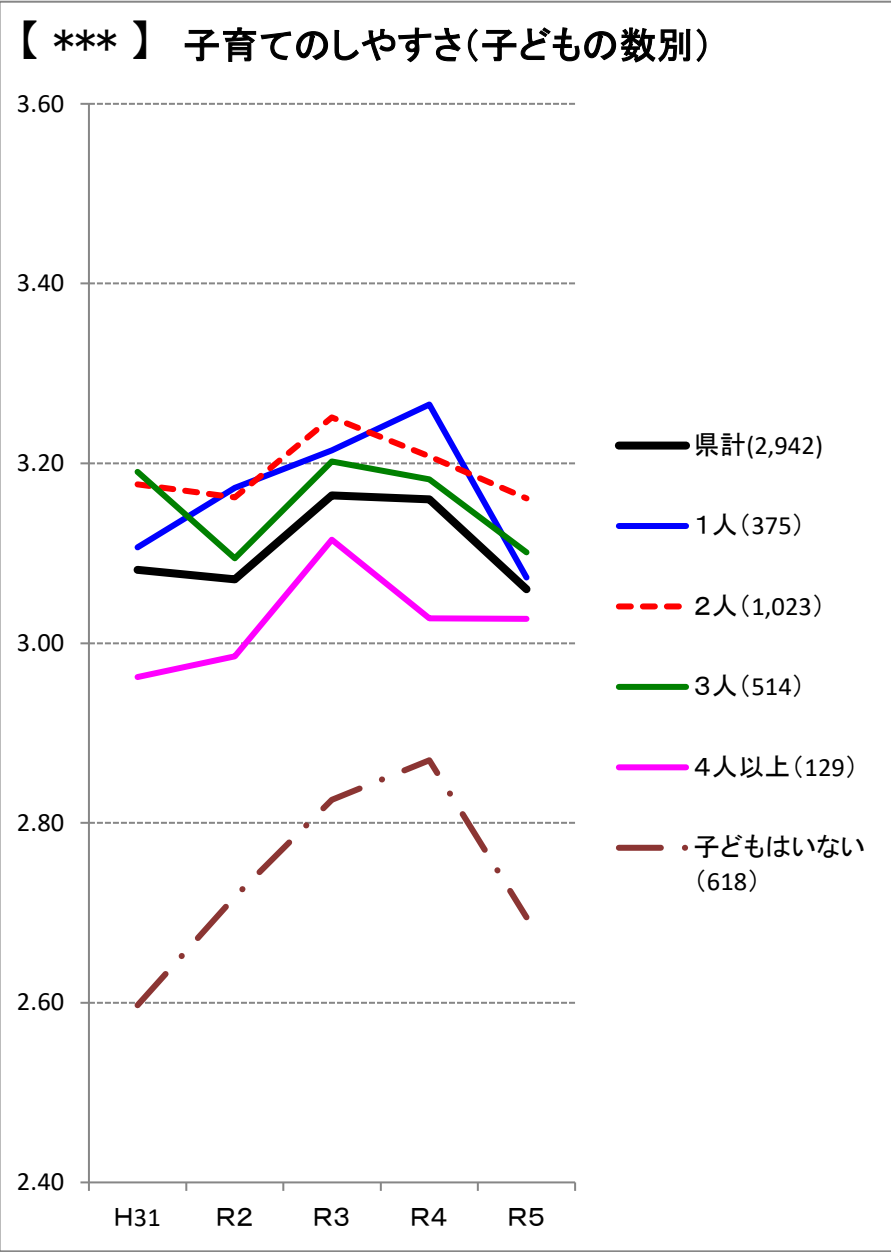
【県計】【分野別実感】④子育てがしやすいと感じますか。

・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。

・令和5年調査結果において、属性別に見ると、性別、年代別、職業別及び子どもの数別で有意な差が認められた。

性別では、女性が高く、男性が低かった。年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。職業別では、専業主婦・主夫が高く、臨時雇用者が低かった。子どもの数別では、子2人が高く、子0人が低かった。



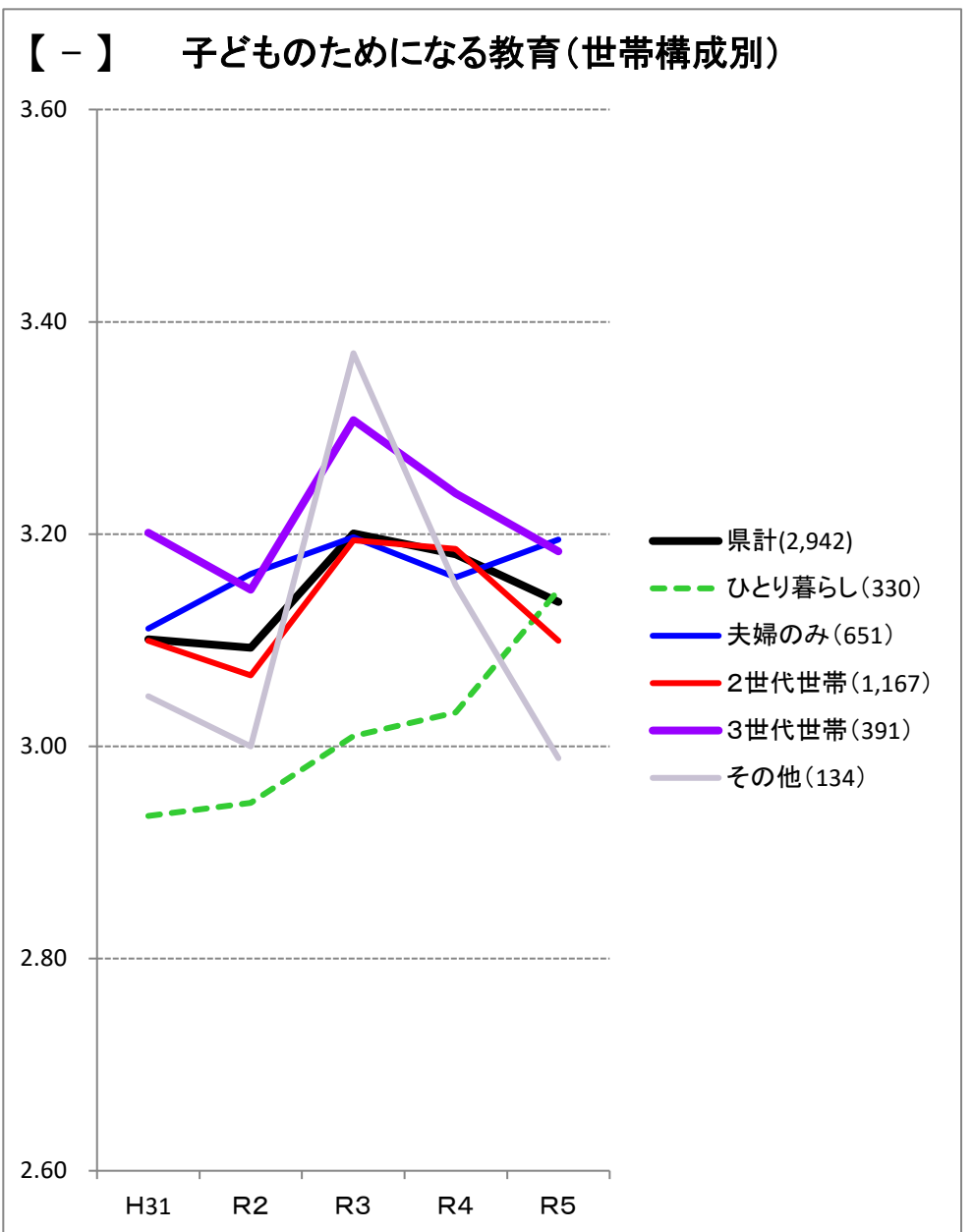
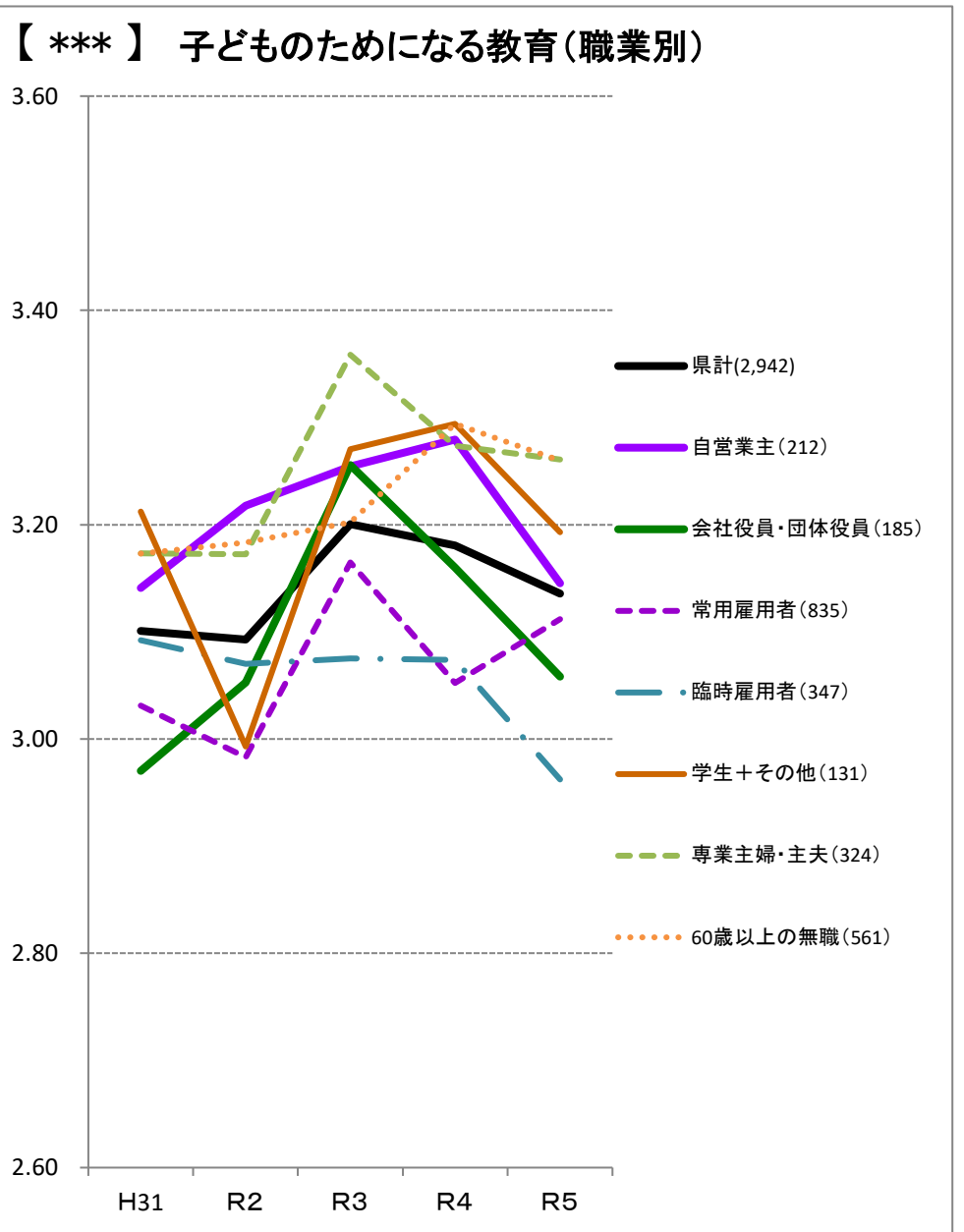
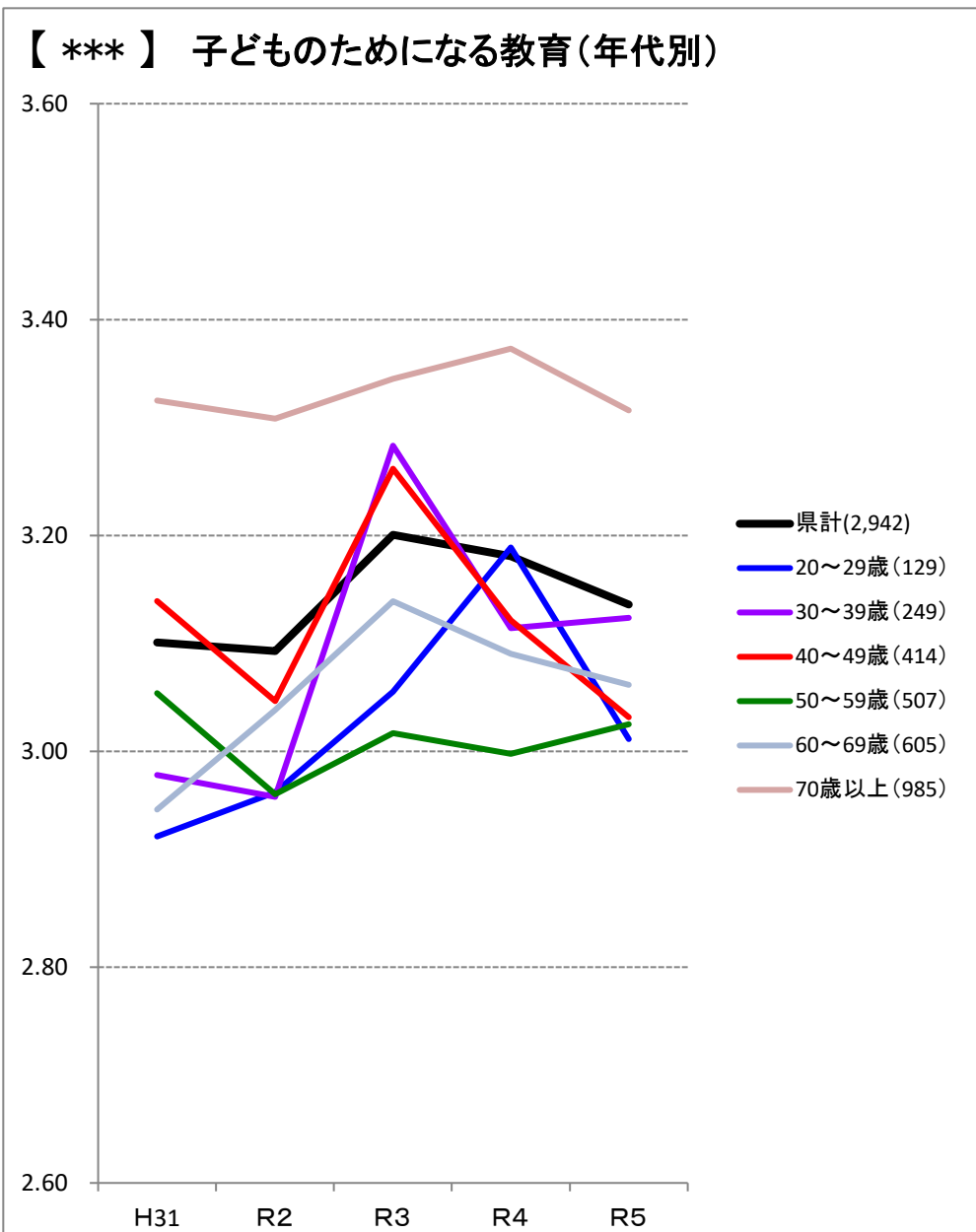
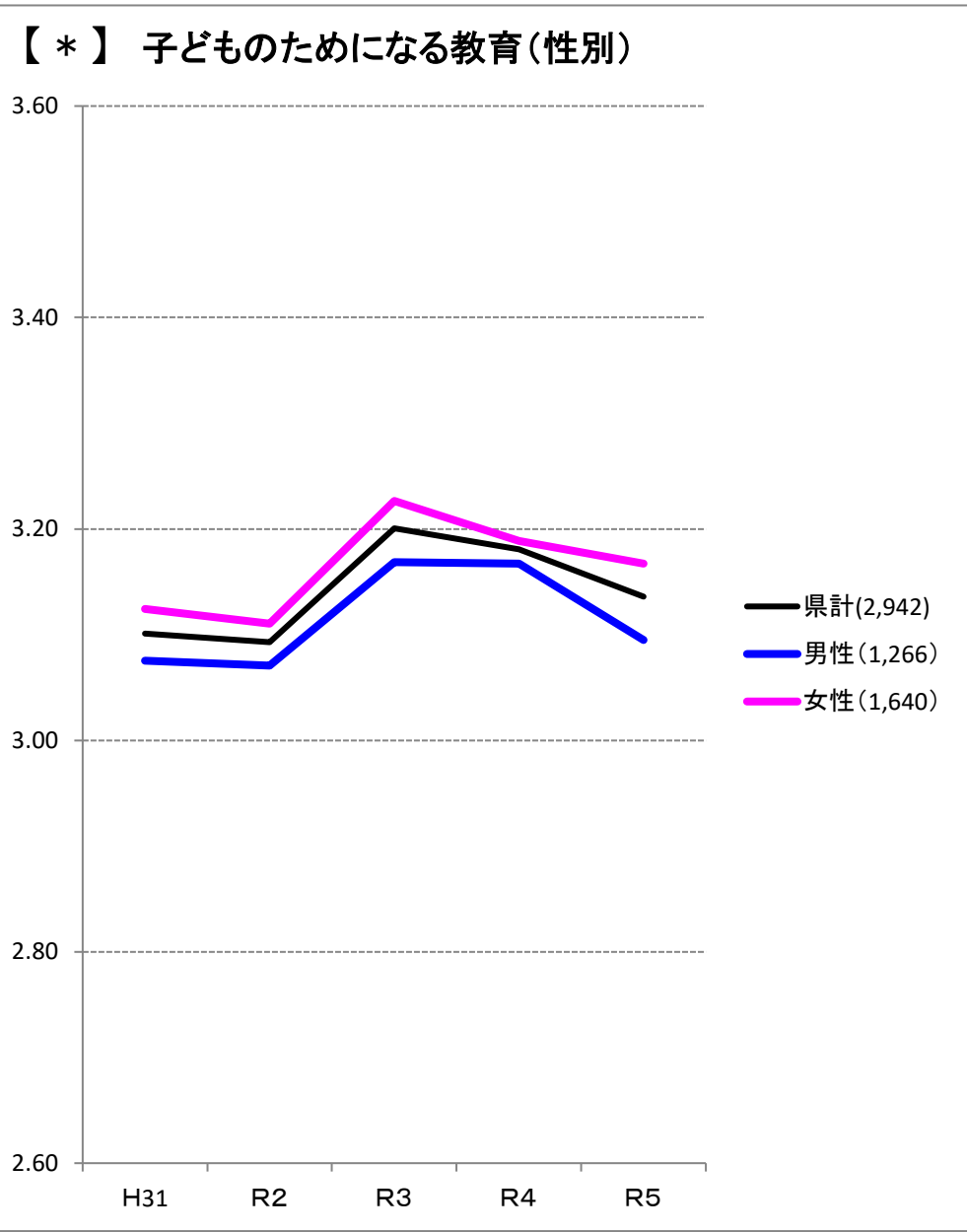


■凡例■
 グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。
 【***】1%水準で差が有意(差が認められる)
 【**】5%水準で差が有意(差が認められる)
 【*】10%水準で差が有意(差が認められる)
 【-】差が認められない

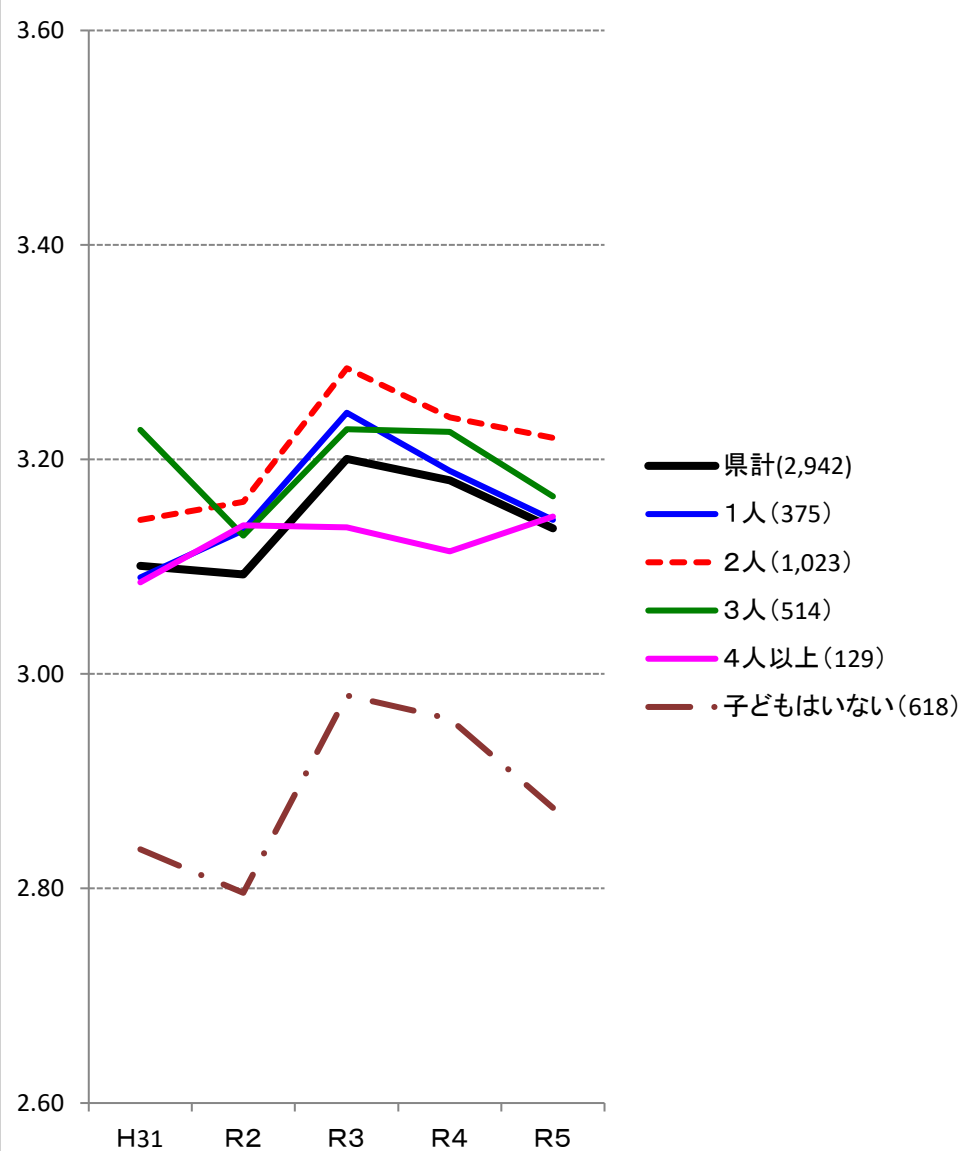
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。
 ・性別の「その他」
 ・年代の「18～19歳」
 ・職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
 ・居住年数「10年未満」

【県計】【分野別実感】⑤子どものためになる教育が行われていると感じますか。

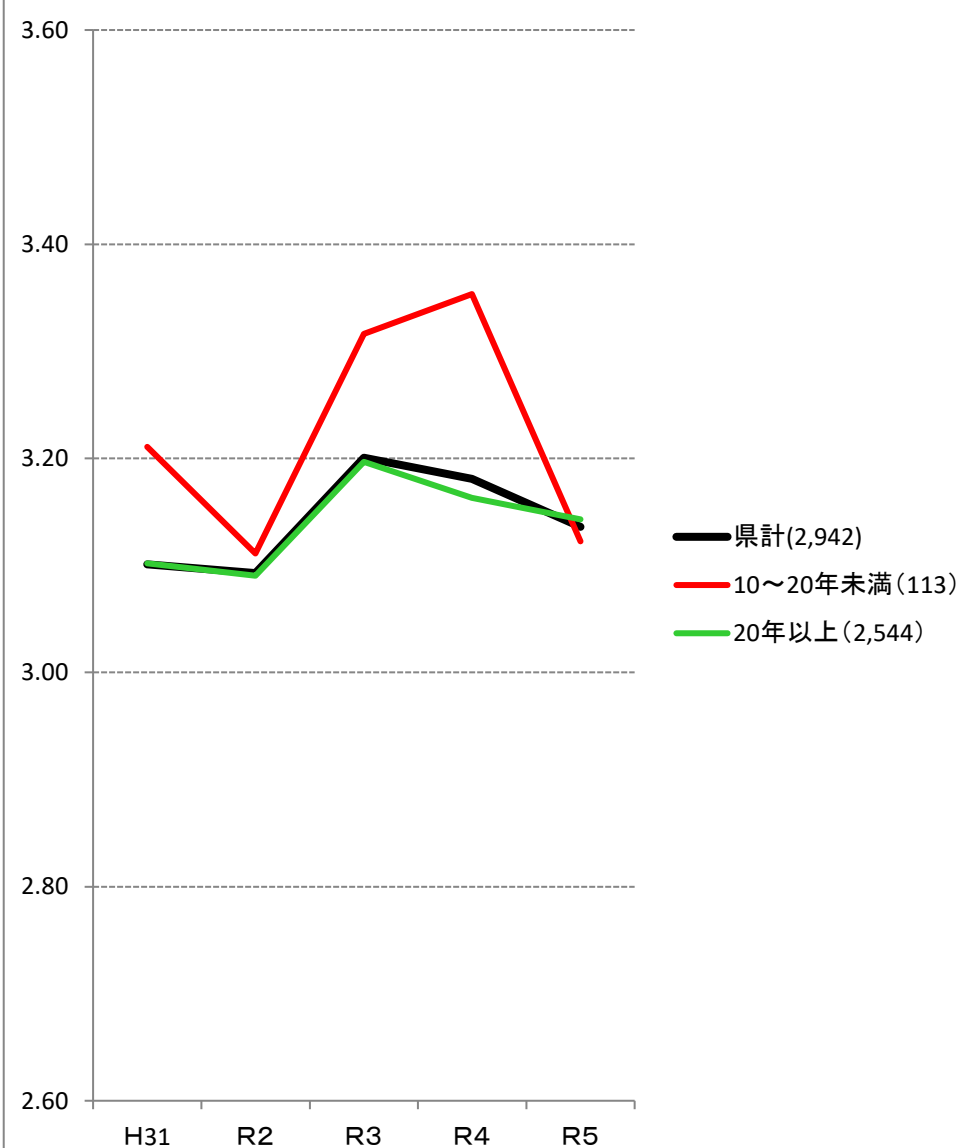
- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別及び子どもの数別で有意な差が認められた。
年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。職業別では、専業主婦・主夫が高く、臨時雇用者が低かった。子どもの数別では、子2人が高く、子0人が低かった。



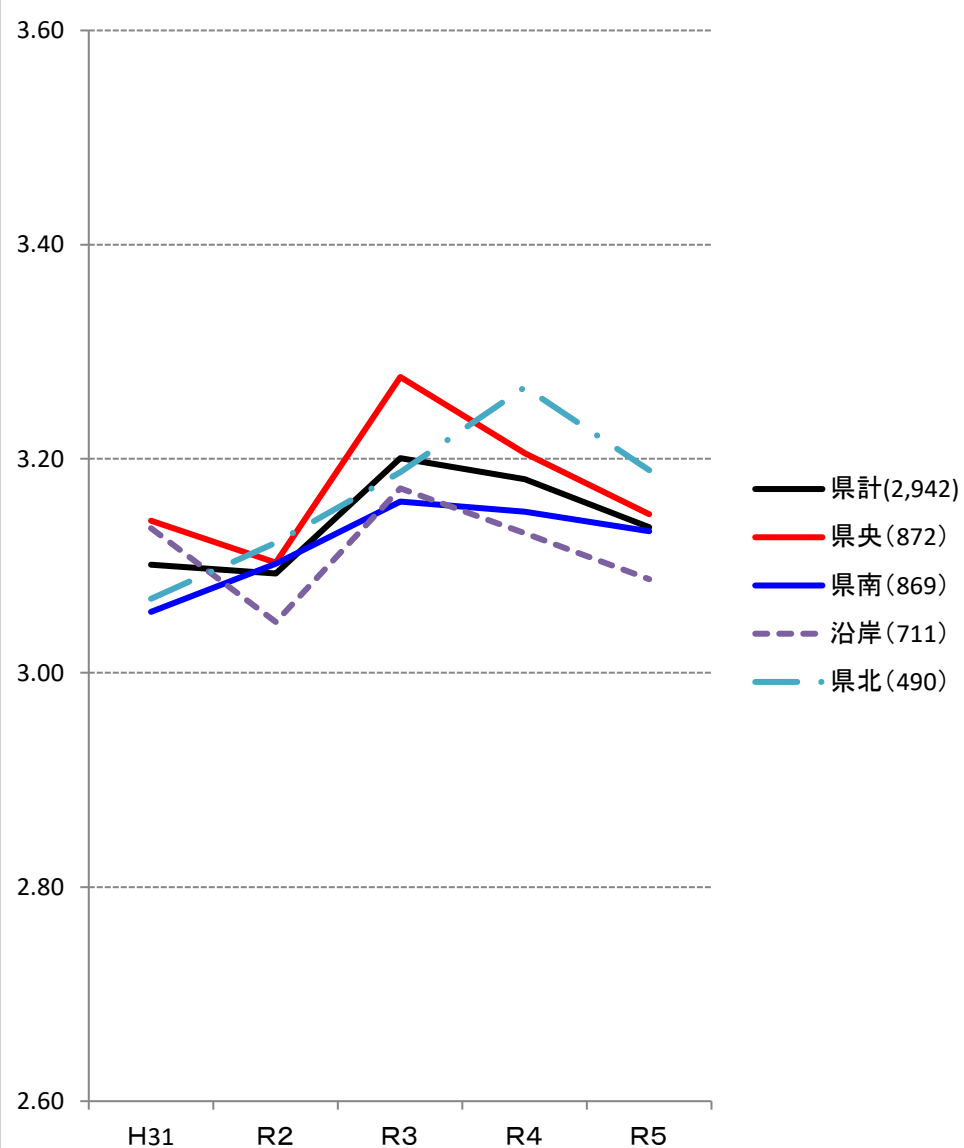
【 *** 】 子どものためになる教育(子どもの数別)



【 - 】 子どものためになる教育(居住年数別)



【 - 】 子どものためになる教育(広域圏別)



■凡例■

グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

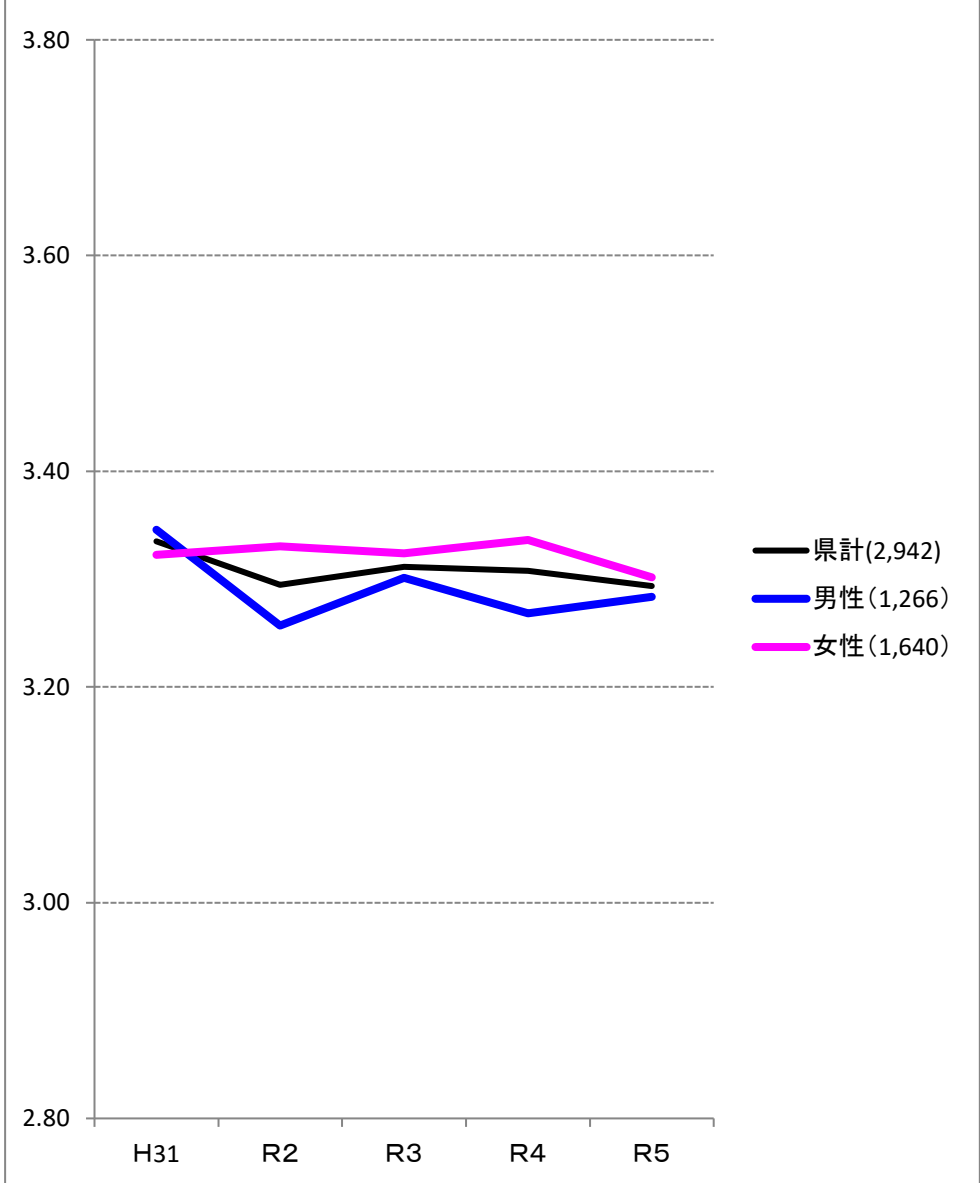
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

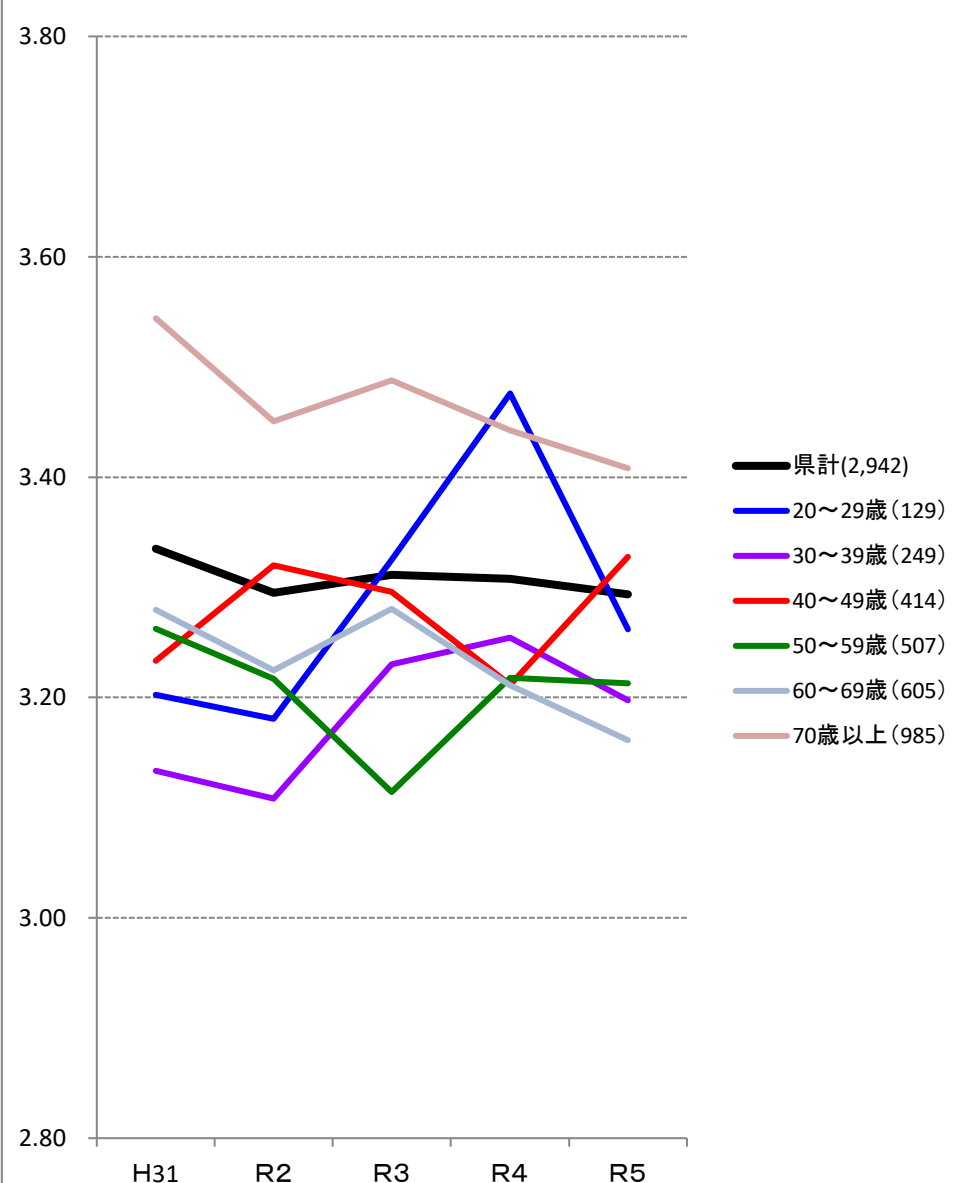
【県計】【分野別実感】⑥住まいに快適さを感じますか

・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。
・令和5年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別、子どもの数別、居住年数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
年代別では、70歳以上が高く、60歳代が低かった。職業別では、学生＋その他が高く、臨時雇用者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子どもの数別では、子2人が高く、子4人以上が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県北広域振興圏が低かった。

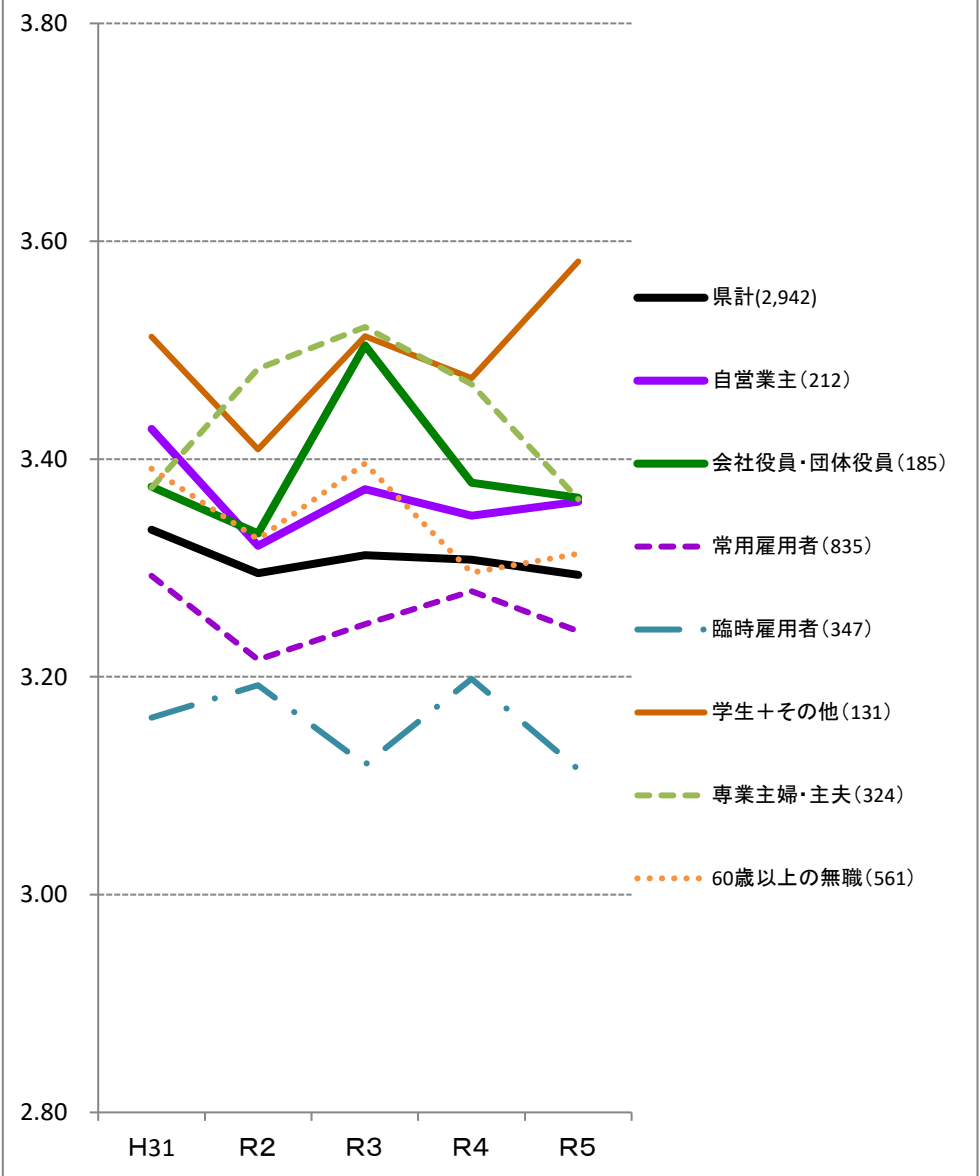
【 ー 】 住まいの快適さ(性別)



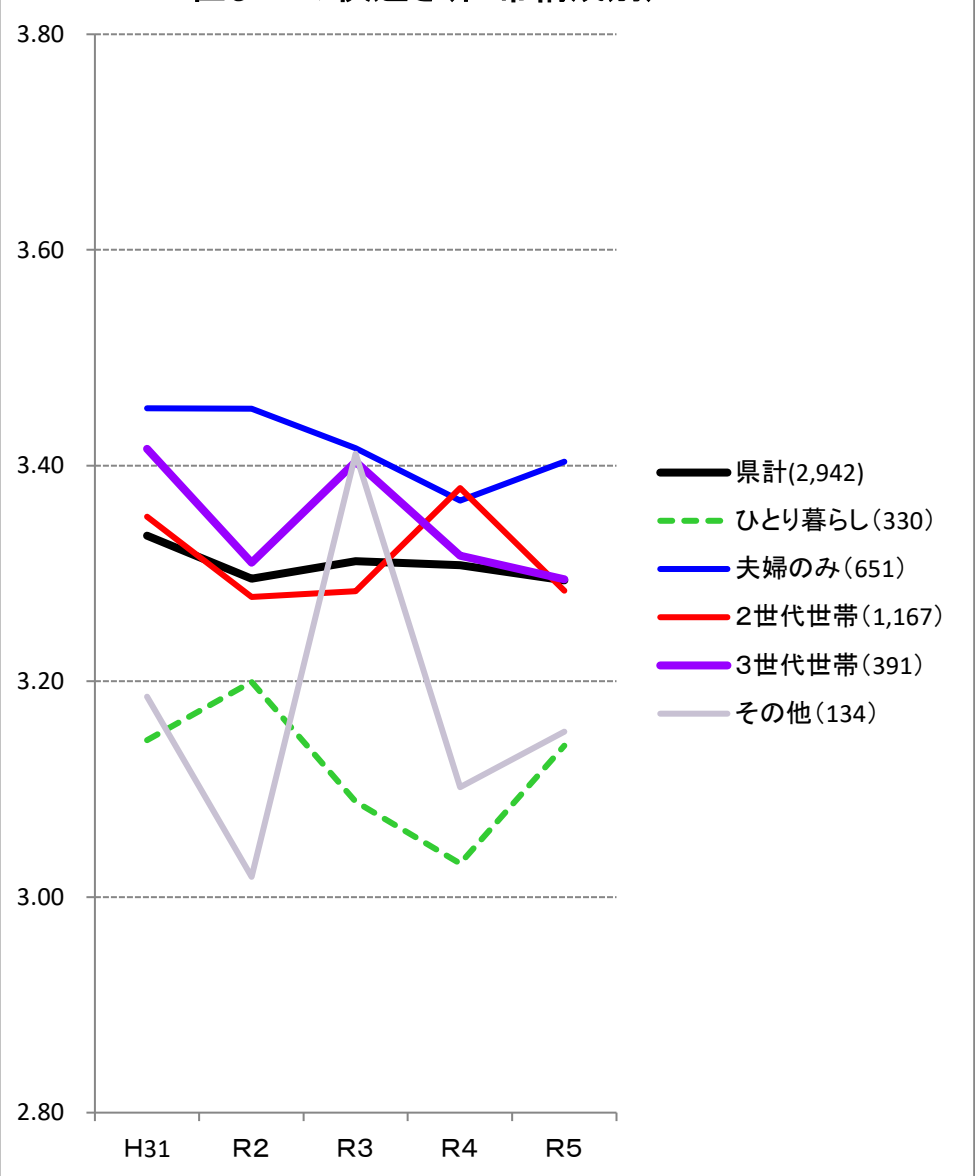
【 *** 】 住まいの快適さ(年代別)



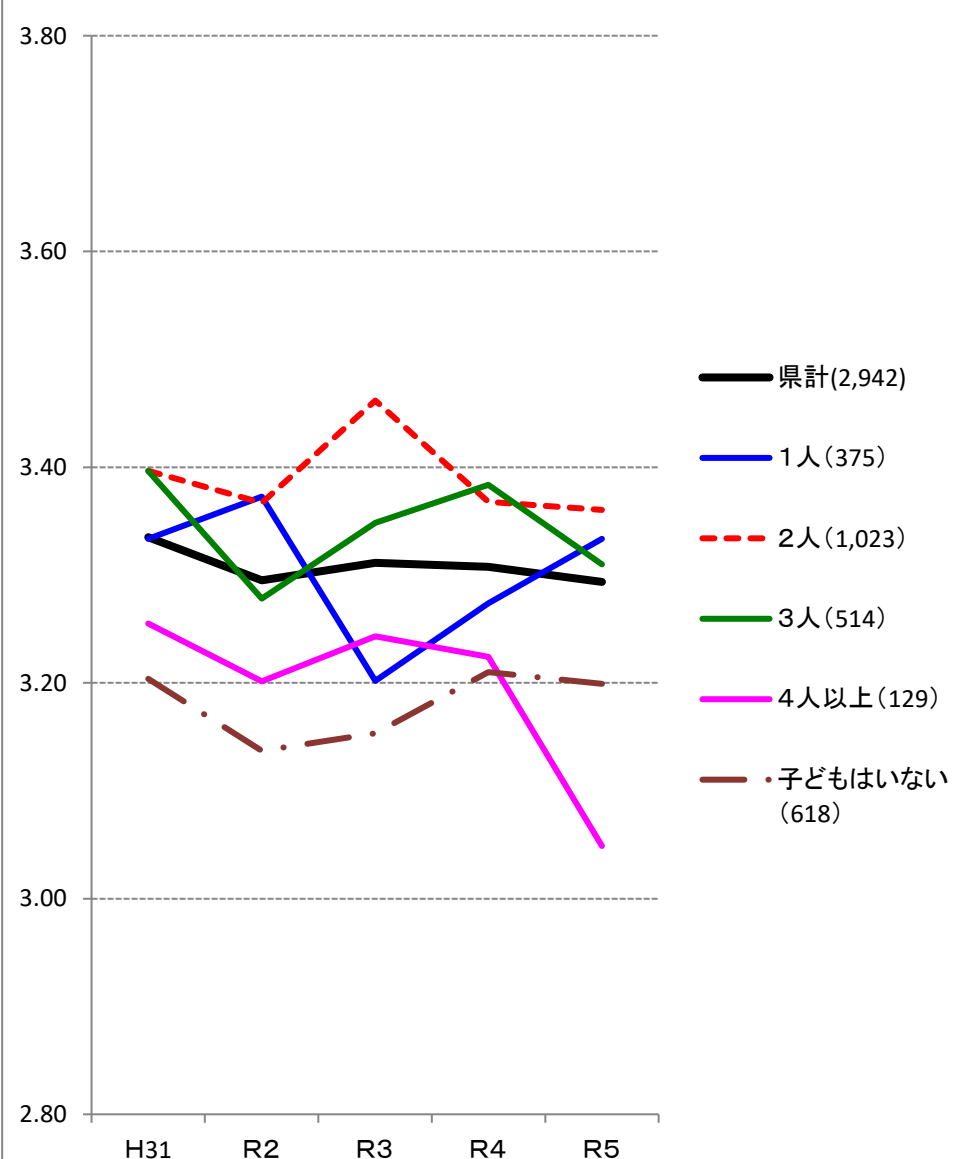
【 *** 】 住まいの快適さ(職業別)



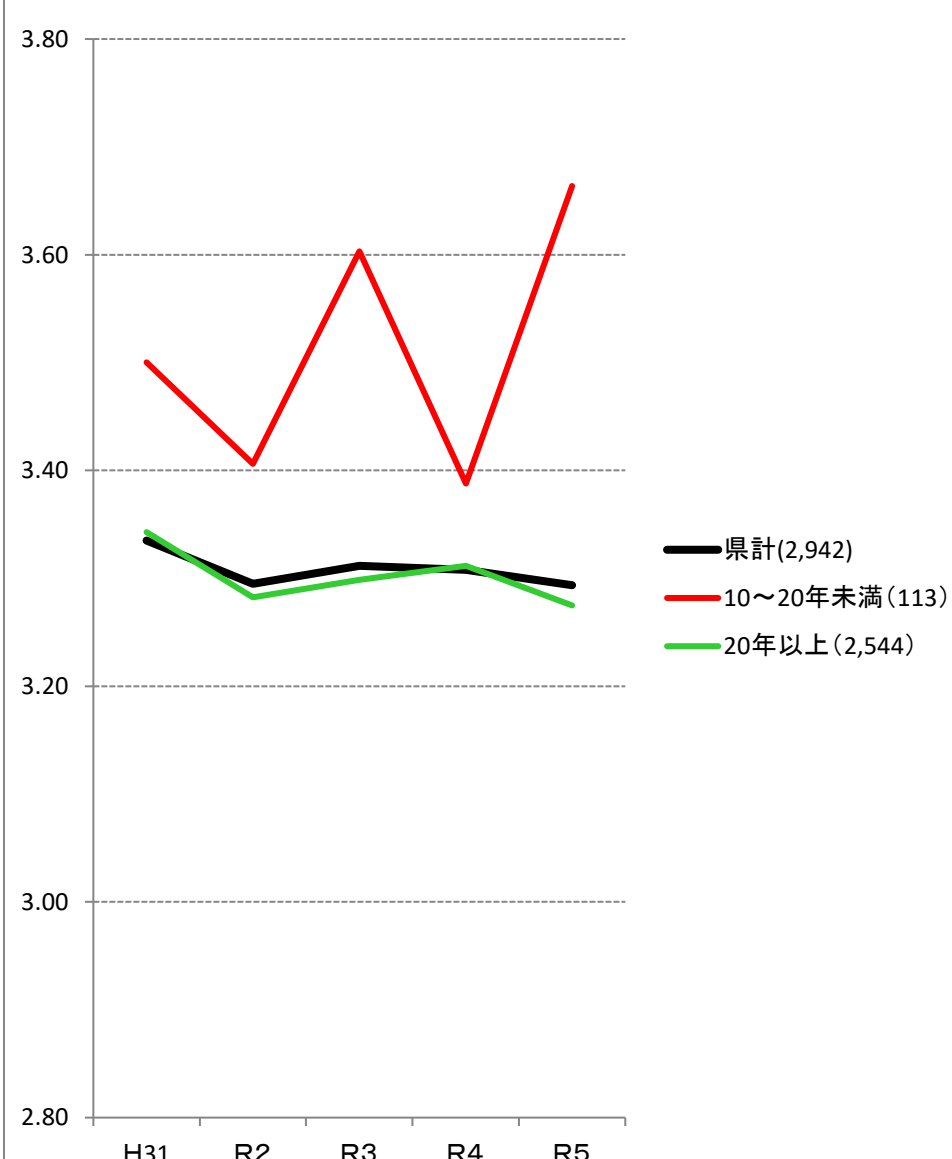
【 ** 】 住まいの快適さ(世帯構成別)



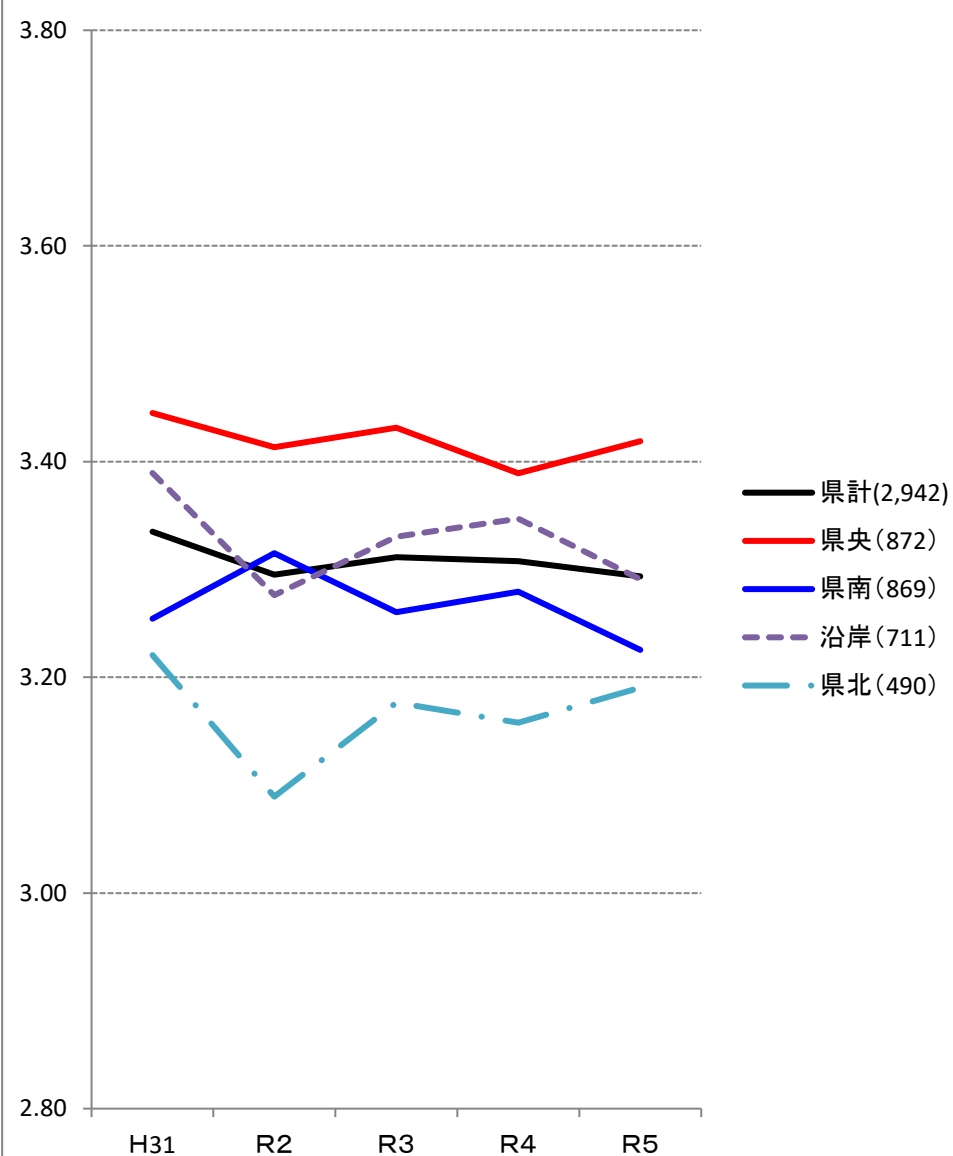
【 ** 】 住まいの快適さ(子どもの数別)



【 *** 】 住まいの快適さ(居住年数別)



【 *** 】 住まいの快適さ(広域圏別)



■凡例■

グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【 *** 】 1%水準で差が有意(差が認められる)

【 ** 】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【 * 】 10%水準で差が有意(差が認められる)

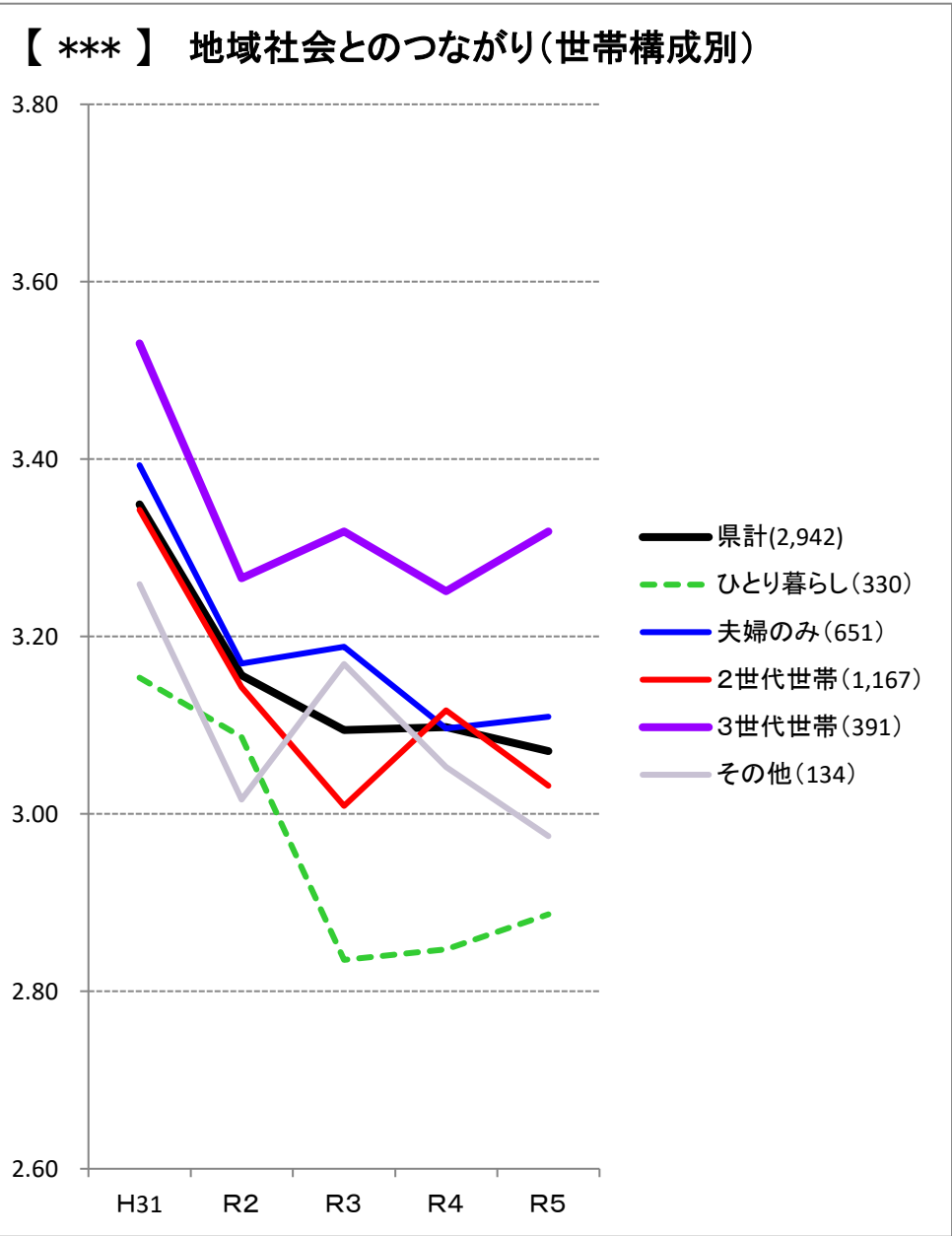
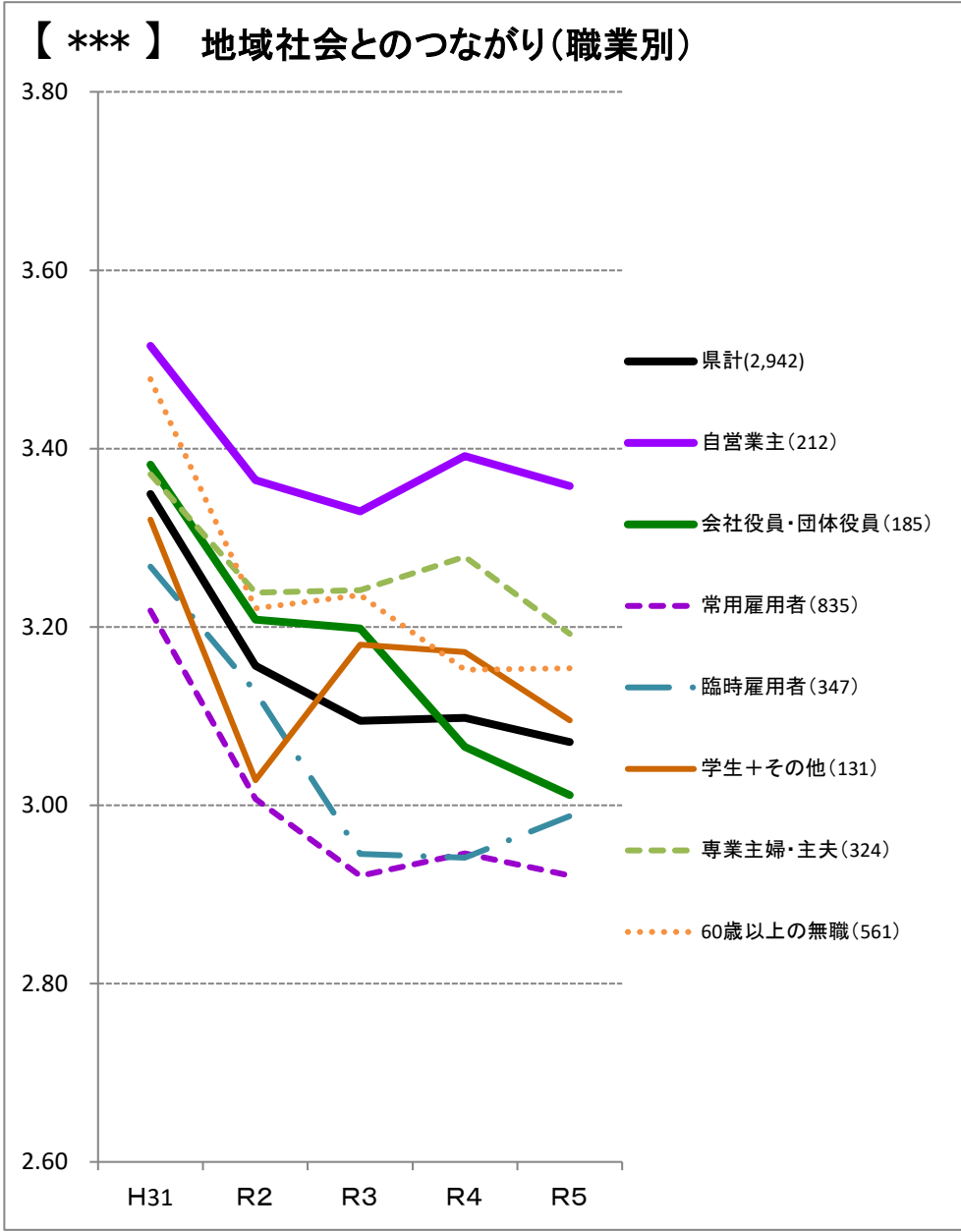
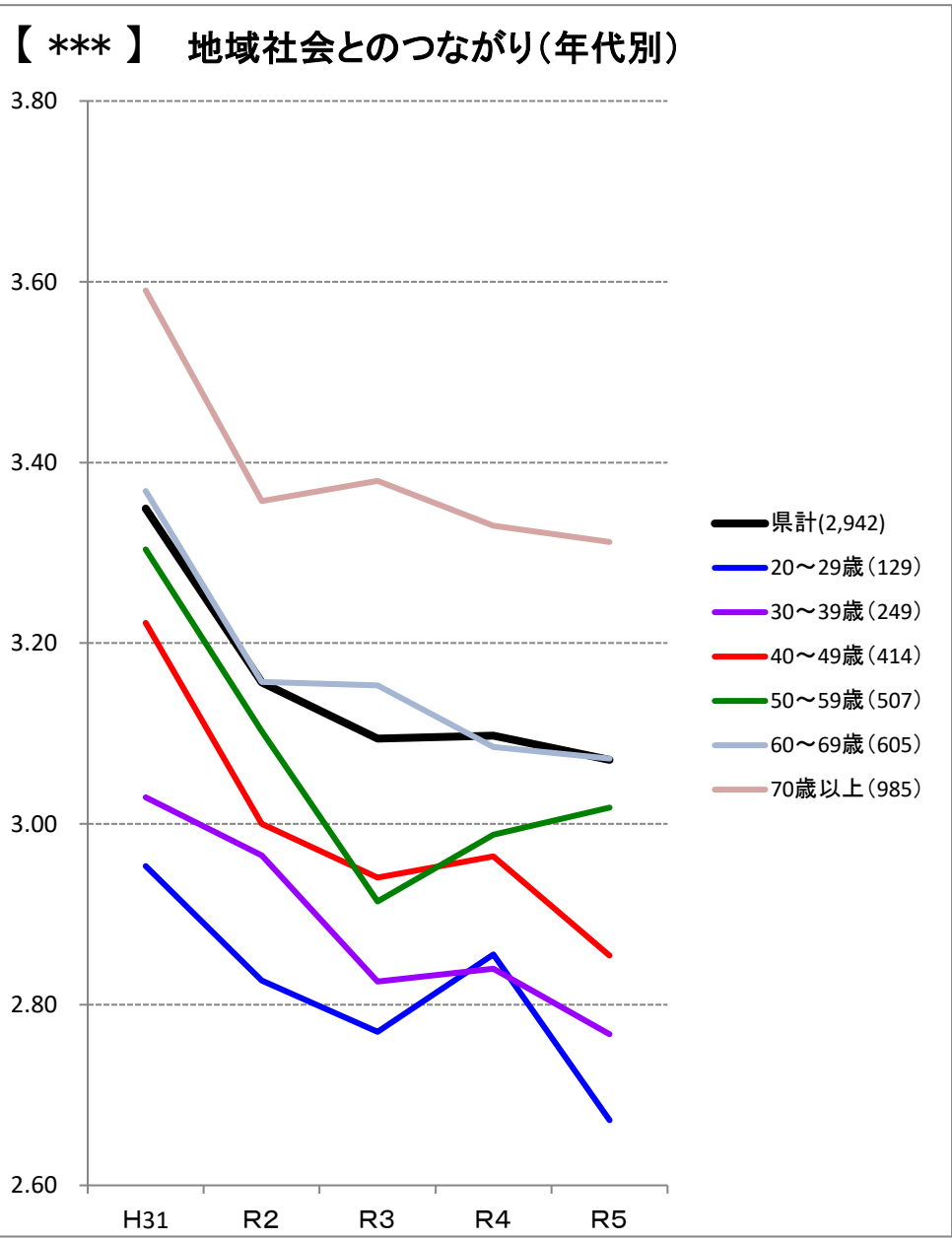
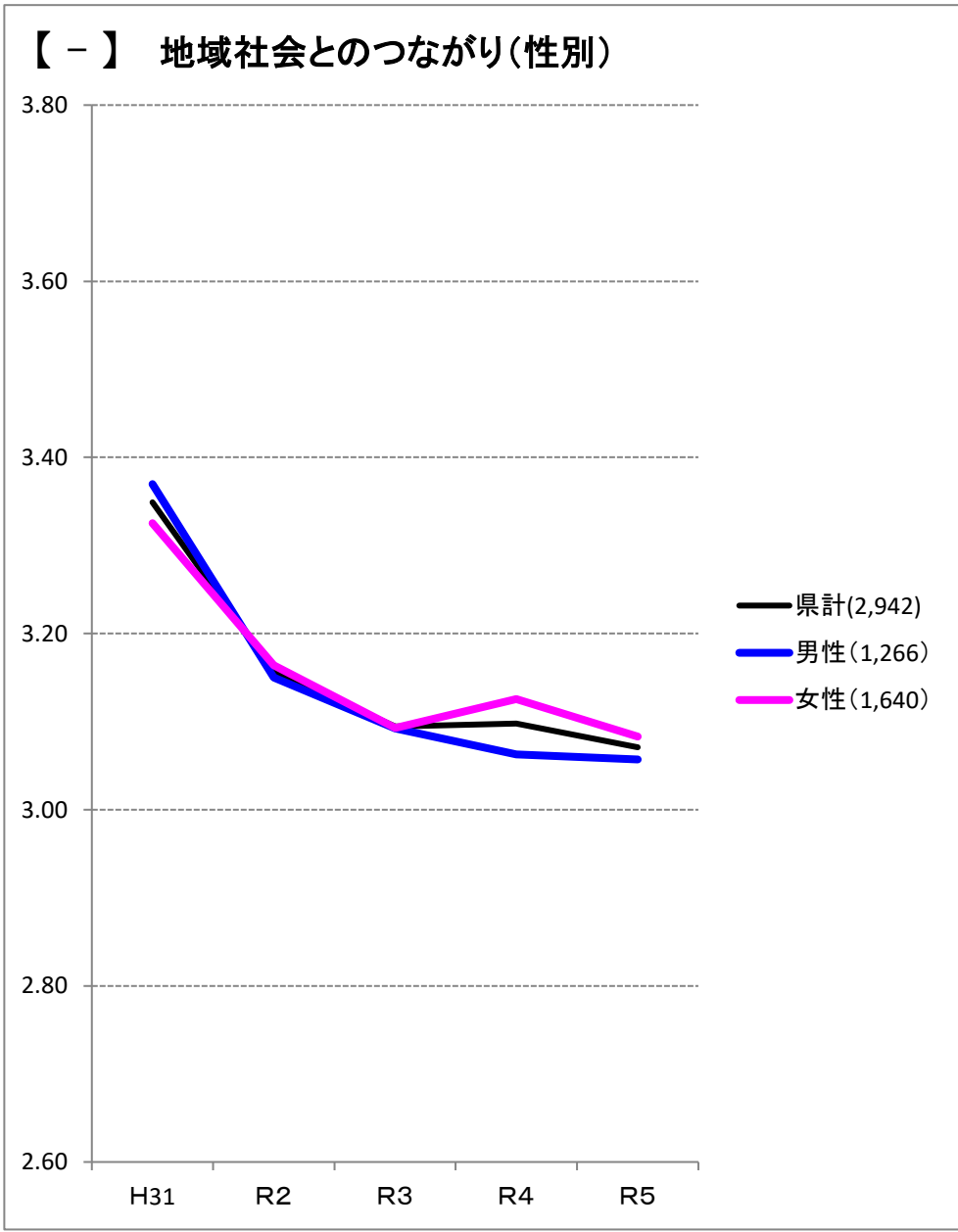
【 - 】 差が認められない

注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

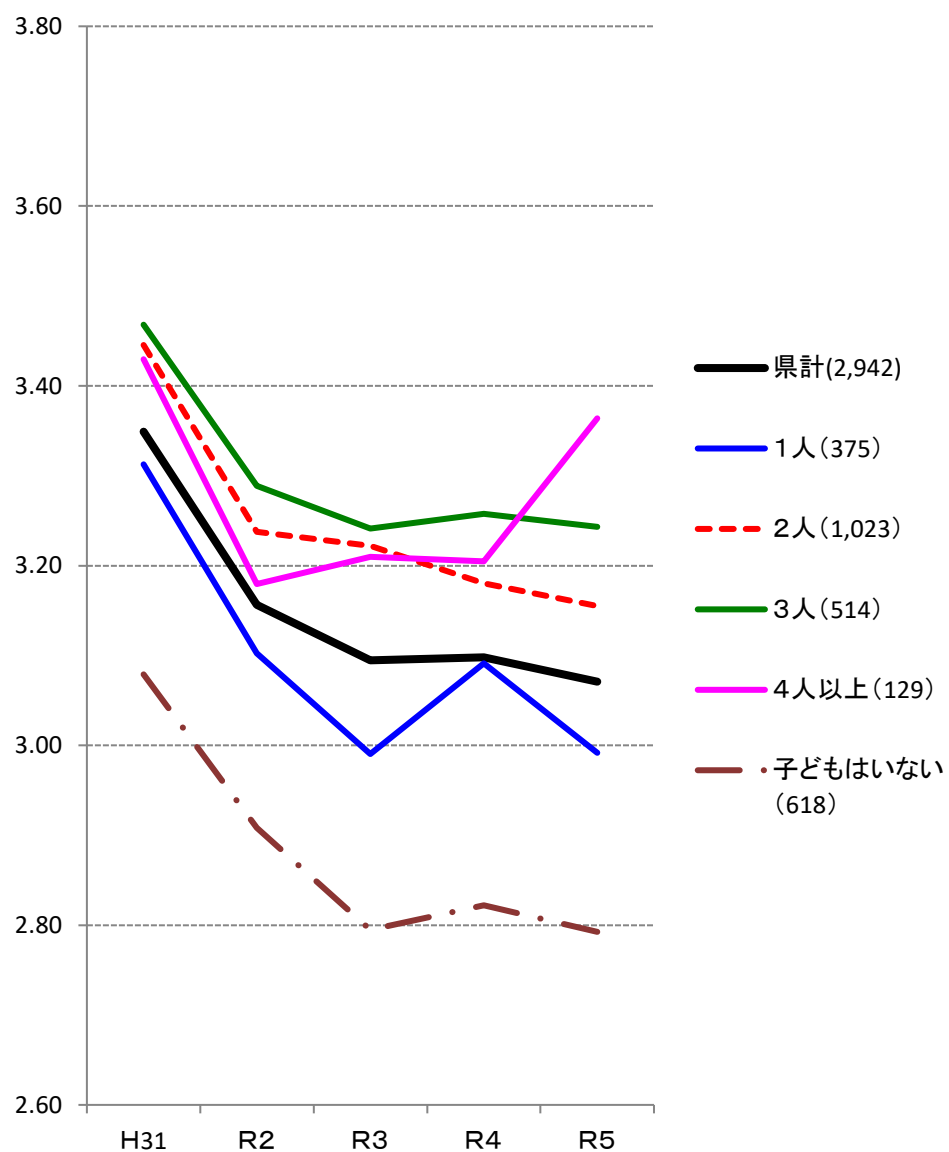
- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

【県計】【分野別実感】⑦地域社会とのつながりを感じますか。

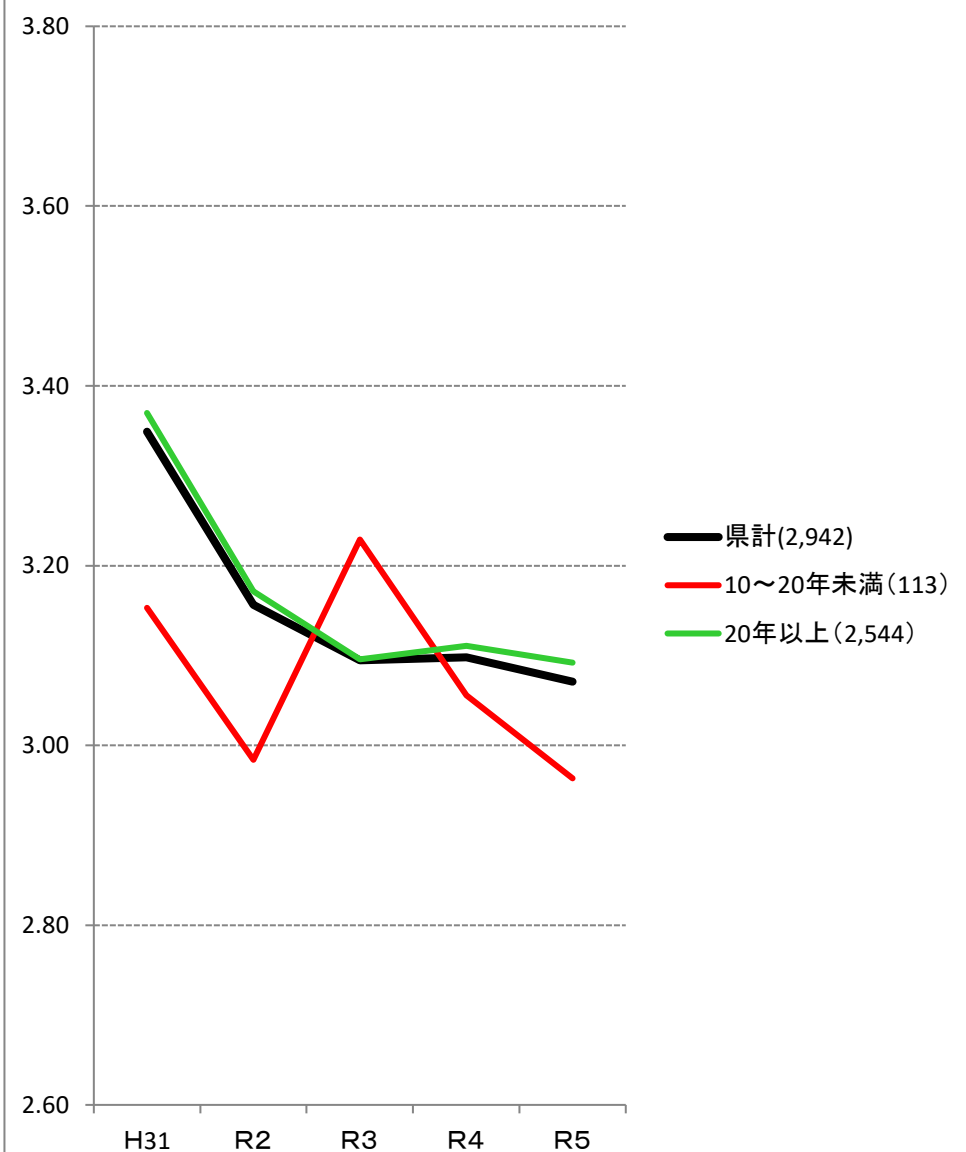
・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。
・令和5年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別、子どもの数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。職業別では、自営業主が高く、常用雇用者が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子どもの数別では、子4人以上が高く、子0人が低かった。広域振興圏別では、県北広域振興圏が高く、県央広域振興圏が低かった。



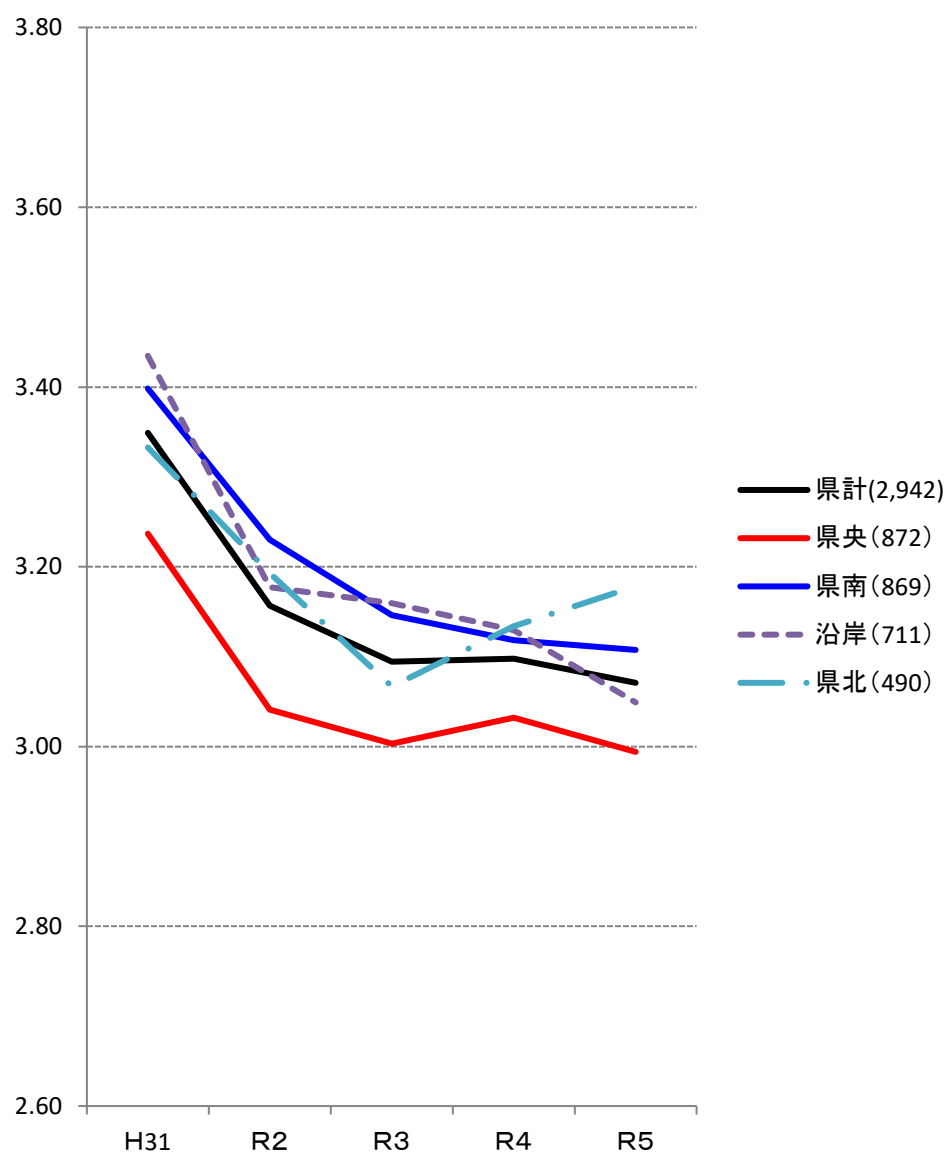
【 *** 】 地域社会とのつながり(子どもの数別)



【 - 】 地域社会とのつながり(居住年数別)



【 ** 】 地域社会とのつながり(広域圏別)



■ 凡例 ■

グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【 *** 】 1%水準で差が有意(差が認められる)

【 ** 】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【 * 】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【 - 】 差が認められない

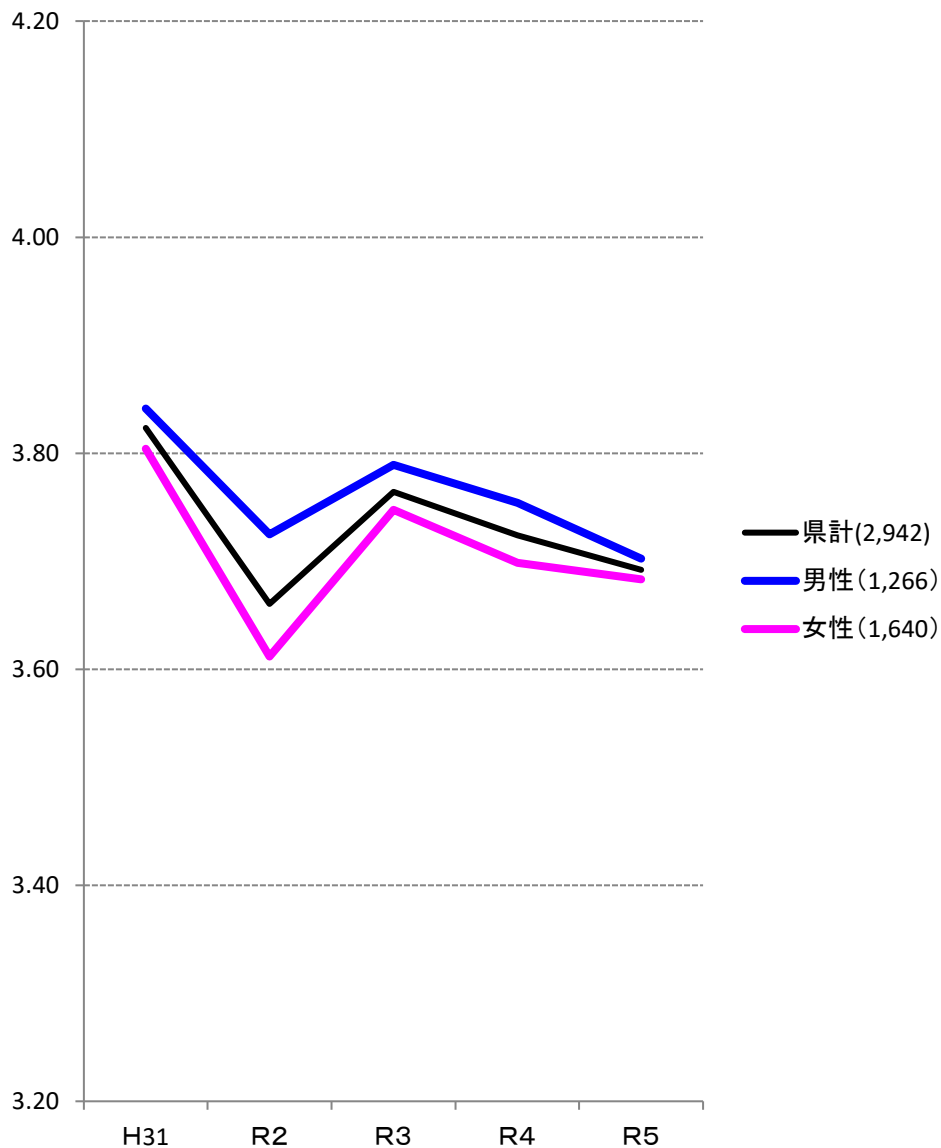
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

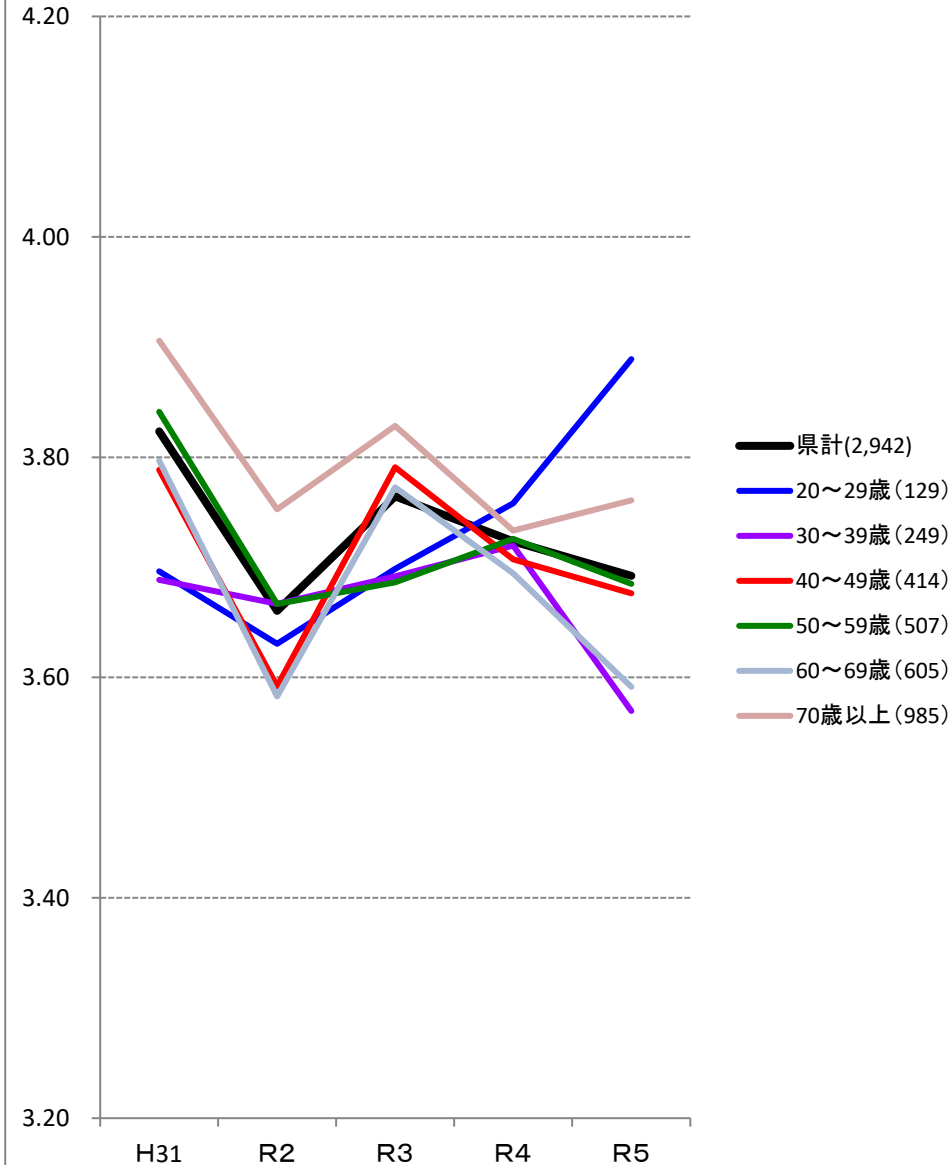
【県計】【分野別実感】⑧お住まいの地域は安全だと感じますか。

- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、居住年数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
年代別では、20歳代が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生＋その他が高く、臨時雇用者が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、沿岸広域振興圏が低かった。

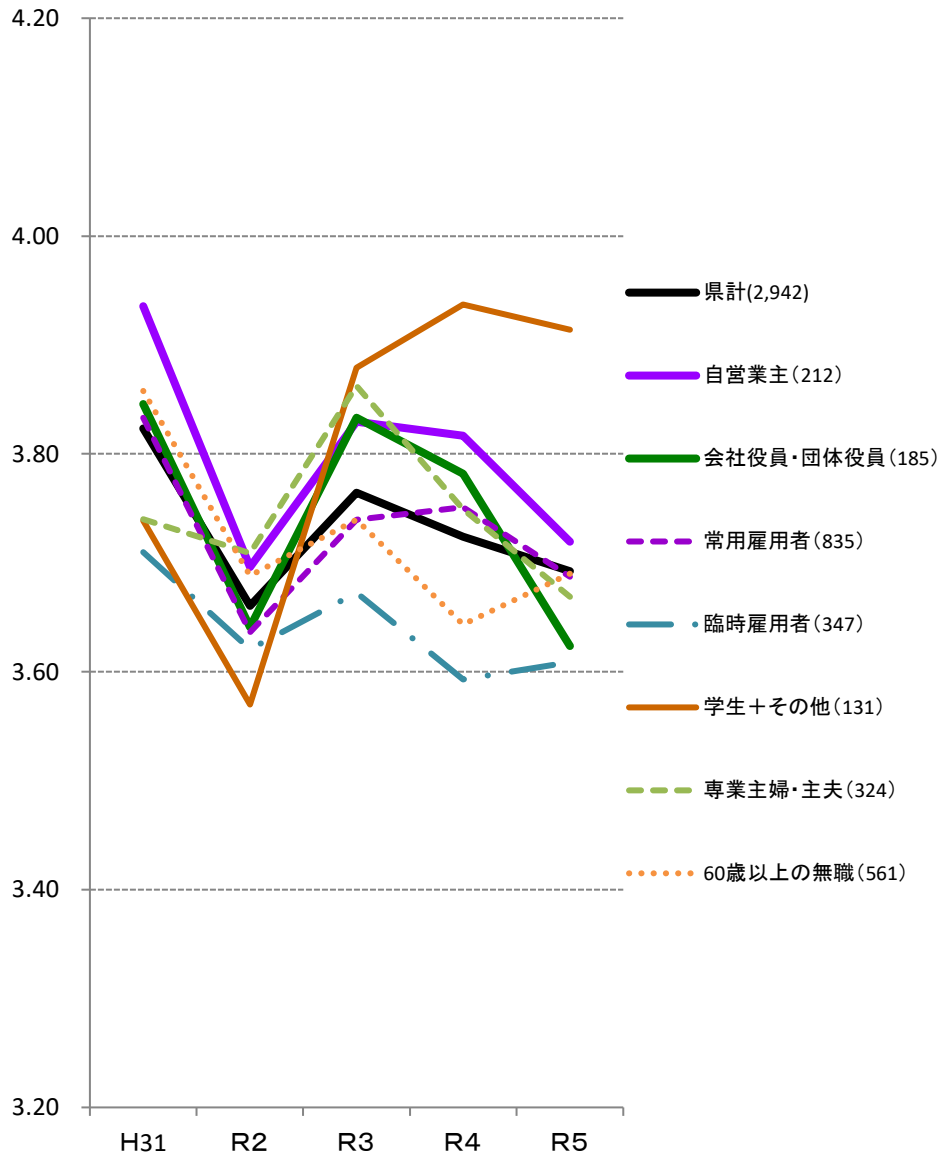
【－】 地域の安全(性別)



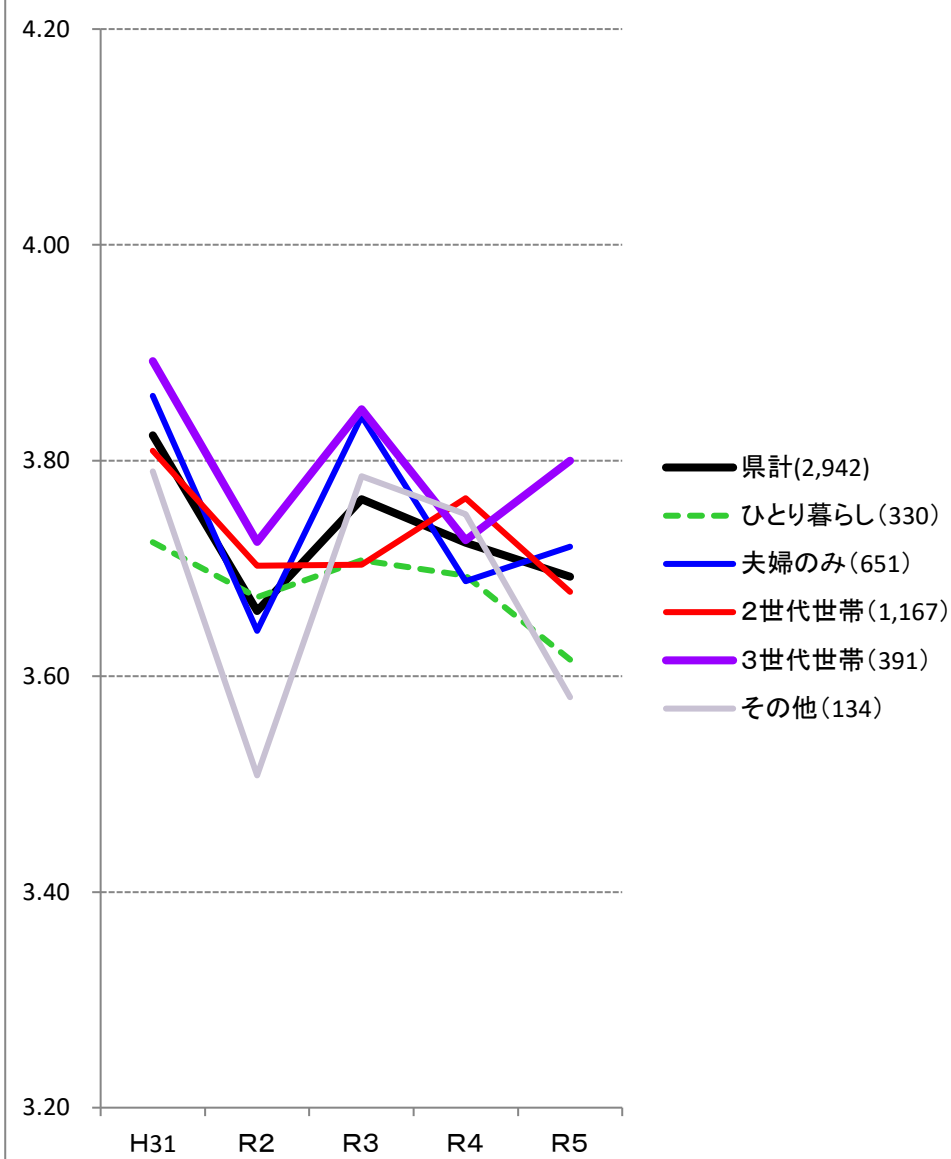
【***】 地域の安全(年代別)



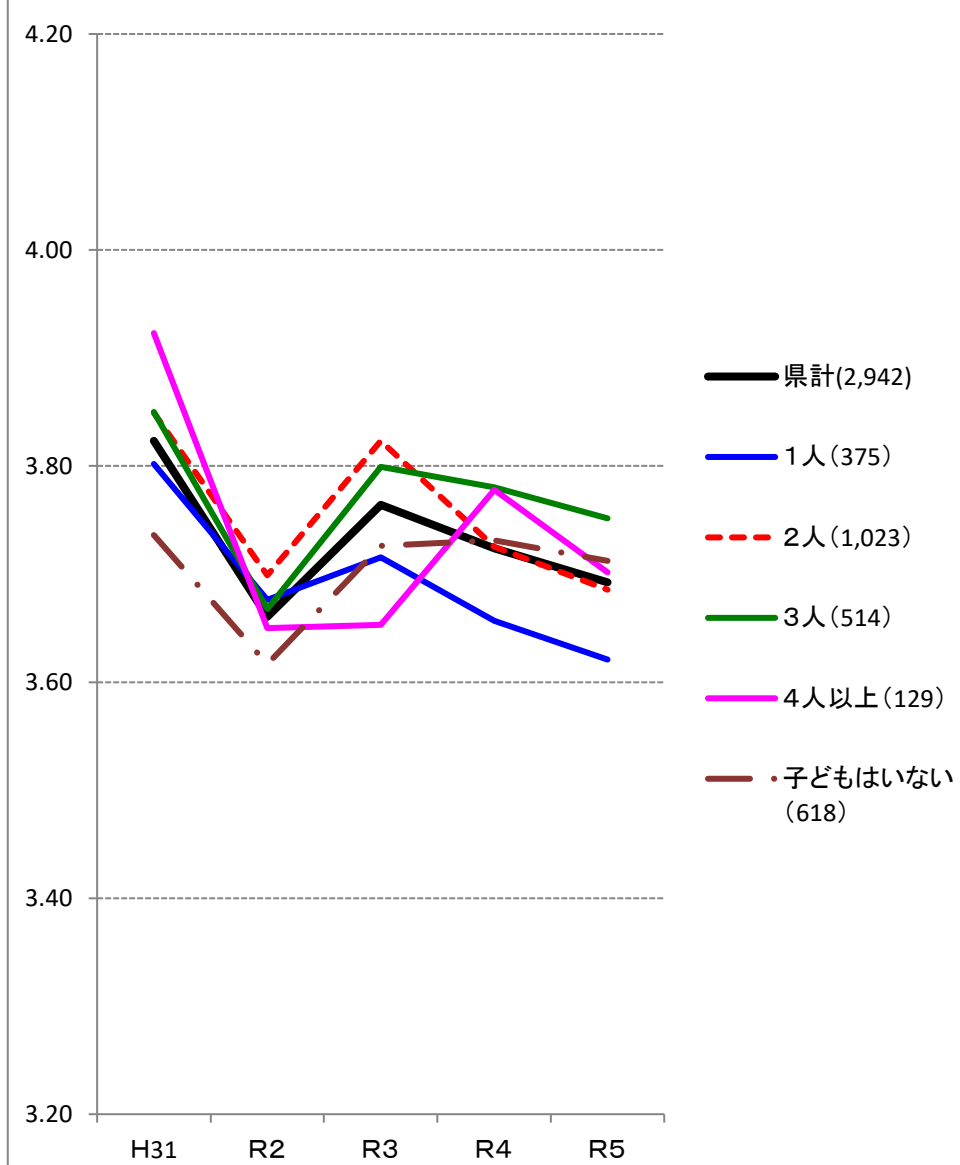
【**】 地域の安全(職業別)



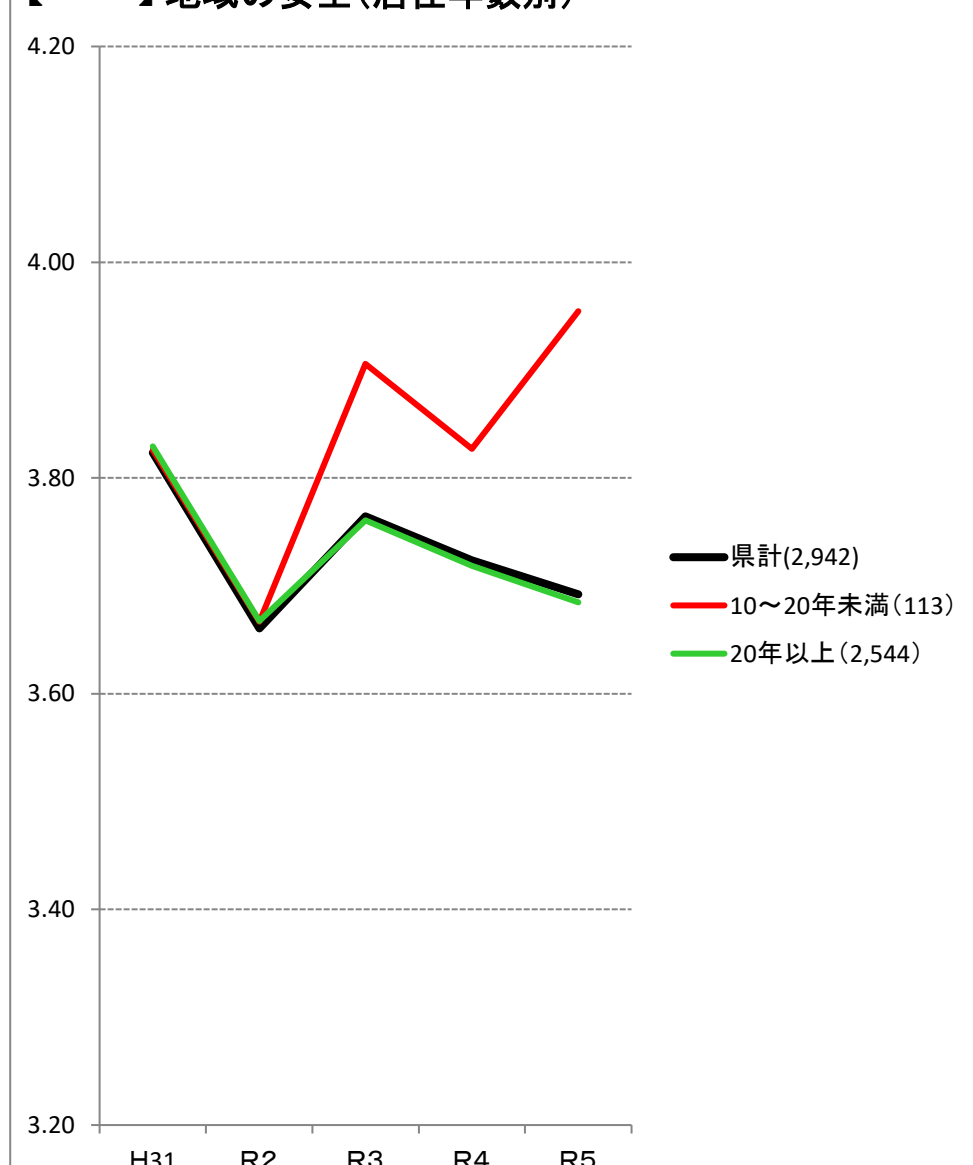
【*】 地域の安全(世帯構成別)



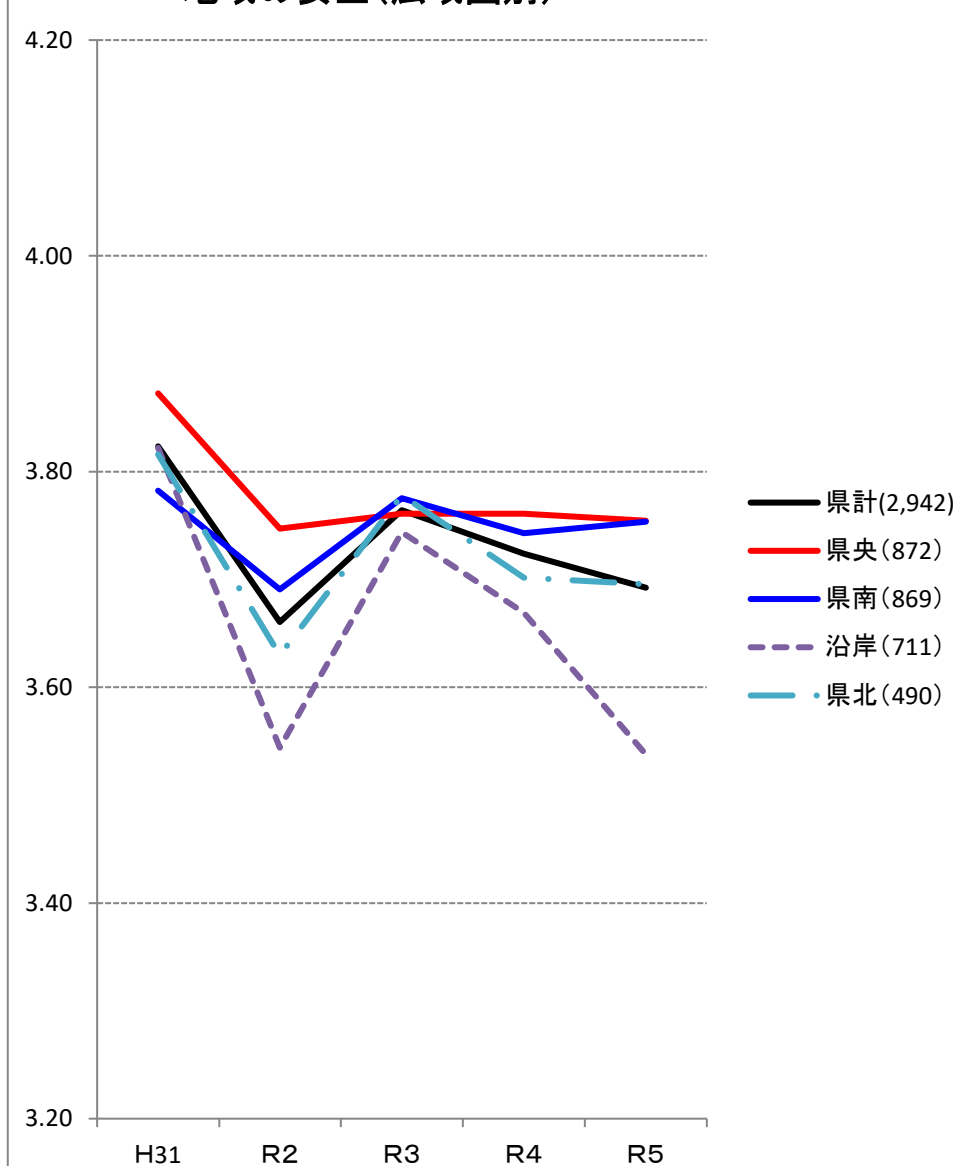
【 - 】 地域の安全(子どもの数別)



【 *** 】地域の安全(居住年数別)



【 *** 】地域の安全(広域圏別)



■凡例■

グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

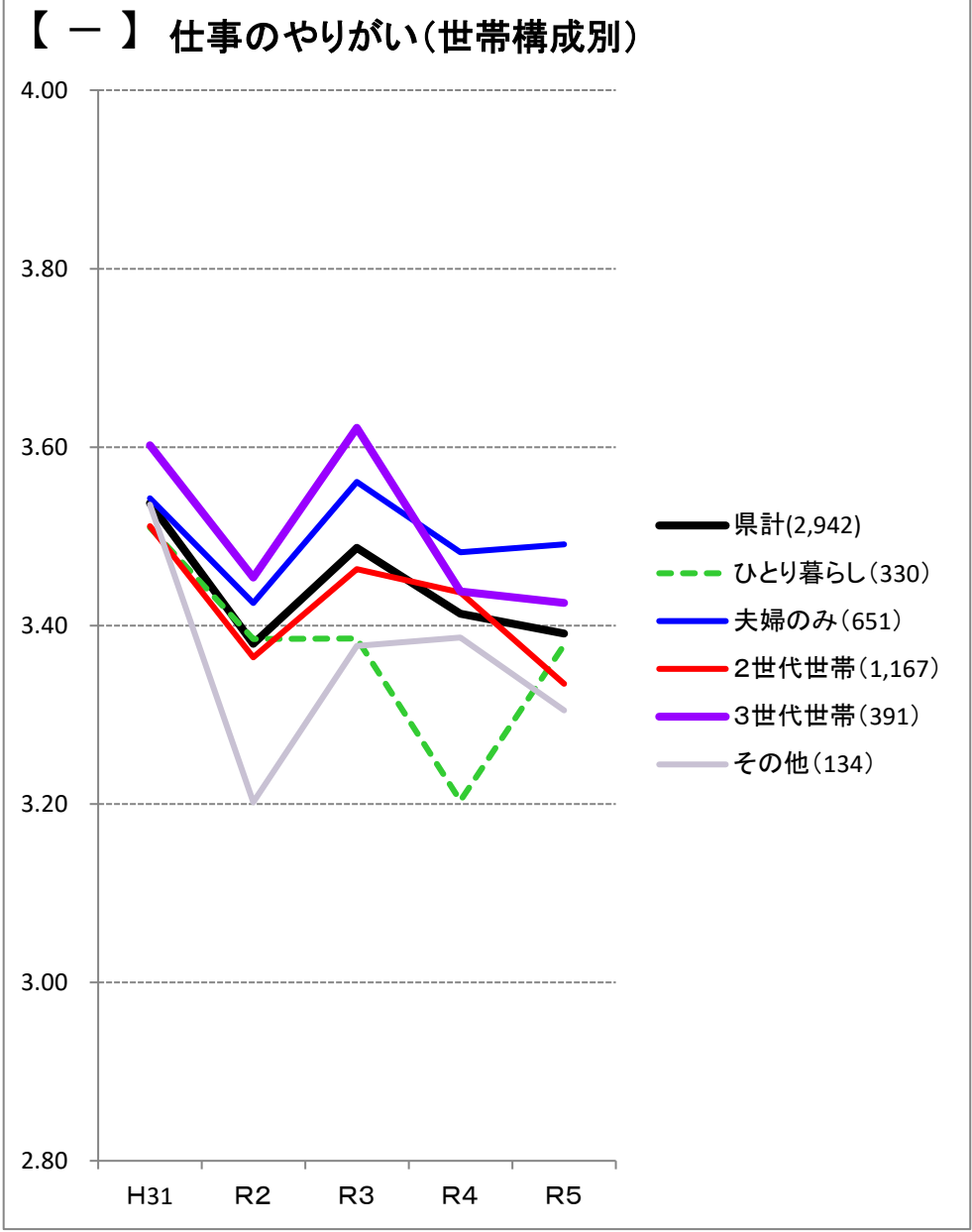
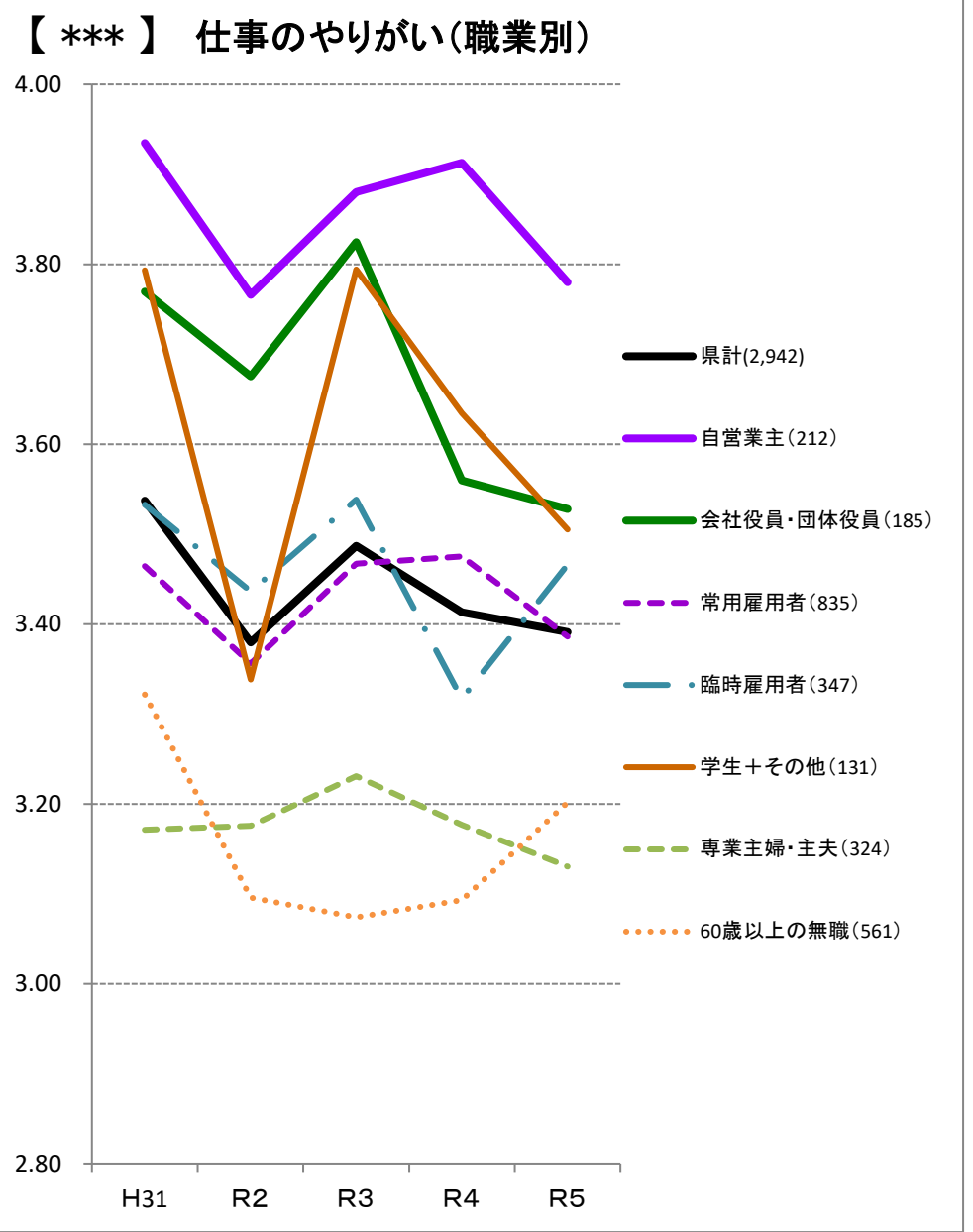
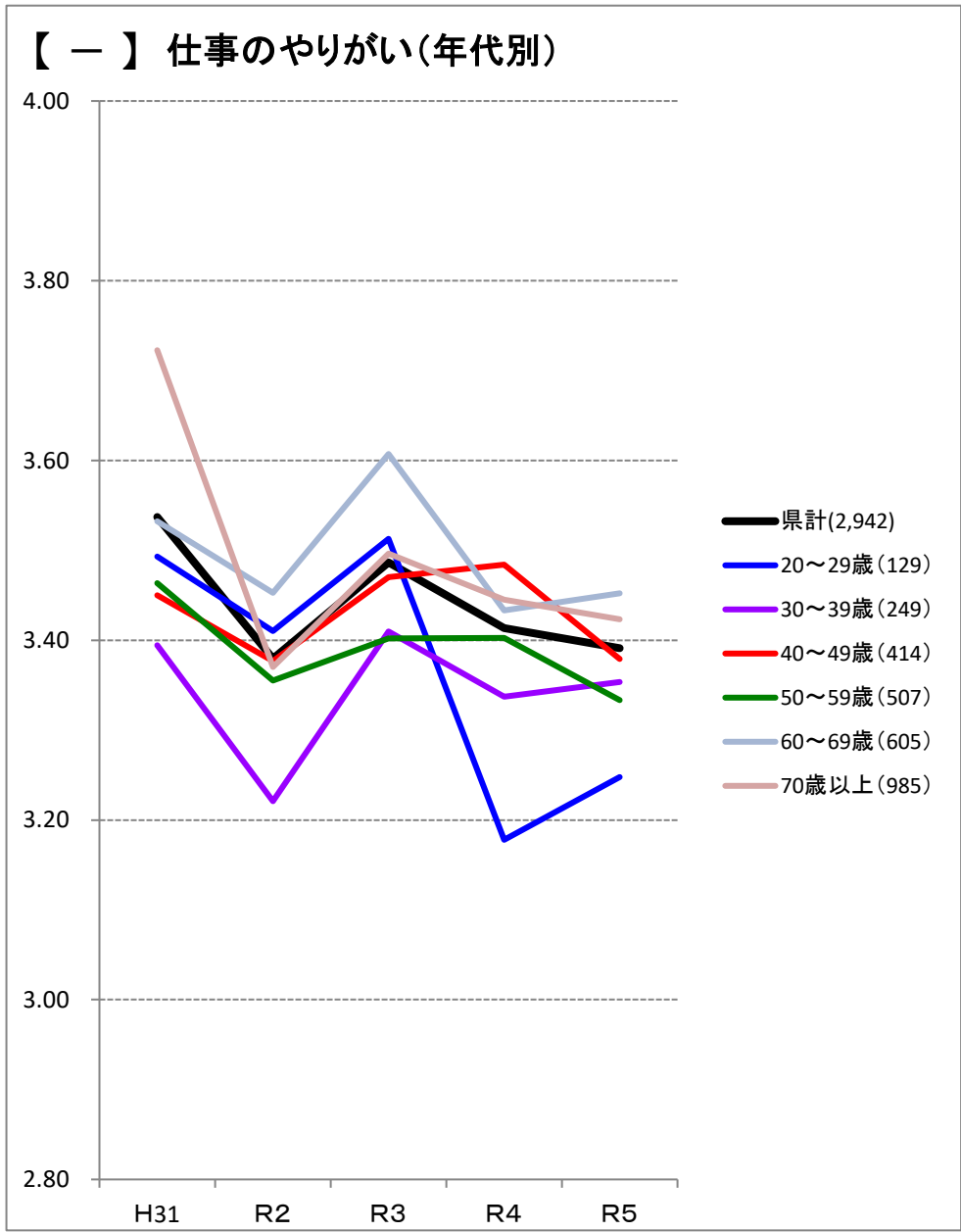
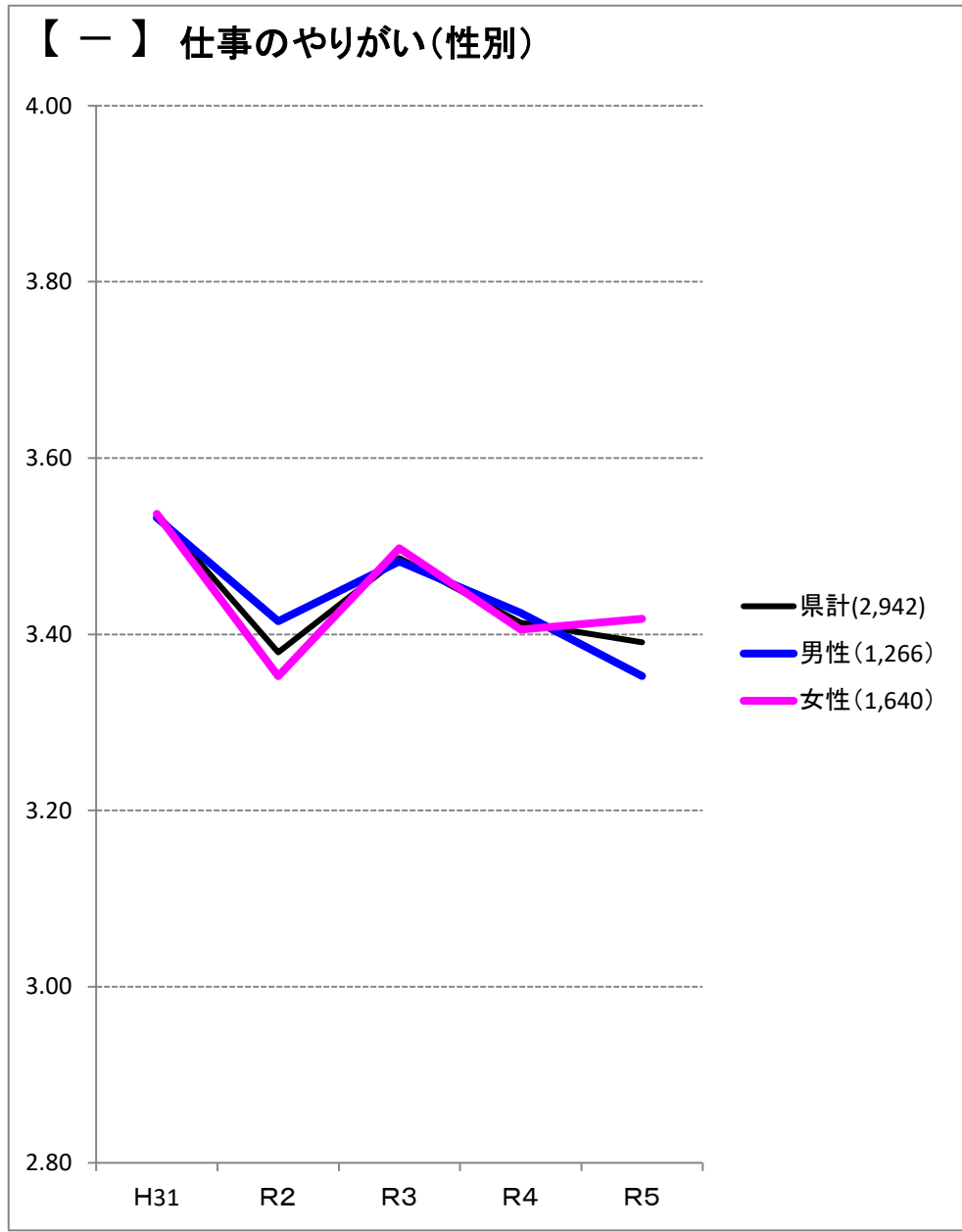
【-】差が認められない

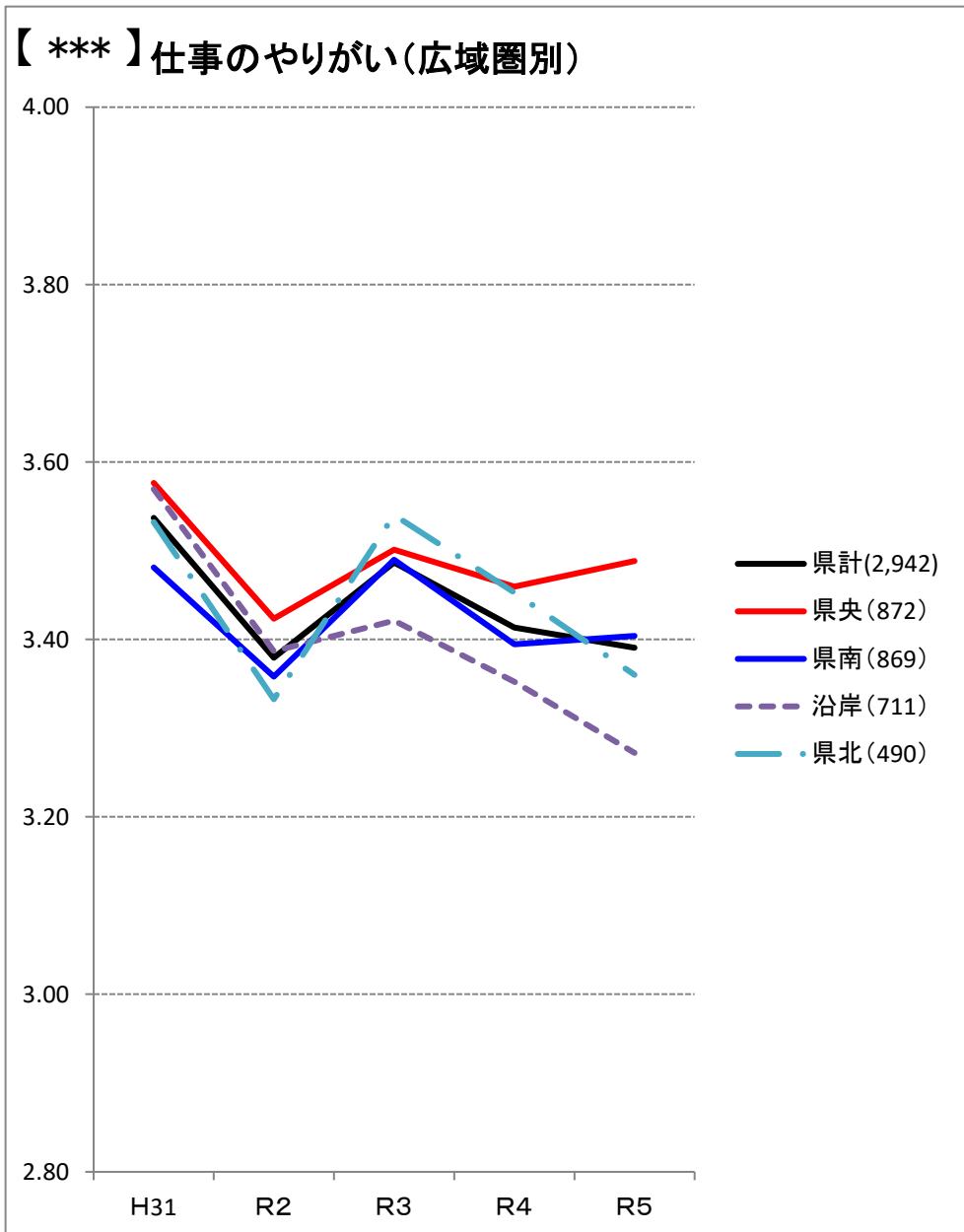
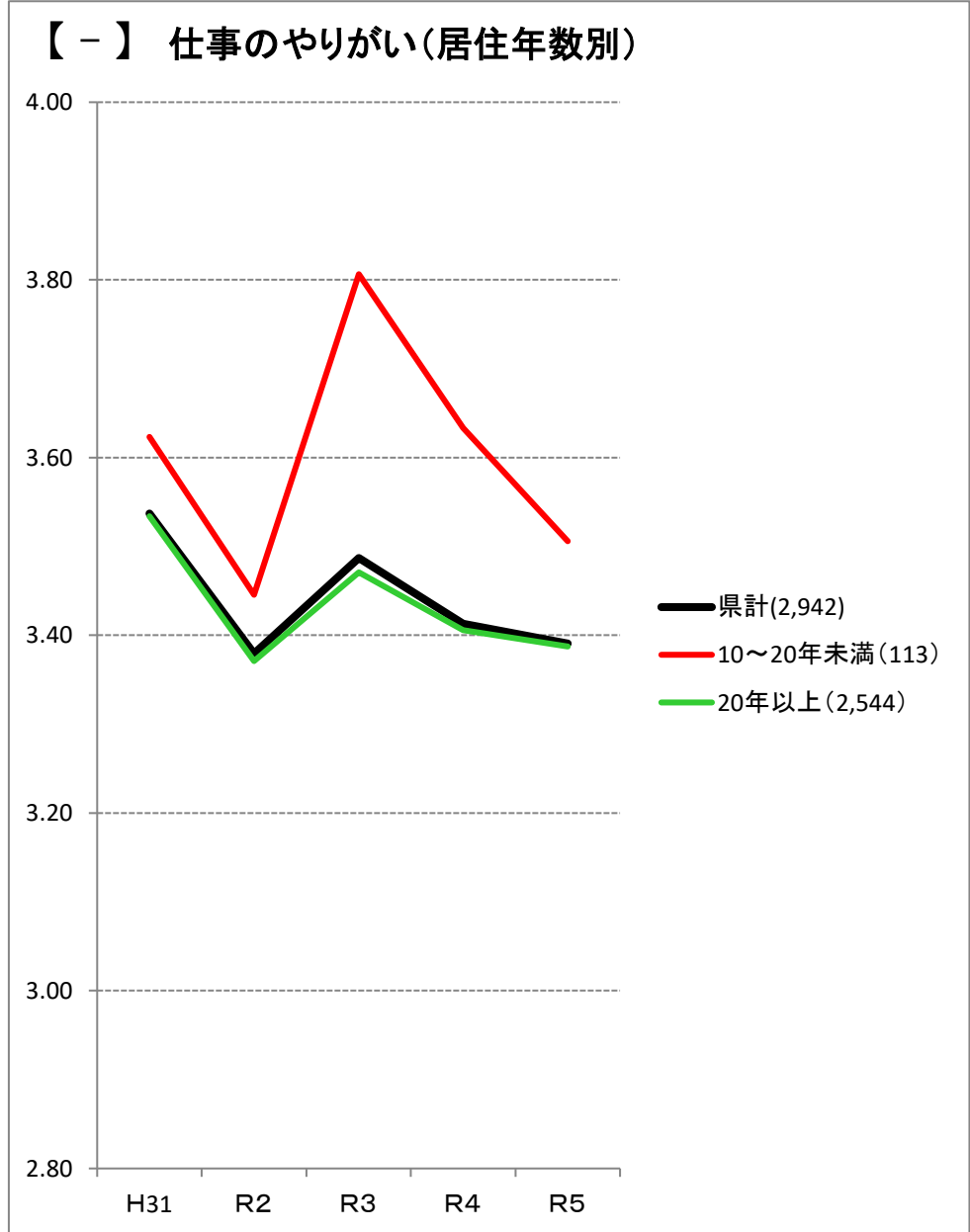
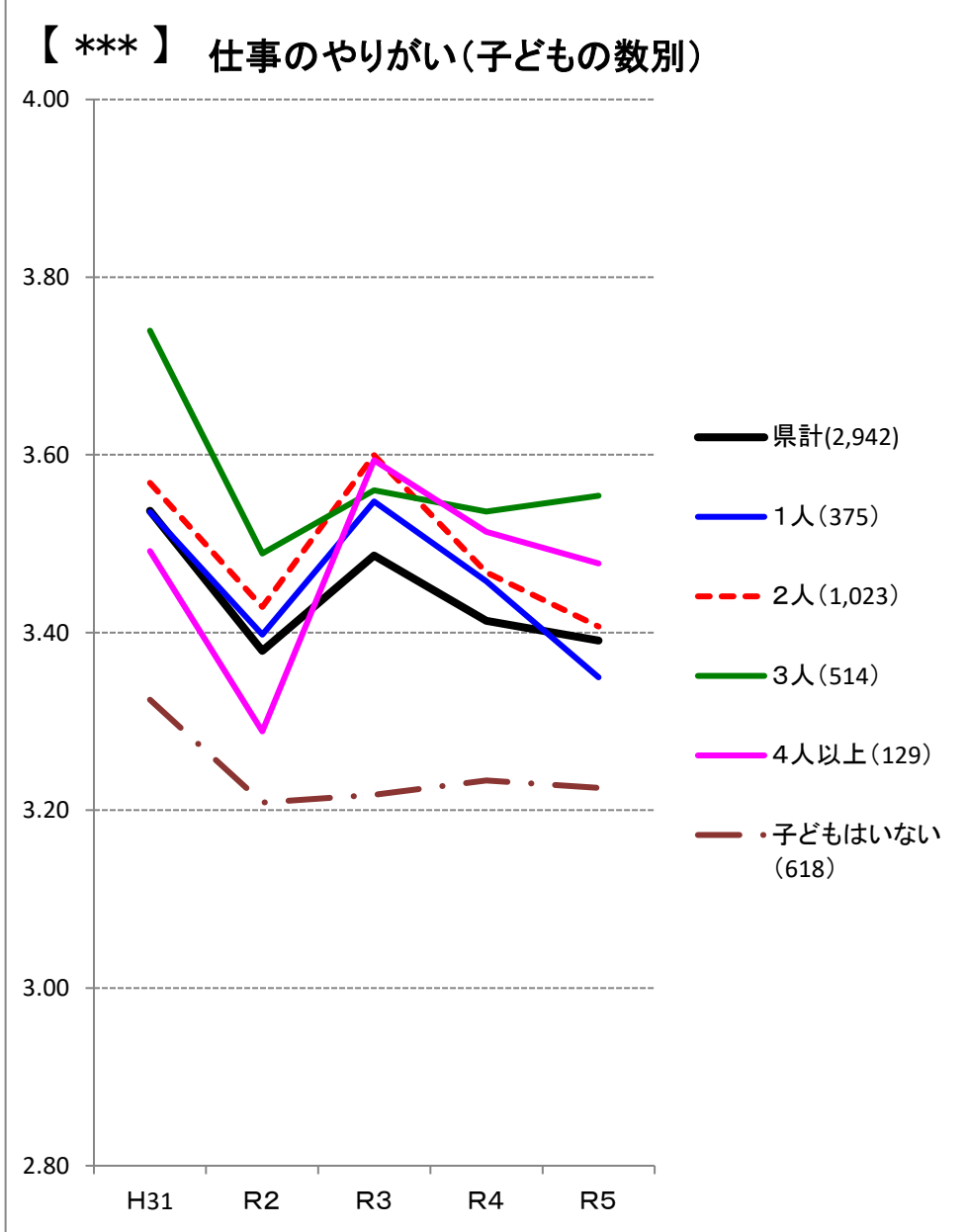
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

【県計】【分野別実感】⑨仕事にやりがいを感じますか。

- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、職業別、子どもの数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
職業別では、自営業主が高く、専業主婦・主夫が低かった。子どもの数別では、子3人が高く、子0人が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、沿岸広域振興圏が低かった。





■ 凡例 ■

グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【 *** 】 1%水準で差が有意(差が認められる)

【 ** 】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【 * 】 10%水準で差が有意(差が認められる)

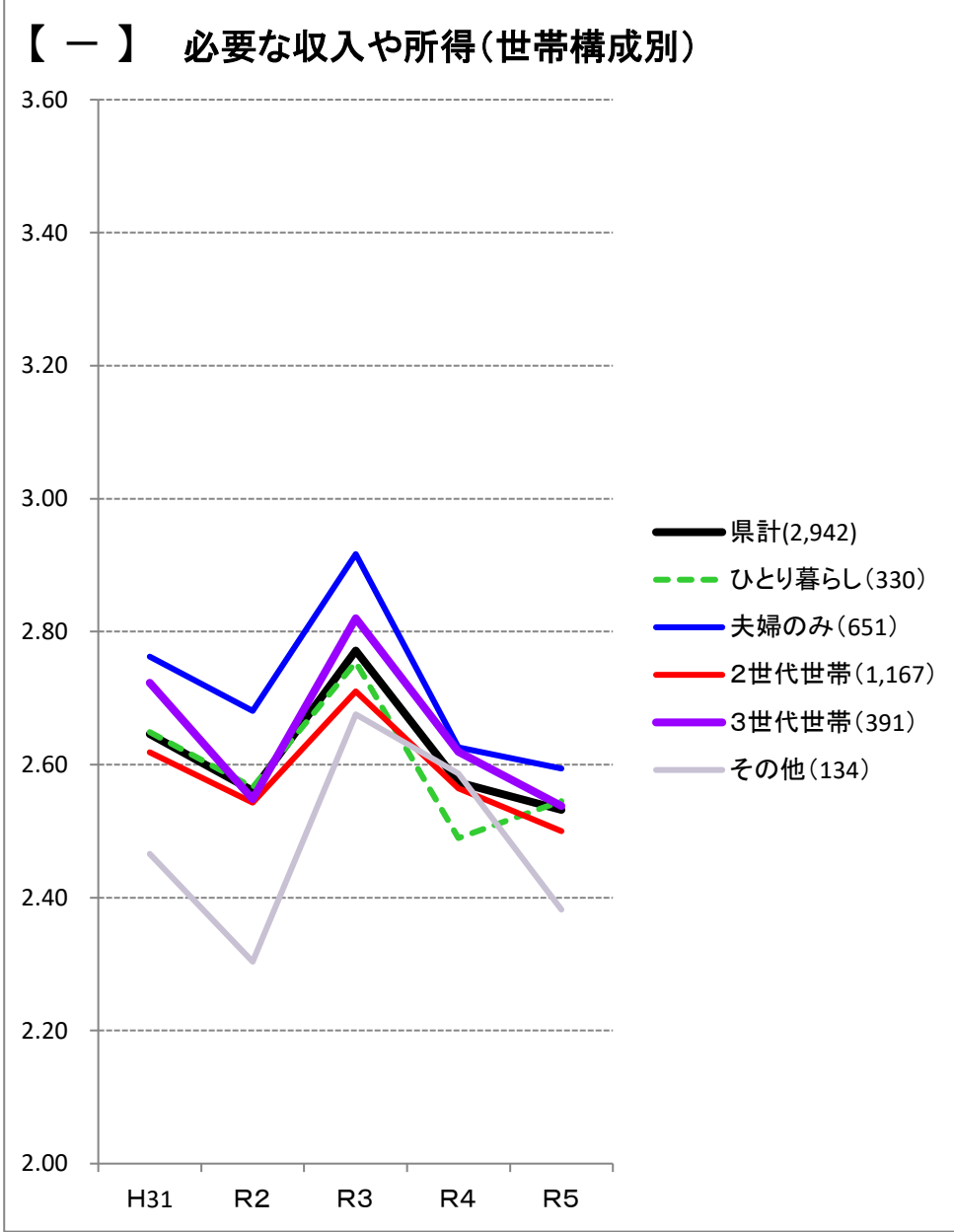
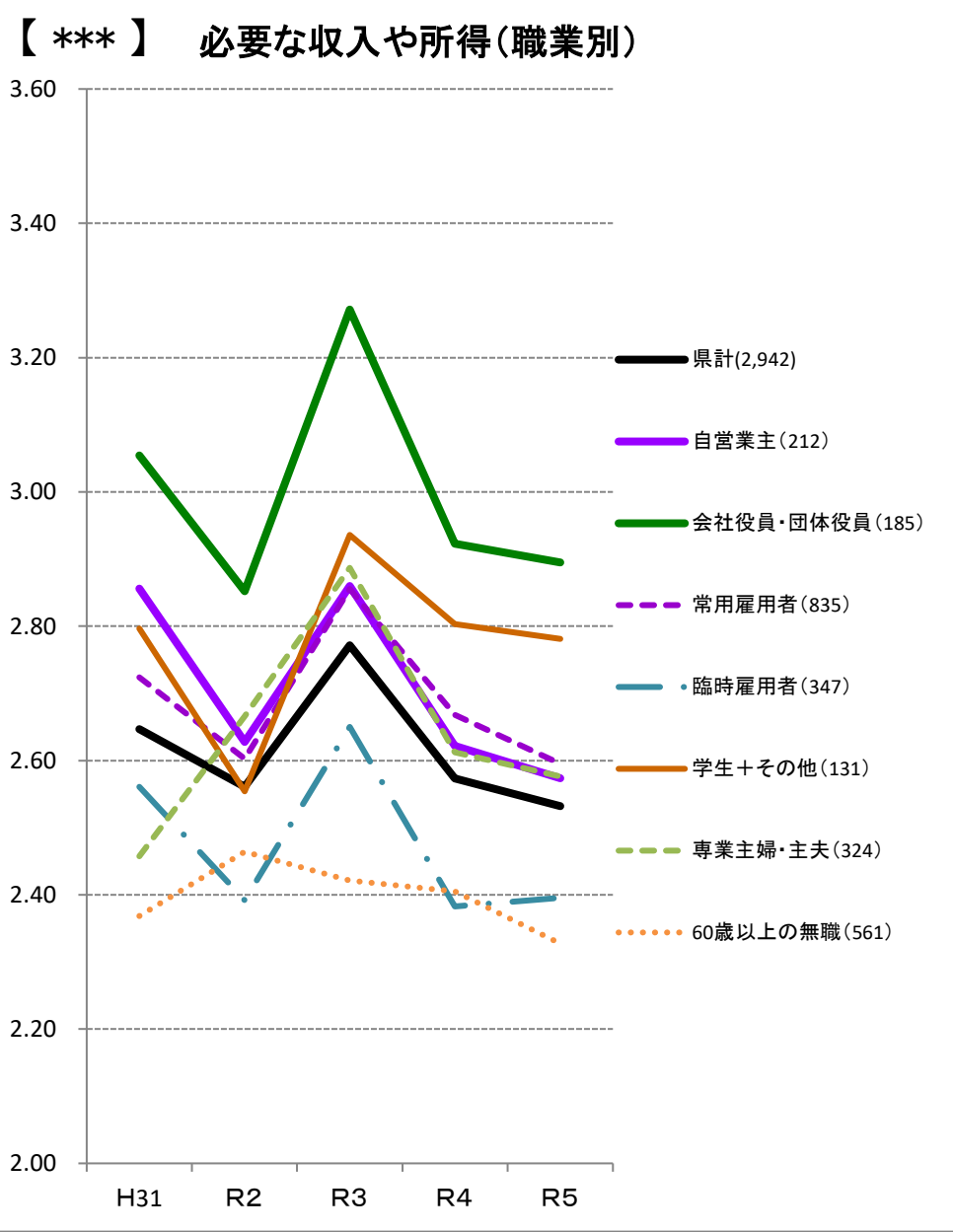
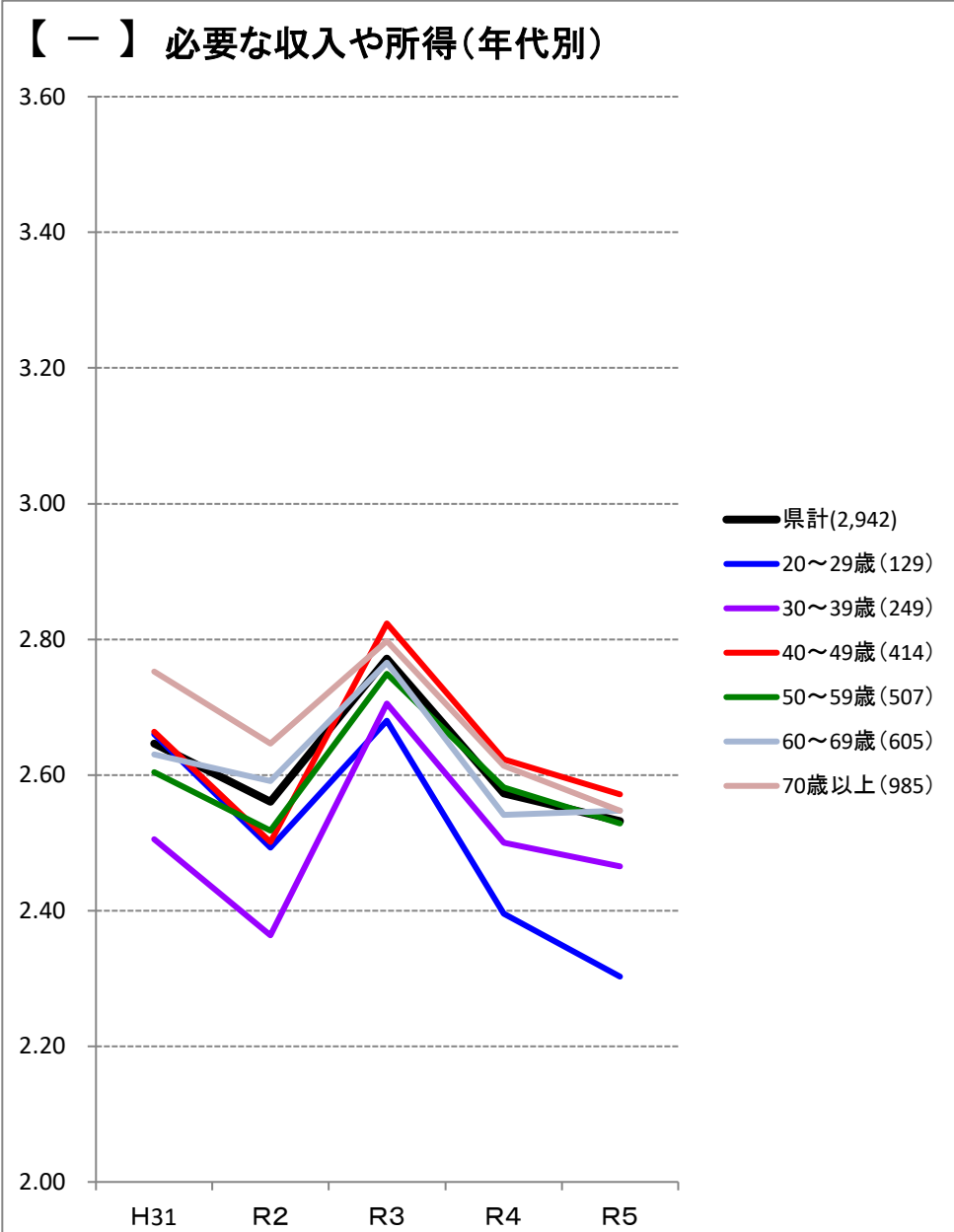
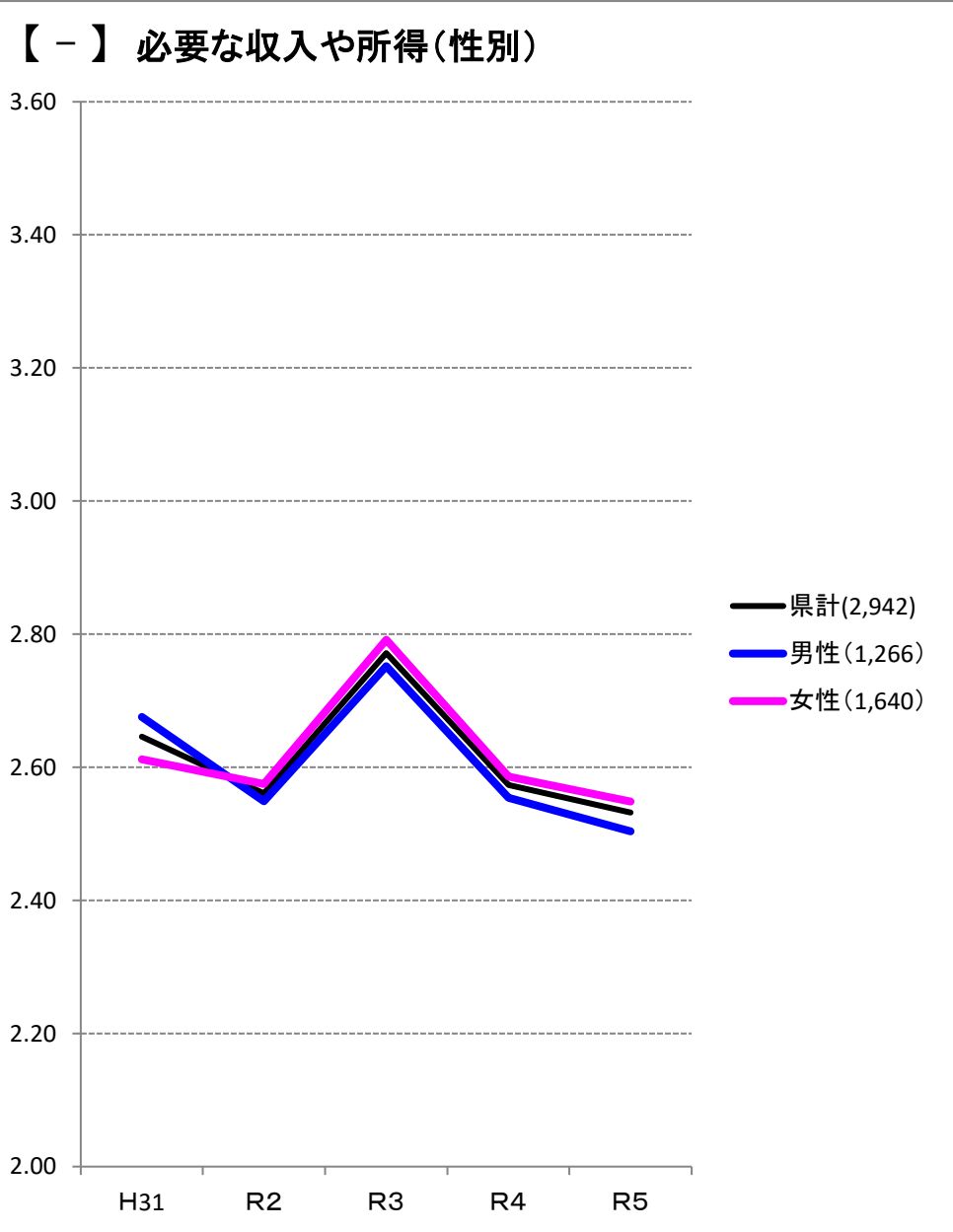
【 - 】 差が認められない

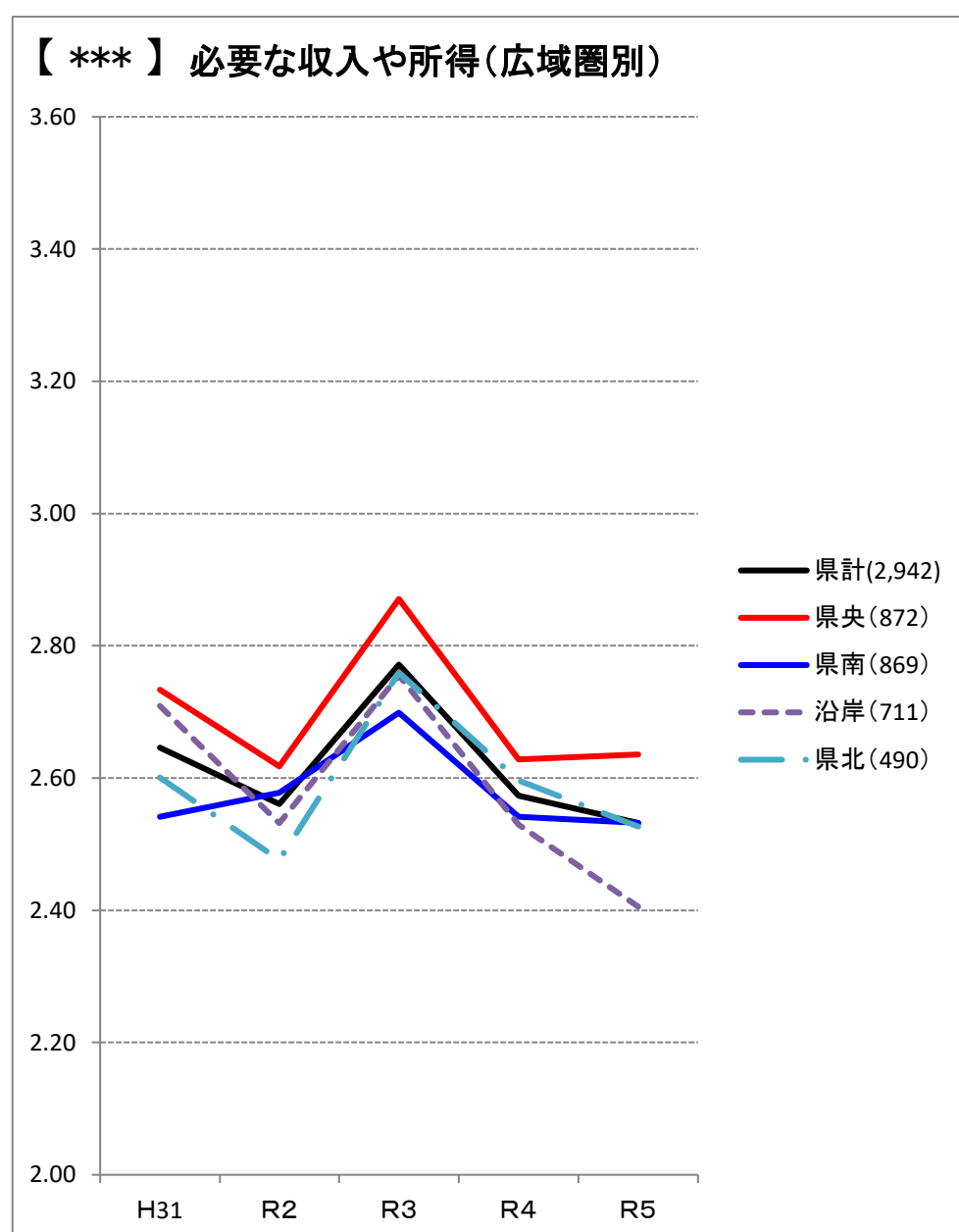
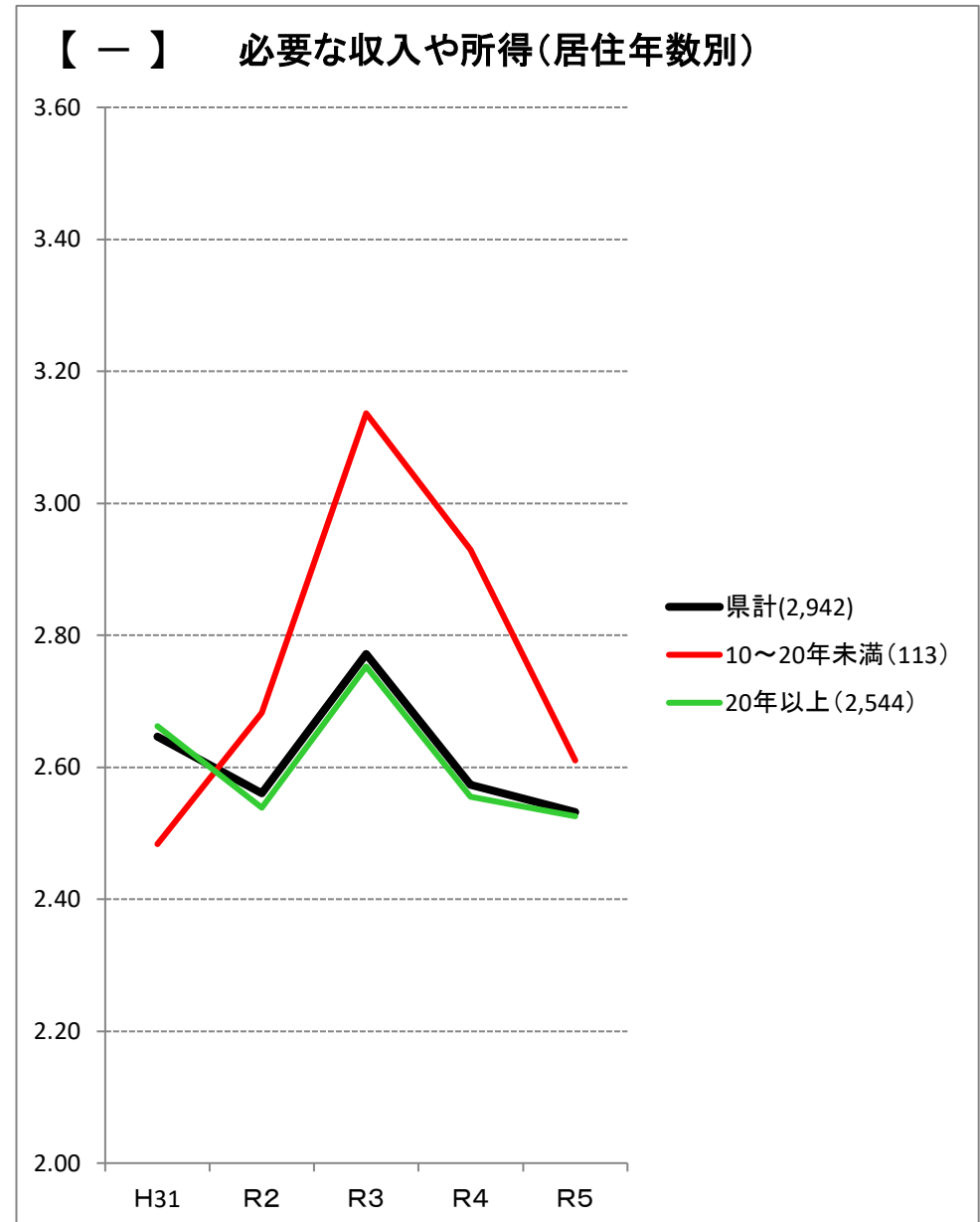
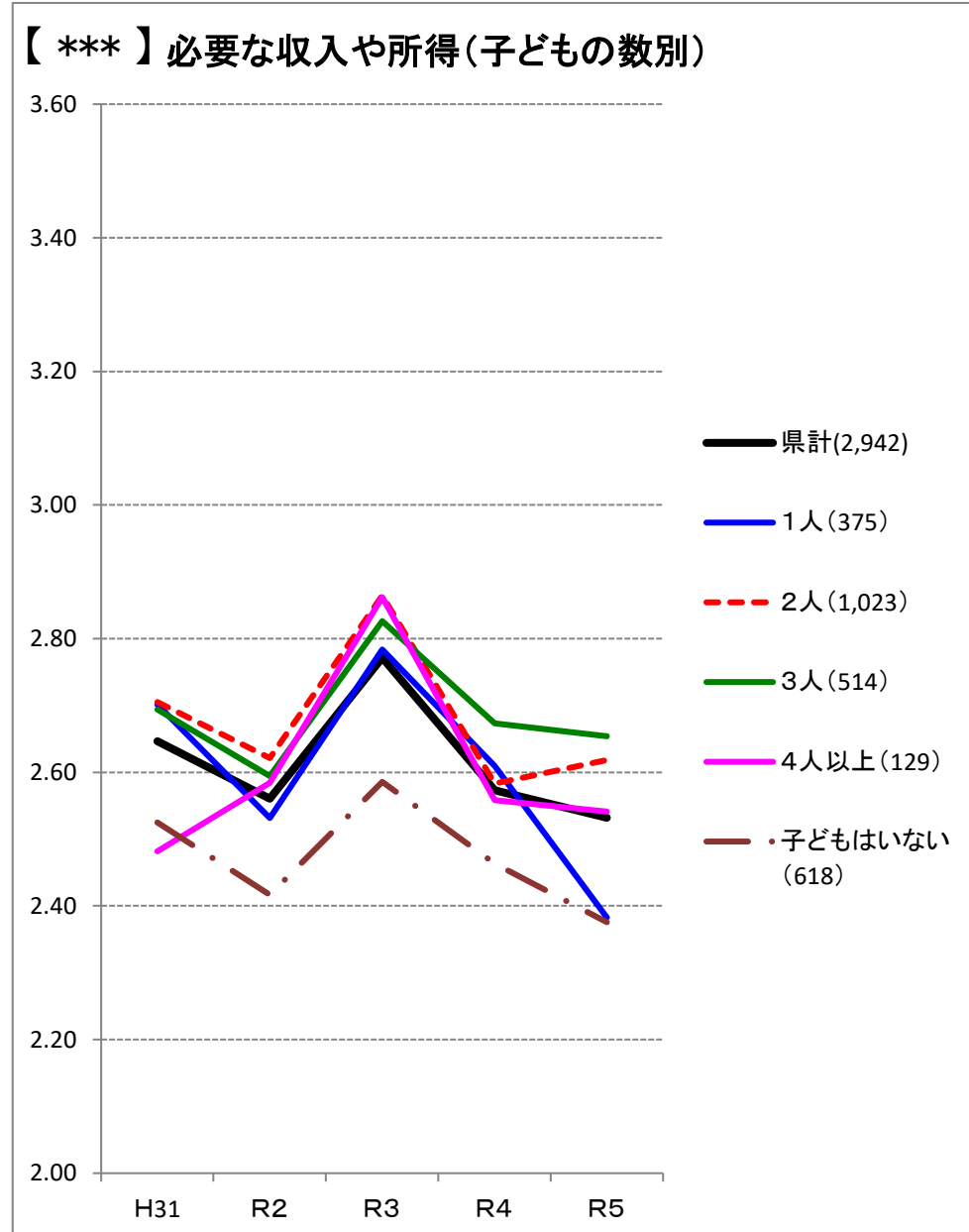
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

【県計】【分野別実感】⑩必要な収入や所得が得られていると感じますか。

- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、職業別、子どもの数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
職業別では、会社役員・団体役員が高く、60歳以上の無職が低かった。子どもの数別では、子3人が高く、子0人が低かった。
広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、沿岸広域振興圏が低かった。





■凡例■

グラフ左上の*は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

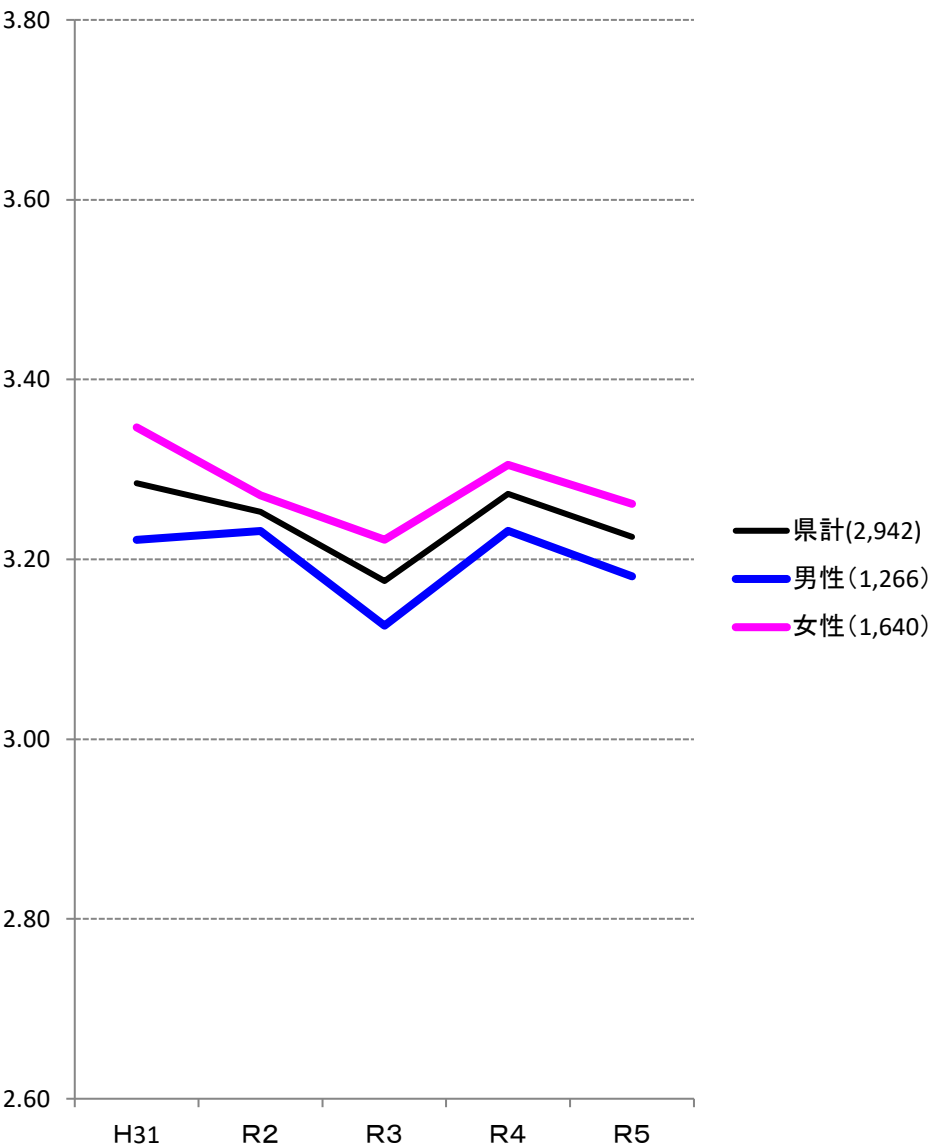
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・性別の「その他」
- ・年代の「18～19歳」
- ・職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・居住年数「10年未満」

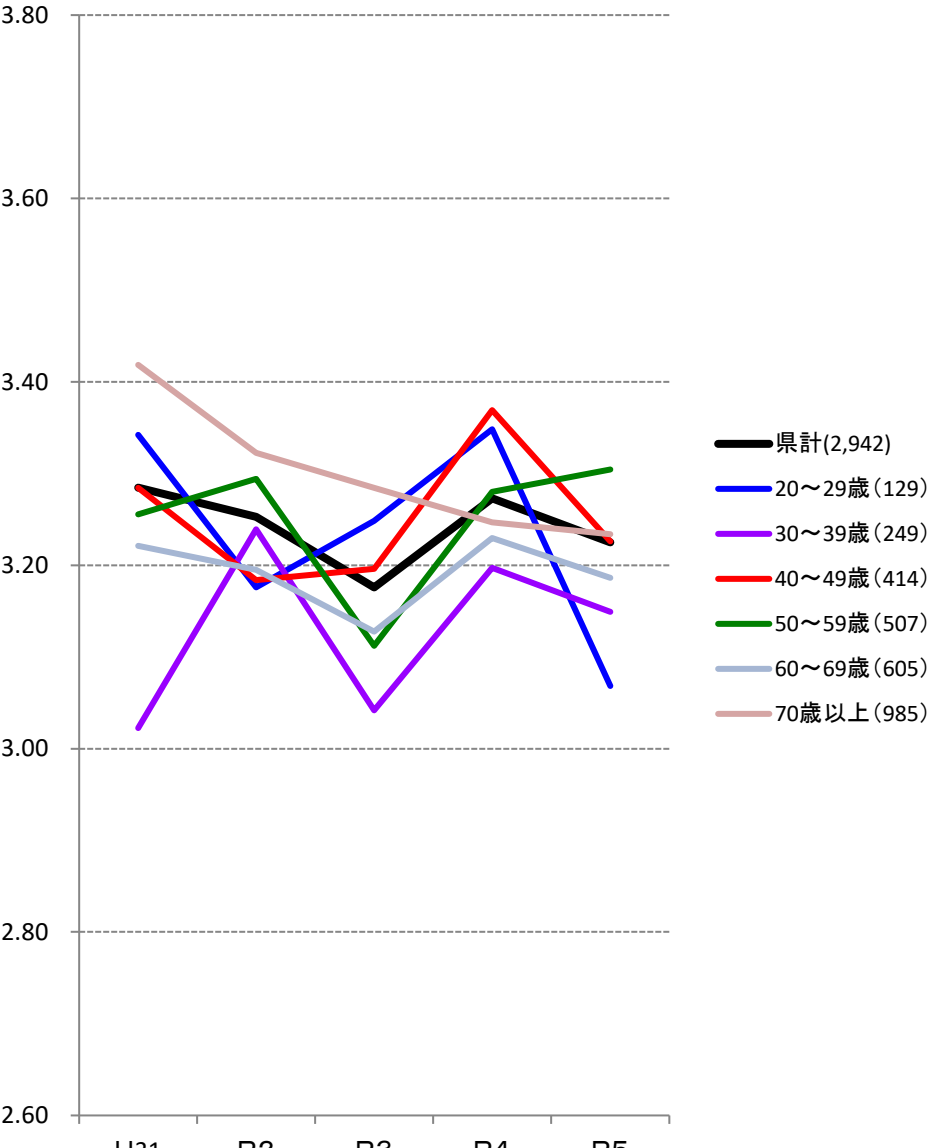
【県計】【分野別実感】⑪地域の歴史や文化に誇りを感じますか。

- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。
- ・令和5年調査結果において、属性別に見ると、職業別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
職業別では、会社役員・団体役員が高く、臨時雇用者が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県北広域振興圏が低かった。

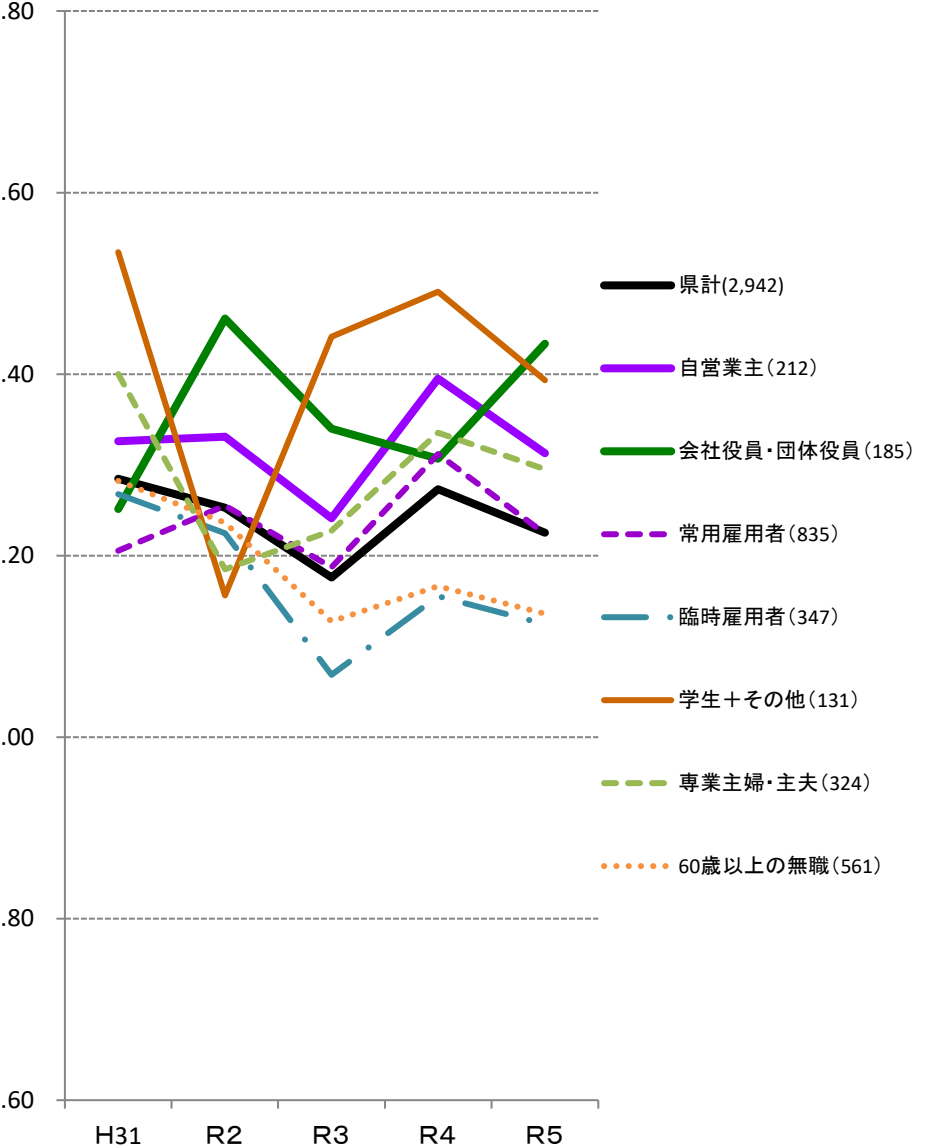
【＊】 地域の歴史や文化への誇り(性別)



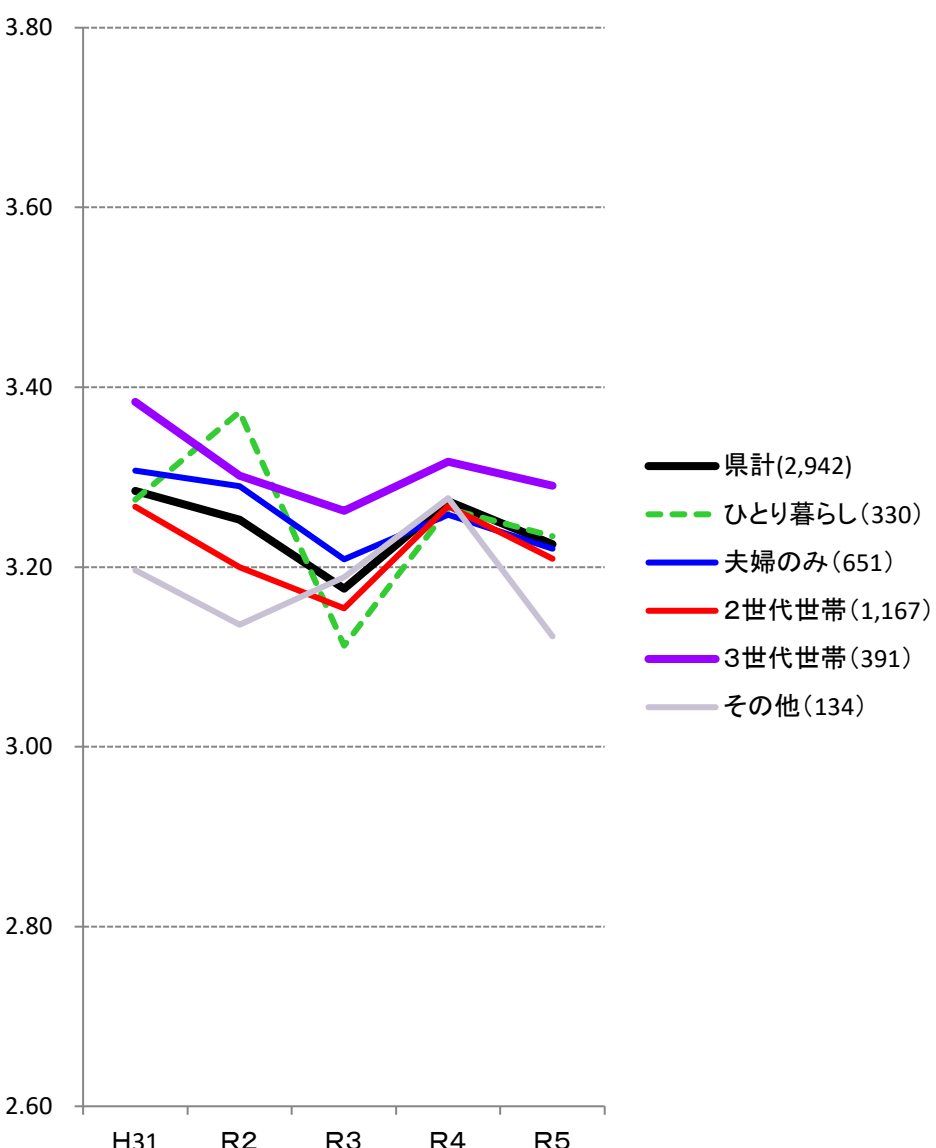
【－】 地域の歴史や文化への誇り(年代別)

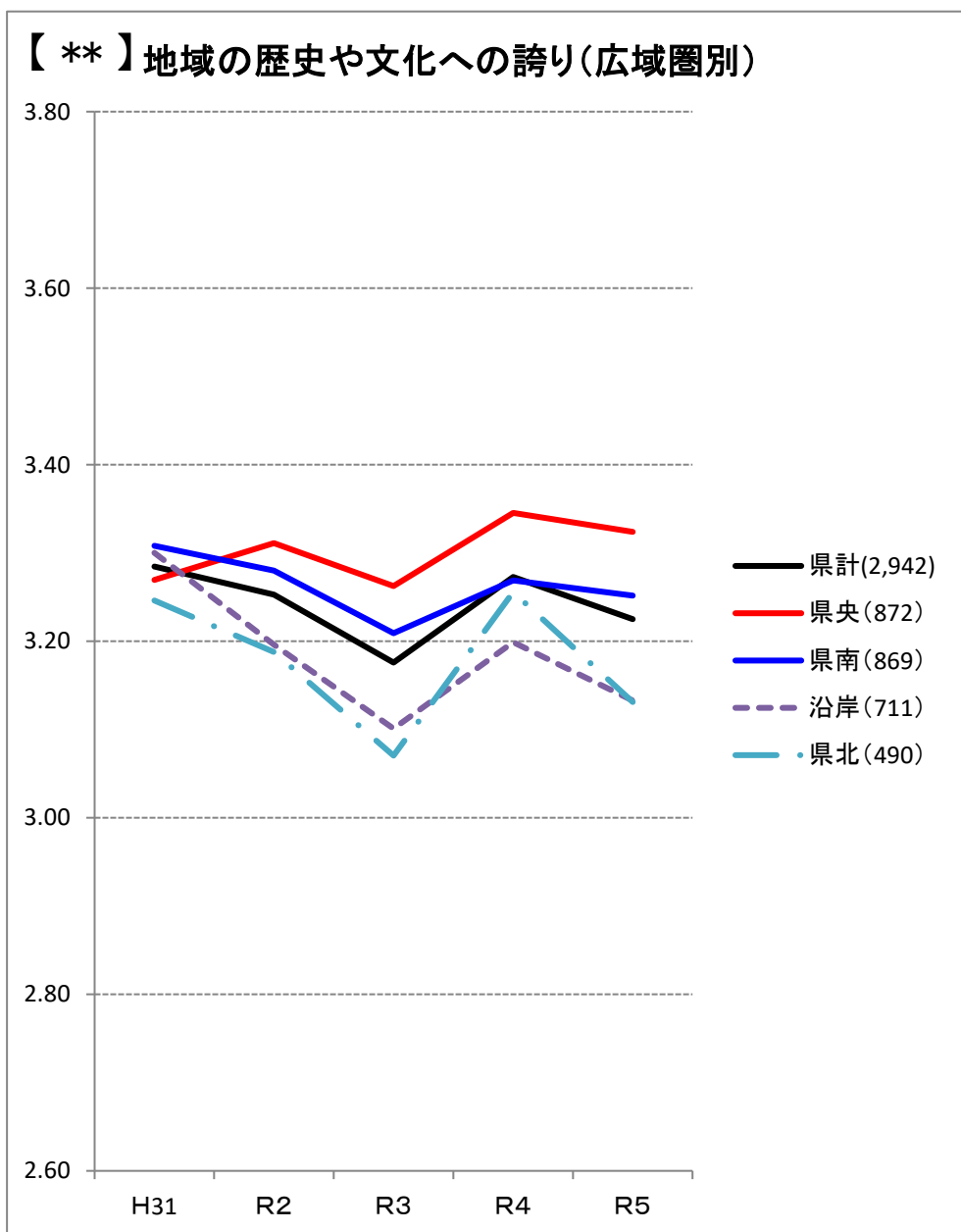
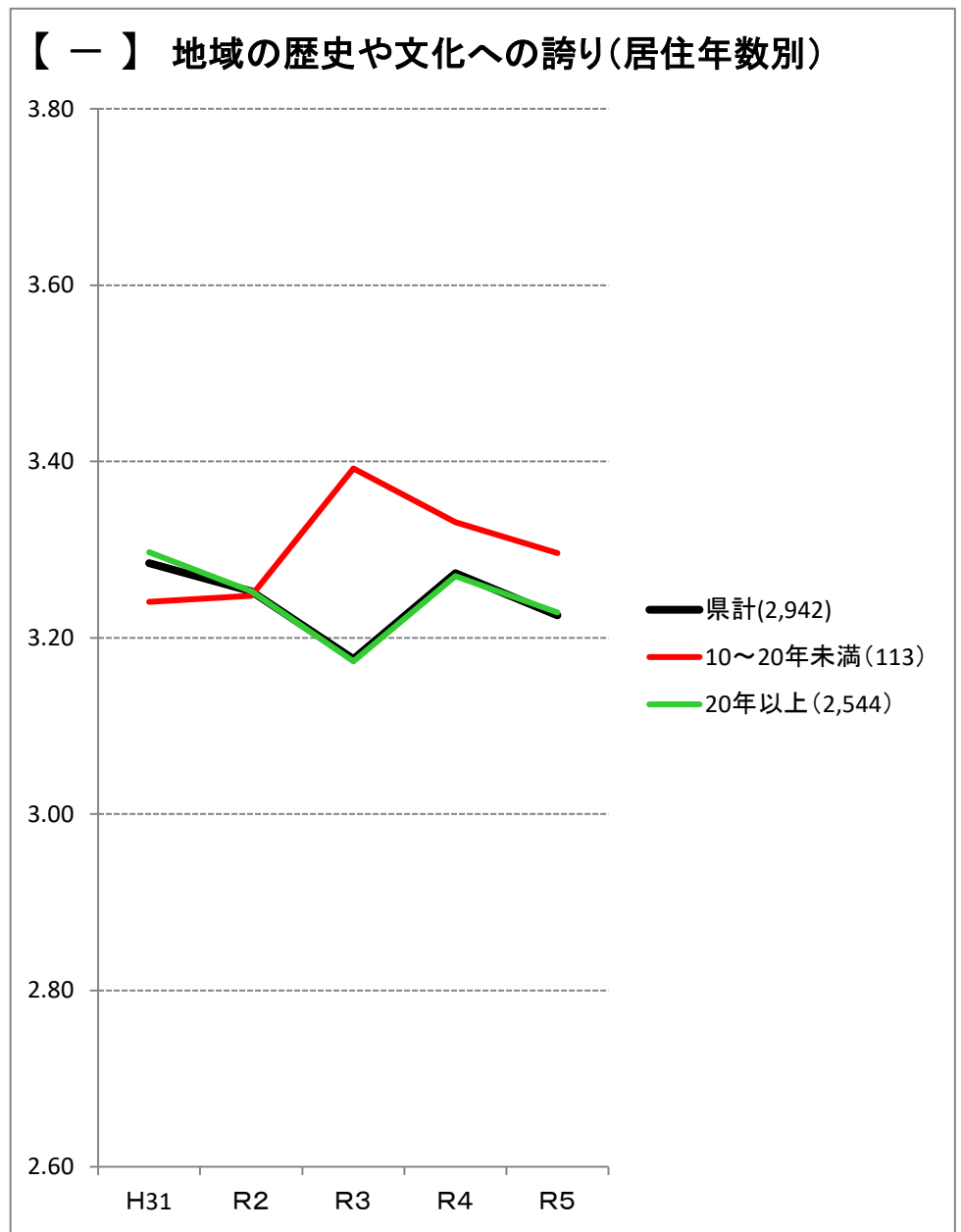
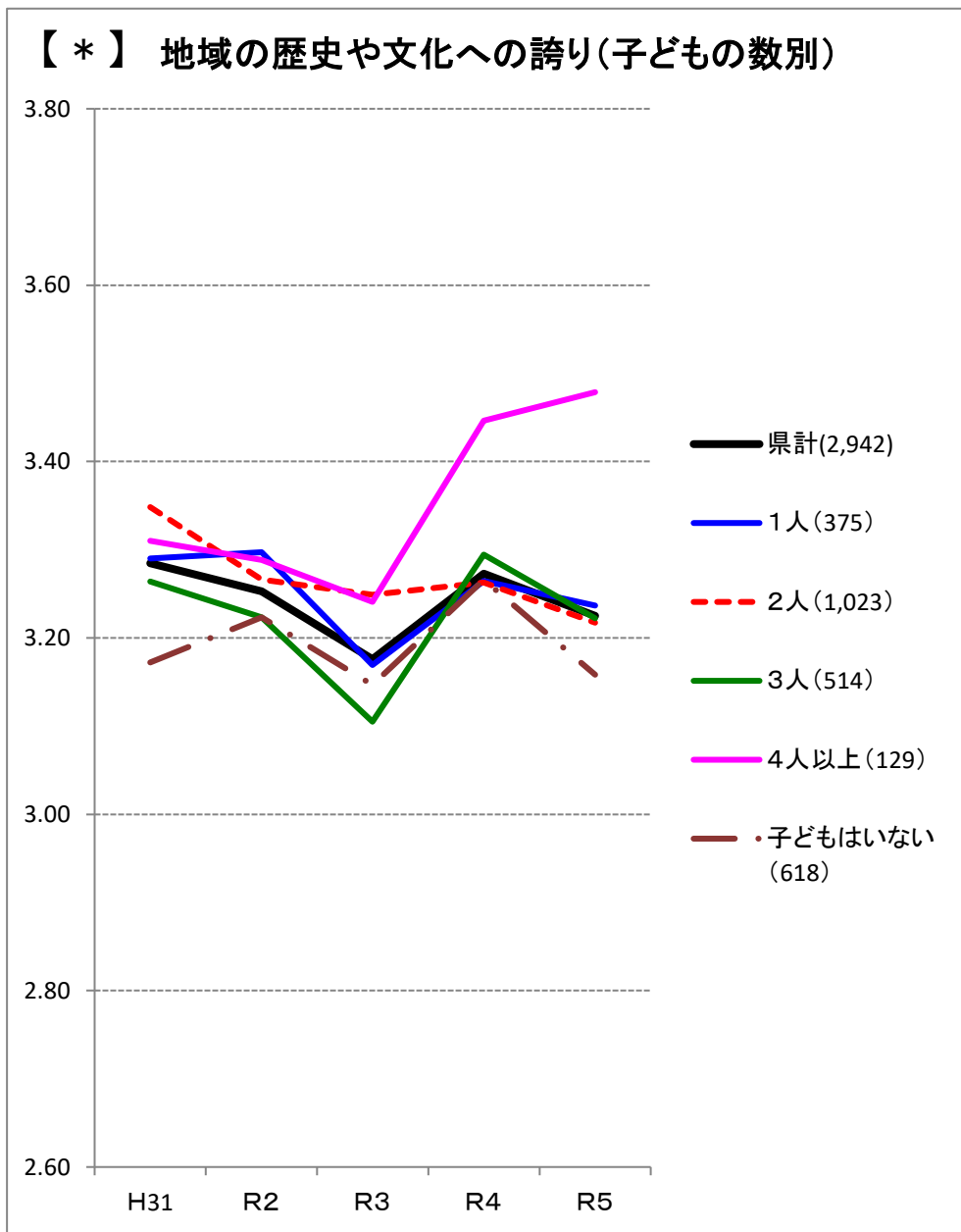


【**】 地域の歴史や文化への誇り(職業別)



【－】 地域の歴史や文化への誇り(世帯構成別)





■凡例■

グラフ左上の＊は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

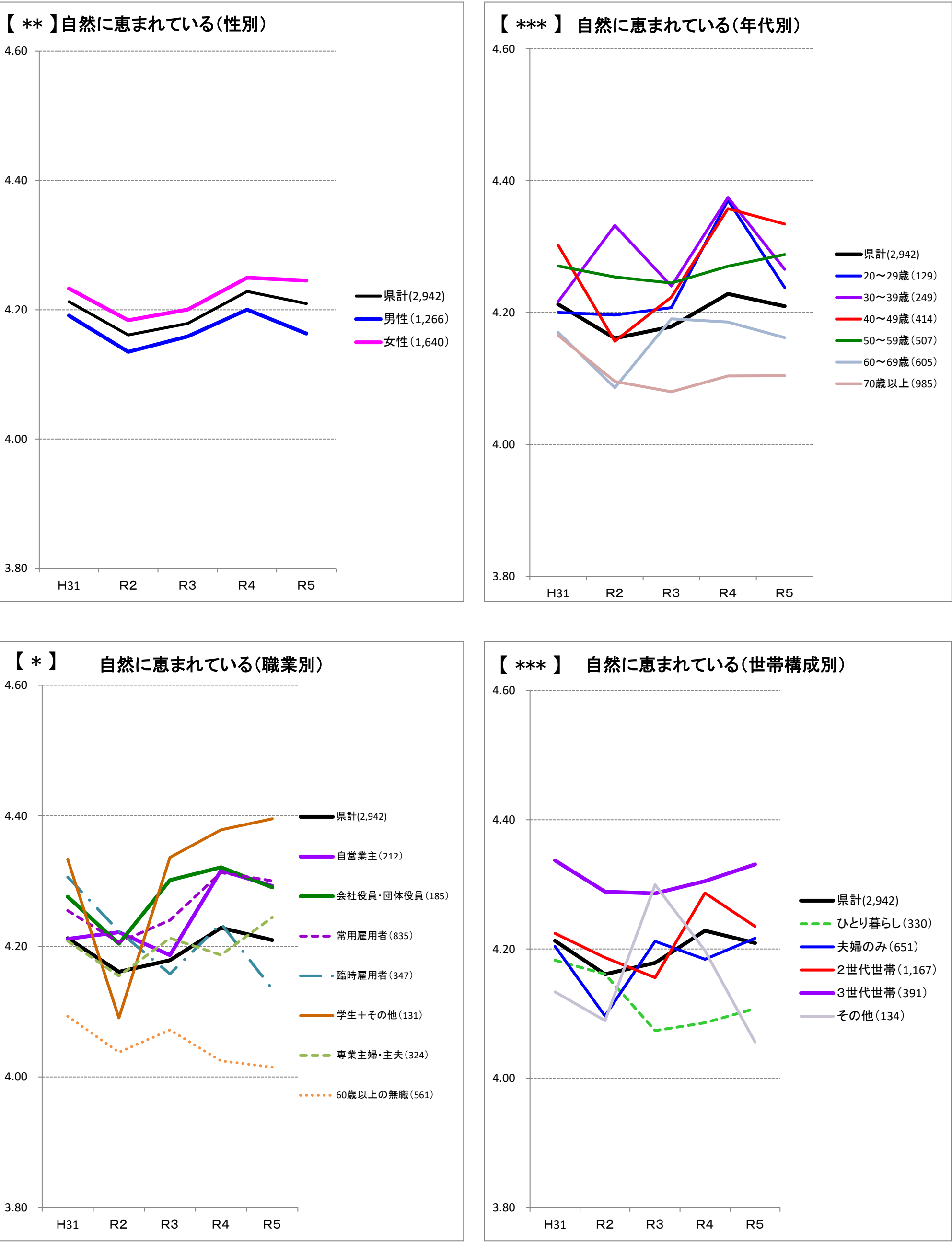
注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

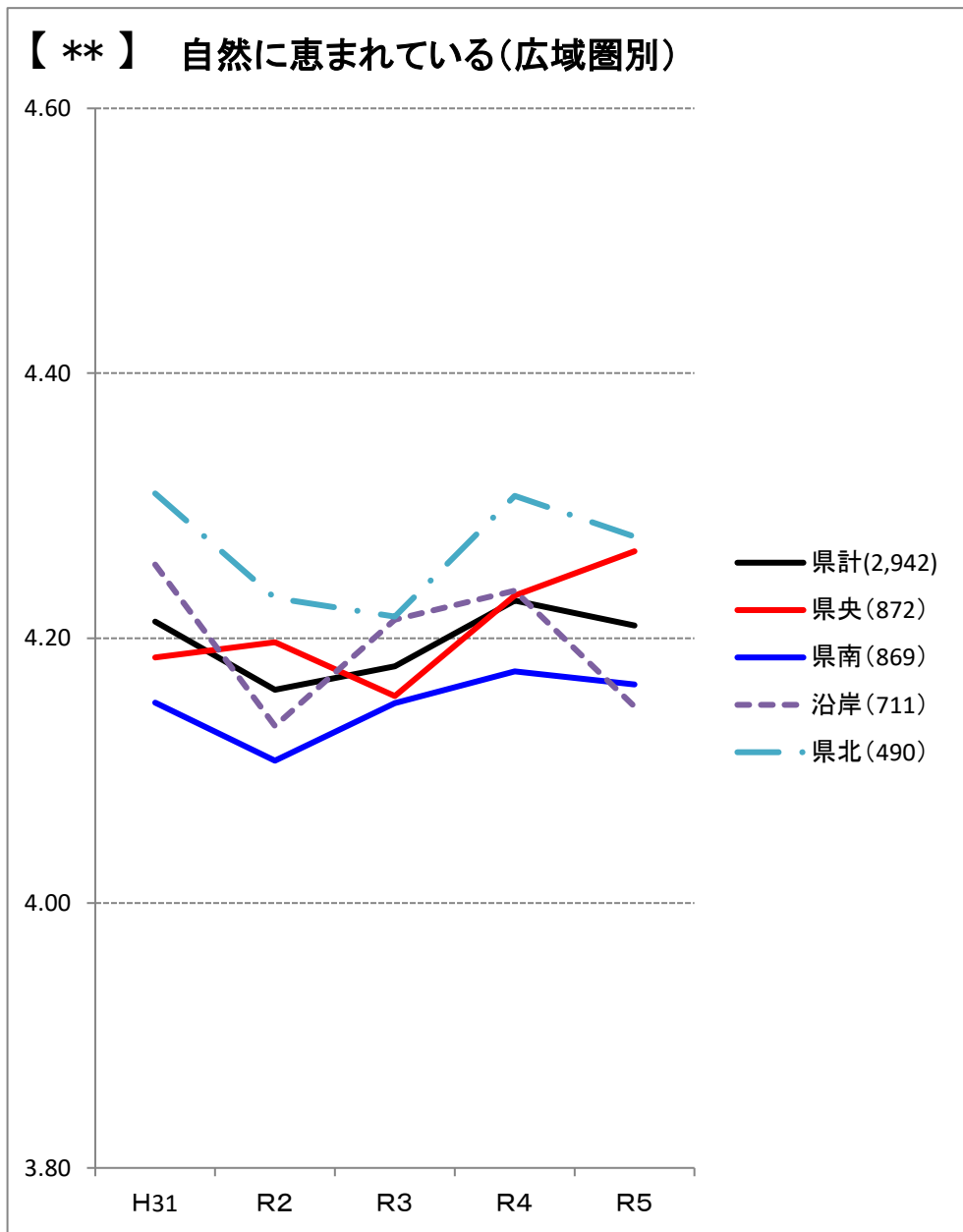
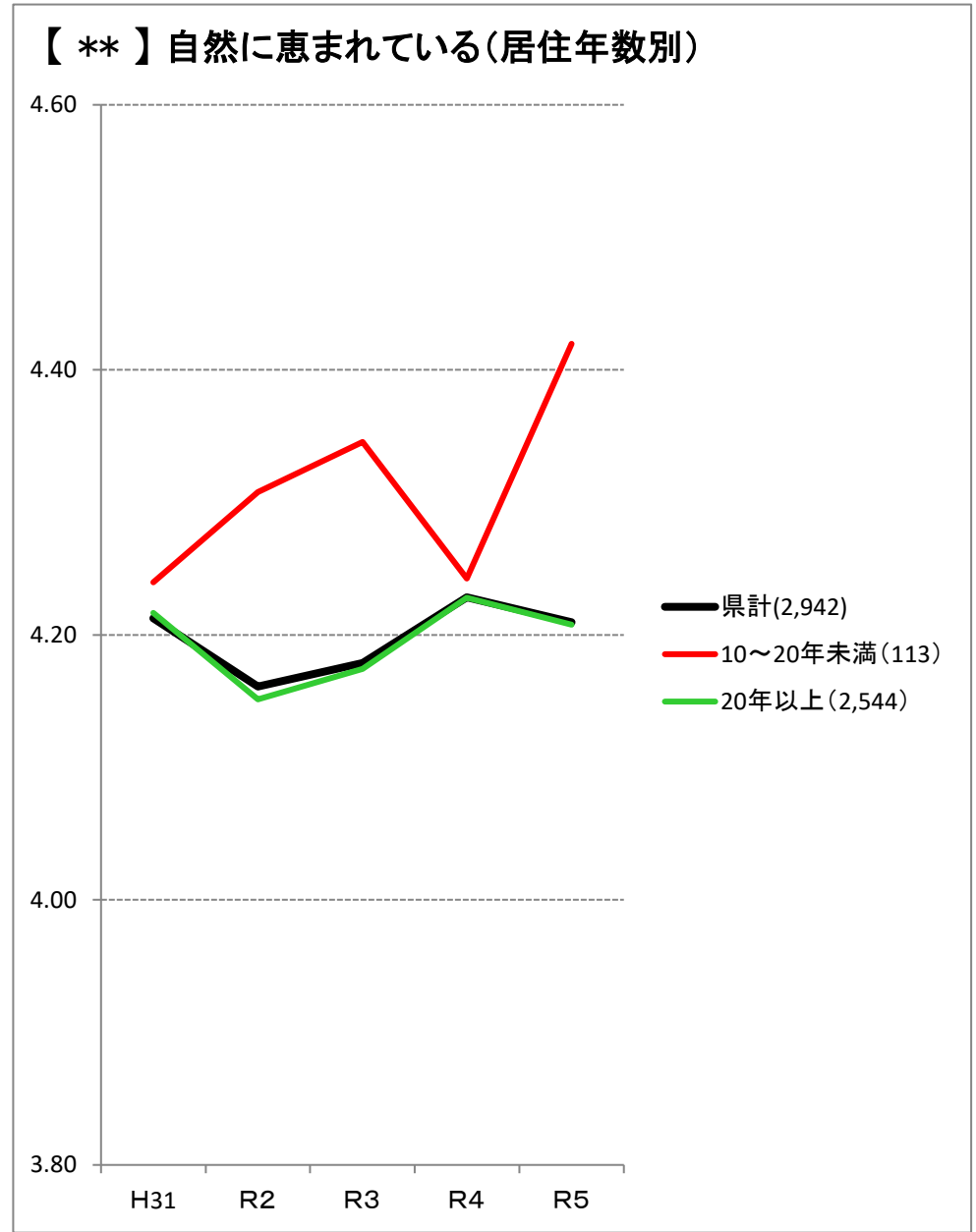
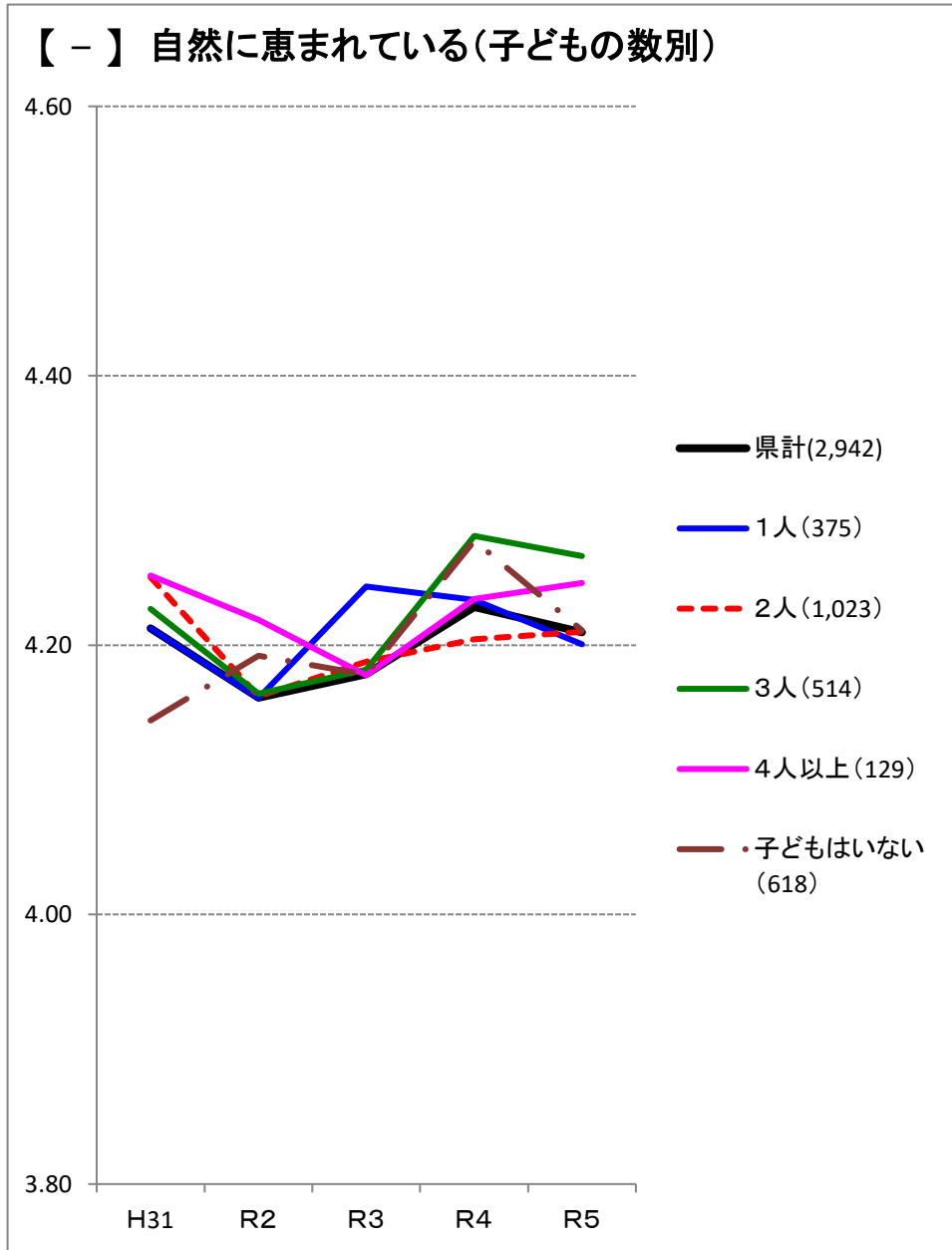
- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

【県計】【分野別実感】⑫自然に恵まれていると感じますか。

・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。
・令和5年調査結果において、属性別に見ると、性別、年代別、世帯構成別、居住年数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。

性別では、女性が高く、男性が低かった。年代別では、40歳代が高く、70歳以上が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、その他世帯が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県北広域振興圏が高く、沿岸広域振興圏が低かった。





■ 凡例 ■

グラフ左上の * は、R5調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【 *** 】 1%水準で差が有意(差が認められる)

【 ** 】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【 * 】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【 - 】 差が認められない

注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18~19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

県民意識調査の属性別分析【県計】

標本数

		H31	R2	R3	R4	R5
	県計	3,327	3,387	3,549	3,324	2,942
性別	男性	1,611	1,494	1,561	1,439	1,266
	女性	1,693	1,807	1,949	1,868	1,640
	その他		8	6	3	8
年代	18～19歳	38	43	53	52	36
	20～29歳	166	160	200	192	129
	30～39歳	293	273	320	293	249
	40～49歳	429	432	499	457	414
	50～59歳	553	598	604	525	507
	60～69歳	752	805	766	705	605
	70歳以上	986	1,028	1,009	1,005	985
職業	自営業主	309	291	282	298	212
	家族従業者	95	136	119	86	90
	会社役員・団体役員	207	198	240	222	185
	常用雇用者	885	885	1,025	890	835
	臨時雇用者	390	432	440	430	347
	学生＋その他	171	195	119	181	131
	専業主婦(主夫)	340	416	403	327	324
	60歳未満の無職	62	64	77	64	62
	60歳以上の無職	716	686	697	684	561
世帯構成	ひとり暮らし	402	374	431	372	330
	夫婦のみ	757	765	718	686	651
	2世代世帯	1,143	1,212	1,437	1,396	1,167
	3世代世帯	461	469	548	474	391
	その他	410	393	184	175	134
子どもの数	1人	428	442	450	450	375
	2人	1,232	1,227	1,270	1,171	1,023
	3人	637	646	682	631	514
	4人以上	160	168	159	132	129
	子どもはいない	710	725	802	735	618
居住年数	10年未満	101	95	100	87	99
	10～20年未満	125	131	145	166	113
	20年以上	2,961	2,994	3,174	2,958	2,544
広域圏	県央広域振興圏	938	966	1,011	962	872
	県南広域振興圏	1,014	993	1,080	1,002	869
	沿岸広域振興圏	800	837	833	801	711
	県北広域振興圏	575	591	625	559	490

注) R5のサンプル数が100人以下である以下の属性について、本資料においては、分析対象から外している。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18～19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」